

2026

営農のてびき



白山石川営農推進協議会

稲作のてびき

天候の急変に対応した稲作とし、高品質米を生産しましょう！

重点事項

【斑点米（カメムシ被害）防止】

- ・ 的確な防除の徹底で品質向上

【乳白粒防止】

- ・ 中干しの適期実施による籾数の適正化
- ・ 高温登熟対策で追加穂肥の施用
- ・ 土づくりの実施

【胴割粒防止】

- ・ 水管理と計画的な刈取り

《白山石川米基準》

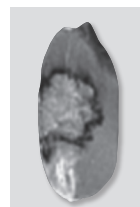
品質の高位安定化を図り、《白山石川米基準》の達成を目指す。



整粒

【外観品質】

- ・ 着色粒（斑点米） ゼロ
- ・ 乳白粒 3%以下
- ・ 胴割粒 2%以下



部分着色粒
（カメムシ）

しっかり記帳、安全・安心米づくり！

- ◎生産履歴の記帳運動を引き続き徹底することにより、農産物の安全性を保証し、消費者が安心して買える米づくりに努めましょう。
- ◎農薬の使用にあたっては、容器等のラベルを確認の上、使用基準を守って適正に使用し、忘れずに記帳しましょう。
- ◎使用する作物以外に農薬がかからないように細心の注意を払いましょう。

目 次

稲作のてびき

- 2026年度の基本方針
- 白山石川グレードアップ米づくり運動について 2～3
- 県育成登録品種の利用について 4
- 品種変更予定ほ場の対策こよみ 5
- コンバイン後方からの粃排出を少なくするには? 7
- 水稻品種別栽培こよみ 8～12
コシヒカリ、ゆめみづほ(石川43号)、
五百万石、カグラモチ、
- 水稻直播栽培こよみ (不耕起V溝直播、鉄コーティング)
..... 13～15
- 水稻作でできる環境配慮の取り組み 17
- 3月の作業(健苗づくりの準備) 18～19
- 4月の作業(育苗管理の手順、基肥) 20～23
- 5月の作業(田植、水管理、病害虫防除) 24～25
 - 水稻除草剤処理一覧表 26～27
 - 水稻除草剤の上手な使い方のポイント 28～29
- 6月の作業(中干し、中間追肥) 30～31
 - 除草の徹底によるカメムシ対策について 32～33
- 7月の作業(穂肥、水管理) 34～36
 - 斑点米カメムシ類対策<特集> 37
 - 水稻基幹防除 38～40
 - ドローンで農薬散布する皆さんへ(基幹防除体系) 41
- 8月の作業(収穫時期の管理) 42～43
- 9月の作業(適正な乾燥調製) 44
 - 異物混入防止の徹底 45～47
- 10月の作業(土づくりの実践) 48
 - 土壌分析結果と収量調査結果 49

大豆・大麦のてびき

- 大豆栽培こよみ 50～55
- 秋そば栽培こよみ 56～57
- 大麦栽培こよみ 58～59

参考資料

- 収量構成要素から組み立てる栽培管理 62～63
- 近年発生が見られる被害粒対策 64～65
- 育苗期病害、いもち防除対策 66
- 基肥・穂肥肥料の特徴 67
- 肥料銘柄一覧表 68～71
- 農薬の使用基準一覧 72～83
- 被覆肥料殻の流出防止について 84～85
- 箱剤の注意点 86
- 雑草対策
(藻類の対策方法、侵入性雑草、畦畔雑草、
刈跡除草による難防除雑草対策) 87～91
- 「GAP」でより良い農業経営を! 92～93
- スマート農業への一歩 94～95
- イノシシ被害対策について 96～97
- 農作業安全の徹底を!! 98～101
- 野焼きについて 102
- 道路の泥汚れ防止について 103
- 農業に伴う廃棄物は適切に処理しましょう! 104
- 2026年産水稻生産履歴記録簿 見本 105～106
- チャレンジ園芸! チャレンジ収益UP! 107～113
ブロッコリー、白ねぎ、丸いも
- 「よらんかいねえ広場」出荷者大募集 114

憩いのひと、き たばこ

藤井 信之

農作業は重労働である。春耕は、ほとんど家族で行なった。しかし、植え代、田植、紫雲英刈り、麦田、稲刈りなど、他からの人手を要するときは、村落共同体の「結い」による作業になった。家族だけの「たばこ」とは違った内容のものが運ばれた。お菓子、果物などのように、いくらか見栄を張ったものが出るのが特徴であった。

汗を流し、働いたあとの間食の味は、格別においしいものであり、その時の談合も、人々の心を通わすのに、よい機会であった。



白山石川グレード

〔10の推進技術〕を基本に〔6つの1か月対策〕

1

10の推進技術って……なに？

お米の品質を落とす主な要因には、①米粒が白濁する乳白粒、②米粒に亀裂が入る胴割粒、③カメムシによる斑点米があげられます。

それらの発生を抑え、きれいなお米に育てあげるためには、必要な技術がいくつもあります。

うま・きれ+1運動では、10の技術の実践を推進し、高品質なお米の生産を目指しています。

下の表で、1つずつ確認してみてください。たぶん、日頃からみなさんが実践されている技術ばかりのはずです。

近年の異常気象に負けないためにも土づくりに取り組みましょう。



10の推進技術

★どれだけ実践しているか、チェックしてみましょう！

推進技術		目 標	チェック
1	播 種 量 (うす播きの励行)	・ 1箱当たり120g (太植による過剰生育の抑制)	
2	育 苗 日 数 (健苗の育成)	・ 播種から田植えまで 1か月以内 (初期育成の確保)	
3	植 付 (細植えの励行)	・ 1株当たり3～4本 (適正茎数の確保) ・ 3cm程度の浅植え	
4	栽 植 密 度 (優良茎の確保)	・ 1坪当たり60株以上 (晩植は70株) (適正茎数の確保) ・ 活着後の浅水管理2～3cm	
5	適正な施肥 (栄養凋落防止 と登熟向上)	・ 高温登熟に対応した基肥一発施肥への切り替え ・ 生育状況に応じた追加穂肥の実施	
6	田植え時期 (早植えの防止)	・ 5月田植えの励行 (過剰生育の防止)	
7	中干し・溝切り (遅発分げつの抑制)	・ 田植え 1か月後 からの実施 (過剰生育防止) ・ 中干し期間 1か月 (コシヒカリ) の遵守	
8	除草・防除 (畦畔等の除草と カメムシ防除の徹底)	・ 春先から7月上旬までの除草管理徹底 ・ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9	水 管 理 (飽水管理の徹底)	・ 中干し後から出穂までの 約1か月 (コシヒカリ) の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの 1か月以上 の飽水管理	
10	刈 取 時 期 (適期刈取りの励行)	・ 籾の黄化程度に応じた刈取り	
	土 づ く り	・ 稲わらを鋤込む秋の田起こし ・ 深耕の目安は深さ15cm ・ 土づくり資材によるケイ酸不足の改善	

アップ米づくり運動

を実践し、品質向上と単収確保を目指しましょう。

2

6つの1か月対策って……なに？

「水稻」は「^{みず}水の^{いね}稲」と書くとおり、お米の生産にとって水は最も重要な要素であり欠かすことができないものです。その水は、みなさんがご存知のとおり、上手に活用することで、お米の食味・品質・収穫は安定します。

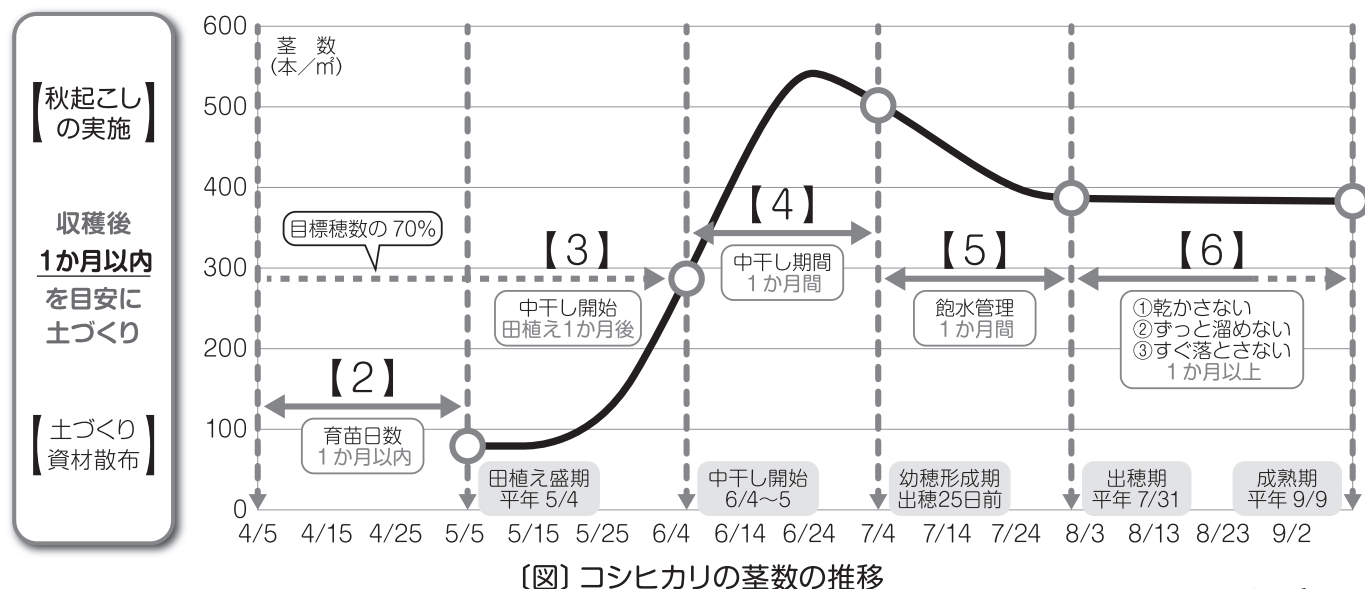
6つの1か月対策とは、お米の生育期間中の水管理を中心とした管理対策を、1か月ごとに区切りシンプルに整理したもので、うま・きれ+1運動の大きな技術柱の1つとなっています。

本対策も、10の推進技術と同様で、必要な「基本技術」であり、本年産から「6つの1か月」を意識し、対策を実践していきましょう。



6つの1か月対策のポイント

- 【1】刈取り後1か月以内を目安とした土づくり（秋起こし）
- 【2】育苗日数は、1か月以内（20～25日間）
- 【3】中干し開始は、田植え1か月後
- 【4】中干し期間は、1か月間（コシヒカリ）
- 【5】中干し後から出穂までは、約1か月間（コシヒカリ）の飽水管理
- 【6】出穂から刈取り直前までの1か月以上は、①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない

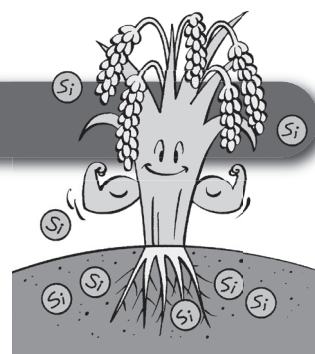


3

総合的な土づくりの実践

土づくりに必要なリン酸・ケイ酸・腐植が不足し、更に夏の高温による品質低下や倒伏などによる収量減少が増えてきております。まずは、基本の土づくりをしっかり行い、稲体を強くしましょう。

詳細については、48～49ページをご確認ください。



水稻生産者
の皆様へ

県育成登録品種は 産地の財産です

登録品種はルールを守って活用しましょう

県では、ブランド農林水産物の生産振興に必要な種苗や栽培技術を外部への流出から守るため、県が開発した登録品種※の利用時のルールを定めています。
〔「種苗法」及び「石川県の特色ある農林水産物を創り育てるブランド化の推進に関する条例」の改正に対応〕
利用に当たっては、以下のことを守り、生産者・ＪＡ・関係機関で一体となって本県を代表するブランドに育てていきましょう。

※対象品種

ひゃくまん穀、百万石乃白、石川門
の３品種です。



✓自家採種（自家増殖）は行わないでください

品質を安定させるため、全量種子更新し、自家採種（自家増殖）は行わないでください。

✓有償無償に関わらず、第３者への種苗（種子・苗）の譲渡はできません

種もみや苗を他の農家へ譲渡することはできませんのでご注意ください。

✓種苗（種子・苗）の盗難防止のための保管管理を徹底してください

種苗の第三者への流出防止のため、種苗や収穫物を施錠できる保管倉庫で保管する等の盗難防止措置の実施を徹底ください。

✓栽培技術等の情報の取り扱いに注意してください

県育成登録品種の栽培技術は種苗と同じく産地の財産です。流出防止のため、県の許可なく第三者（ひゃくまん穀・百万石乃白は生産者組織の会員以外の第三者）への提供はしないでください。

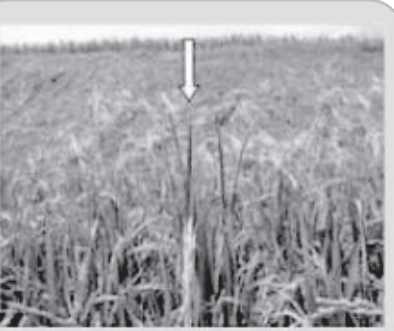

✓生産および収穫物の販売については生産者組織が定める方針に従ってください

〔ひゃくまん穀・百万石乃白〕

栽培には生産者組織への加入が必要です。また、生産者組織が定める生産・販売方針を遵守願います。

この資料に関する問合せ先 ＪＡ白山営農部 TEL 076-273-5277
石川県農林水産部生産振興課 TEL 076-225-1621
石川県石川農林総合事務所農業振興部 TEL 076-276-0371

・ 水稻の連作で前作と異なる品種を作付する場合は、必ず移植栽培にて下記の対策を実施しましょう！

月日	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	備考
水田作業	<div> <div>秋耕起</div> <div>刈株の2番穂の捻実</div> <div>↓</div> <div>＜除草剤散布で早期に枯らす＞</div> <div>◎近年高温により、収穫時期・刈株再生が早いため、まず除草剤処理が第一！ その後は耕起せずに冬季の寒さで死滅させる △除草剤散布出来ない場合は、2番穂が出穂する前にすぐ耕起！ 落ちた種子の生存率は高まる可能性あり</div> <div>↓</div> <div>土壤表面に落ちた種子</div> <div>↓</div> <div>＜耕起せず冬季で死滅率を高める＞</div> </div> <div> <div>春耕起</div> <div>入水</div> <div>荒代かき</div> <div>代かき</div> <div>移植</div> <div>中干し</div> <div>最高分げつ期</div> <div>幼穂形成期</div> <div>飽水管理</div> <div>出穂期</div> <div>成熟期</div> <div>収穫</div> </div> <div> <div>除草剤①</div> <div>除草剤②</div> <div>除草剤③</div> <div>除草剤④</div> <div>抜き取り①</div> <div>抜き取り②</div> <div>抜き取り③</div> </div> <div> <div>育苗</div> </div>												<div>  </div>
漏生イネの生育	<div> <div>← 出芽期間 →</div> <div>落ちた種の多くは秋に出芽 さらに刈株からは2番穂が出穂する</div> </div> <div> <div>← 出芽期間 →</div> <div>・代かき後5日から出芽が始まる ・一様に出芽せず、断続的に発生</div> </div> <div> <div>← 出穂 →</div> <div>・出穂は品種によって前後</div> </div>												<div>  </div>
防除ポイント	<div> <div>9月：除草剤処理（前作の収穫後） 落ちた種、2番穂を撲滅！</div> <div> <div>・収穫後、耕起前に除草剤①「プリグロックスL液剤」を散布し、発生密度を減らす</div> <div>・かかった部分しか枯れないため、散布ムラが無いよう丁寧に散布する。</div> <div>・除草剤出来ない場合は、2番穂が出穂する前に耕起する</div> </div> <div> <div>4月：代かき丁寧な代かき水漏れ防止！</div> <div> <div>・浅水で代かき</div> <div>・発生密度が高いほ場は、2回代かき実施（1回目代かき後に出芽した個体を埋め込むため間隔7日以上あける）</div> </div> <div> <div>5月～6月：除草剤処理処理後は田面を出さない！</div> <div> <div>・代かき～田植えまでの期間は3日間程度とし、除草剤効果を高める</div> <div>【除草剤の散布時期】</div> <div>2回目</div> <div>田植同時または田植直後</div> <div>3回目</div> <div>2回目の処理後10日</div> <div>4回目</div> <div>3回目の処理後10日</div> </div> <div> <div>7月～8月：抜き取りほ場確認と抜き取りで異品種を混入させない！</div> <div> <div>・再生すると穂が出るため、株ごと抜き取る</div> <div>【抜取作業時期】</div> <div>1回目：7月下旬</div> <div>2回目：8月上旬</div> <div>3回目：8月中旬</div> </div> </div> </div> </div></div>												<div>異品種発生ほ場の写真</div> <div> <div>＜株の抜き取り＞</div> <div>上記の写真を参考に</div> <div> <div>・出穂が栽培品種と異なる株を抜き取る</div> <div>・刈払っても、再生して穂をつけるので効果は不十分となる</div> </div> </div>
防除方法	<div> <div>＜除草剤による防除＞</div> <div>除草剤効果が途切れないよう田植え後3回連続、約10日間隔で処理する</div> <div>※※代かきと田植えの期間を短くする（3日程度）※気温上昇に伴い、代かき後の漏生イネの出芽も早まる</div> <div>【必須】第1葉発生後は効果が無い！断続的に発生する出芽直前の種を狙って複数回、除草剤を処理することが基本！</div> </div> <div> <div>除草剤①：9月 前作収穫後</div> <div>プリグロックスL （秋期稲刈後又は春期水田耕起一ヶ月前～直前まで） 使用薬量：800～1000ml/10a 希釈水量：100～150L/10a</div> <div>除草剤②：移植直後、田植え同時</div> <div>ソルネット1キロ粒剤 （移植時～移植後30日まで） 使用量：1kg/10a</div> <div>除草剤③：2回目処理後10日</div> <div>ベッカク1キロ粒剤 （移植時～移植後30日まで） 使用量：1kg/10a</div> <div>除草剤④：3回目処理後10日</div> <div>ナイスミドル1キロ粒剤 （移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで） 使用量：1kg/10a</div> </div>												

コンバイン後方からの粃排出を少なくするには？

漏生イネの発生源として、2番穂の結実以外に、刈取り時のロスも考えられます。

コンバインによる収穫では、脱穀と選別をほ場内で刈りながら行うため、どうしても選別しきれなかった一部の健全な粃がほ場内に排出されてしまいます。

漏生イネ発生源を減らすだけでなく、せっかく実った粃の収穫ロスを減らす観点でも、下記の点に注意して刈取り作業を実施するよう心がけてください。

最大の要因

コンバイン内部の脱穀・選別部が詰まり、選別能力を超えて刈取りを進めると、後方のワラ排出部から、健全な粃が排出されてしまう！

じゃあ、どうすれば・・・？

ポイント1 濡れた状態で刈らない

- 朝露や雨など、濡れた状態で刈ると、内部の選別部（図1）が詰まりやすくなります。
- 選別部が詰まった状態で刈取りを続けると、選別能力が低下し、ワラ等と一緒に健全粃が後ろから排出されやすくなります。
- 「濡れモード」等が搭載されている機種では、上記のような条件のときには必ず選択するようにしてください。



ポイント2 走行スピードを上げすぎない

- 「走行スピードが速い＝選別部にも高負荷がかかる」ため、稲が濡れている等で選別能力が低くなりやすい条件のときには、スピードを落とすことが重要です。
- 走行スピード（＝刈取り量）に対し選別能力が低下している状態がゲージ（図2）（メーター部に示される「シーブ」等）に表示されている場合には、スピードを落として、選別が追いつくのを待ってください。
- 上記のような条件のとき、エンジン回転数が落ちるとともに、刈取り量に対し選別能力が追いついていないことを示す警告音が鳴動する機能があります。その場合は、エンジン回転数が正常域に戻るまで、足を止めて（走行停止して刈取りをストップ）ください。



ポイント3 整備・清掃をきちんと実施する

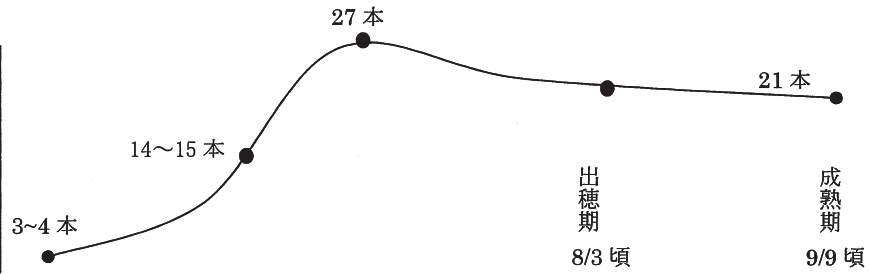
- コンバインの中を開けて、「受網」や「揺動板」、「ストロラック」等、選別部の詰まりをこまめに清掃してください。
- ワラ排出部の受板（図3）を上下に調整できる機種では、取付位置を高い方に調整した方が健全粃の排出が少なくなります。
- 掃除口のフタが閉まっているかの確認はもちろん、粃の流れる各部のパッキンが劣化していないか等もチェックしてください。



コシヒカリ栽培ごよみ

目標収量構成要素

栽 植 密 度	60株/坪
一 株 穂 数	21 本
一穂着粒数	74 粒
登 熟 歩 合	85 %
千 粒 重	22.5 g
収 量	540kg/10a

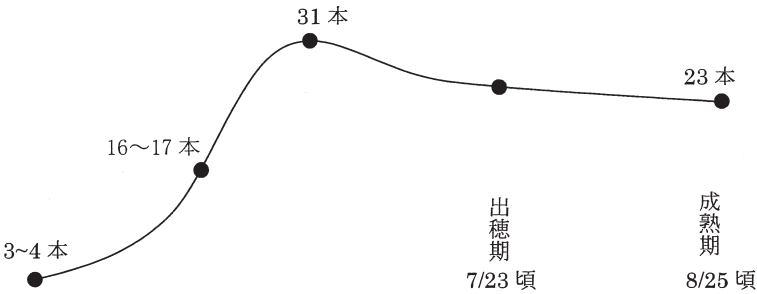



生育時期	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	育苗期間			田植期	活着期	分げつ期			最分つ期	高げ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期			成熟期	
栽培のポイント	○ 薄播きによる健苗の育成 適正播種量 120 g/箱																	
	○ 苗の生育に応じた 温度・水管理																	
水管理のポイント	○ 適正な水管理による 初期分げつの促進																	
	○ 3 cm の浅植え 3 ~ 4 本植え																	
施肥設計	○ 中干しの開始(田植1ヶ月後) 確保された時点 目標穂数の70%が																	
	○ 飽水管理の実施 中干し終了(幼穂形成期前)																	
栽培上の留意点	○ 穂肥 出穂18日前 (幼穂長約10 ~ 15 mm) (○追加穂肥)																	
	○ 病害虫防除																	
	○ 害虫防除																	
	○ 適期刈取り 落水(刈取り4 ~ 3日前)																	

ゆめみづほ(石川43号)栽培ごよみ

目標収量構成要素

栽 植 密 度	60株/坪
一 株 穂 数	23 本
一穂着粒数	70 粒
登 熟 歩 合	85 %
千 粒 重	23.0 g
収 量	570kg/10a

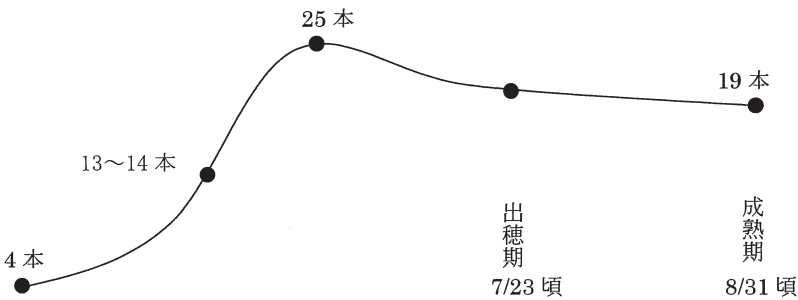


生育時期	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月																						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																				
	育苗期間			田植期	活着期	分げつ期			最分つ期	高げ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期		成熟期																						
栽培のポイント	○薄播きによる健苗の育成 120 g/箱			○田植期 ○3 cm の浅植え ○3 ~ 4 本植え	○活着期 ○適正な水管理による初期分げつの促進	○中干しの開始(田植一ヶ月後) 目標穂数の70%が確保された時点			○最分つ期 ○中干し終了(幼穂形成期前)	○高げ期 ○飽水管理の実施	○幼穂形成期 ○穂肥 出穂23日前 (幼穂長約2~3mm)	○穂ばらみ期 ○(追加穂肥)	○出穂期 ○病害虫防除	○登熟期 ○害虫防除		○成熟期 ○適期刈取り ○落水(刈取り4~3日前)																						
水管理のポイント	<div>やや深水 浅水 田干し 中干し 飽水管理(間断通水)</div>  <div>○浸種・催芽は十分に行う ○やや深水管理 ○暖かい日は浅水管理 ○夜水を入れ・早朝止める ○寒い日・風の強い日は深水管理 ○暖かく風の無い日に軽い田干しを励行 ○中干しは遅れないように開始 ○溝切りを励行 ○強度な中干しは避ける ○足跡に水が無くなったなら通水する [低温時は深水 フェーン現象時は通水] ○早期落水の防止 ○飽水管理に努める</div>																																					
施肥設計	10a 当たり施用量																																					
	<table><tr><th rowspan="2">施肥方法</th><th colspan="2">基 肥</th><th>穂 肥</th></tr><tr><th></th><th>施用量</th><th>出穂23日前</th></tr><tr><td rowspan="2">側条施肥(一発)</td><td>早生一発くんNEO</td><td>40~45kg</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>早生一発くんDX28</td><td>45kg</td></tr><tr><td>全層施肥</td><td>BB高度056号又はBBエコ028号</td><td>35kg</td><td rowspan="2">BBLP 有機060号 30kg</td></tr><tr><td>側条施肥(分施)</td><td>BB003-40号</td><td>35kg</td></tr></table>																			施肥方法	基 肥		穂 肥		施用量	出穂23日前	側条施肥(一発)	早生一発くんNEO	40~45kg		早生一発くんDX28	45kg	全層施肥	BB高度056号又はBBエコ028号	35kg	BBLP 有機060号 30kg	側条施肥(分施)	BB003-40号
施肥方法	基 肥		穂 肥																																			
		施用量	出穂23日前																																			
側条施肥(一発)	早生一発くんNEO	40~45kg																																				
	早生一発くんDX28	45kg																																				
全層施肥	BB高度056号又はBBエコ028号	35kg	BBLP 有機060号 30kg																																			
側条施肥(分施)	BB003-40号	35kg																																				
※高温登熟が予想される場合は、出穂7日前頃に更に追肥(BB とれるぞうで7~10kg/10a) が必要です。																																						
栽培上の留意点	<div>① 育苗時の草丈は伸びにくく短い、高温管理等で無理に伸ばさない。</div> <div>② 分げつの発生が旺盛で茎数が多くなるので、過剰な基肥を避ける。</div> <div>③ 中干しの開始が遅れないようにする。 ※中干し開始の目安:1株当たりの茎数 16~17本で始める。 ※中干しの開始は、田植後1ヶ月をメドに始める。 ※中干しは、幼穂形成期までに終える。</div> <div>④ 稈径は細く、稈質がやや弱い、稈長が80cmを超えると倒伏しやすい。</div> <div>⑤ 短稈多けつの品種なので、高温時には紋枯病が発生しやすい。</div> <div>⑥ 刈遅れと胴割粒が発生しやすく品質低下するため、籾の黄化を確認し適期刈取りに努める。</div>																																					

五百万石栽培ごよみ

目標収量構成要素

栽 植 密 度	60株/坪
一 株 穂 数	19 本
一穂着粒数	75 粒
登 熟 歩 合	85 %
千 粒 重	25.0 g
収 量	550kg/10a

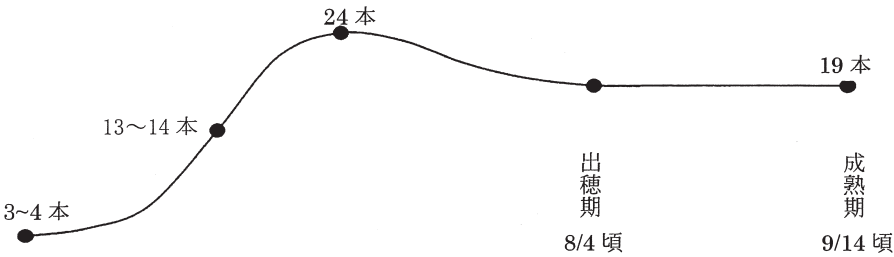


生育時期	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	育苗期間			田植期	活着期	分けつ期			高分け期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期			成熟期		
栽培のポイント	○ 薄播きによる健苗の育成 適正播種量 150 g/箱																	
	○ 苗の生育に応じた 温度・水管理																	
水管理のポイント	○ 適正な水管理による 初期分けつの促進																	
	○ 3 cm の浅植え ○ 3 ～ 4 本植え																	
施肥設計	○ 中干しの開始（田植一ヶ月後） 確保された時点 目標穂数の 70 % が																	
	○ 中干し終了（幼穂形成期前） ○ 飽水管理の実施																	
栽培上の留意点	○ 穂肥 出穂 18 日前 （幼穂長約 10 mm） ○（追加穂肥）																	
	○ 病害虫防除																	
水管理のポイント	○ 害虫防除																	
	○ 落水（刈取り 4 ～ 3 日前） ○ 適期刈取り																	
栽培のポイント	○ 病害虫防除																	
	○ 早期落水の防止																	
水管理のポイント	○ 飽水管理に努める																	
	○ 浸種・催芽は十分に に行う																	
施肥設計	○ やや深水管理																	
	○ 暖かい日は浅水管理																	
栽培上の留意点	○ 寒い日・風の強い日は 深水管理																	
	○ 暖かく風の無い日に 軽い田干しを励行																	
水管理のポイント	○ 溝切りを励行																	
	○ 中干しは遅れない ように開始																	
施肥設計	○ 強度な中干しは避ける 通水する																	
	○ 足跡に水が無くなったら 通水する																	
栽培上の留意点	【低温時は深水 フェーン現象時は通水】																	
	○ 早期落水の防止																	
水管理のポイント	○ 飽水管理に努める																	
	○ 早期落水の防止																	
施肥設計	10a 当たり施用量																	
	10a 当たり施用量																	
栽培上の留意点	10a 当たり施用量																	
	10a 当たり施用量																	

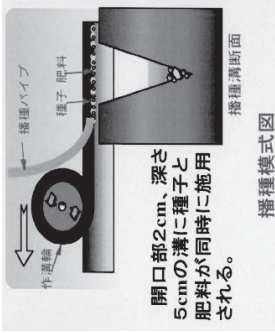
カグラモチ栽培ごよみ

目標収量構成要素

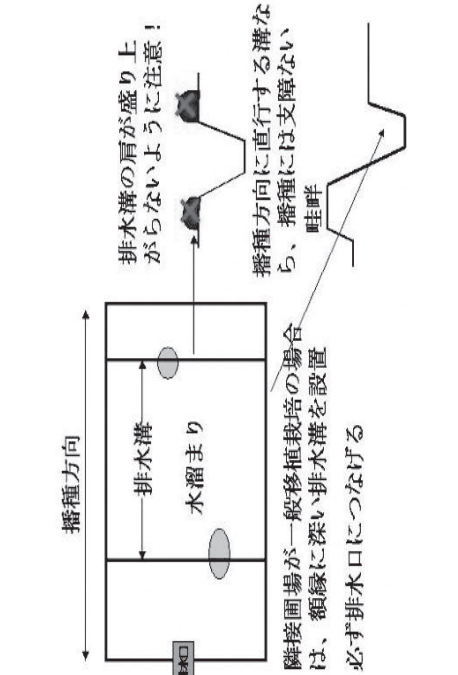
栽 植 密 度	60株/坪
一 株 穂 数	19 本
一穂着粒数	84 粒
登 熟 歩 合	85 %
千 粒 重	21.0 g
収 量	520kg/10a



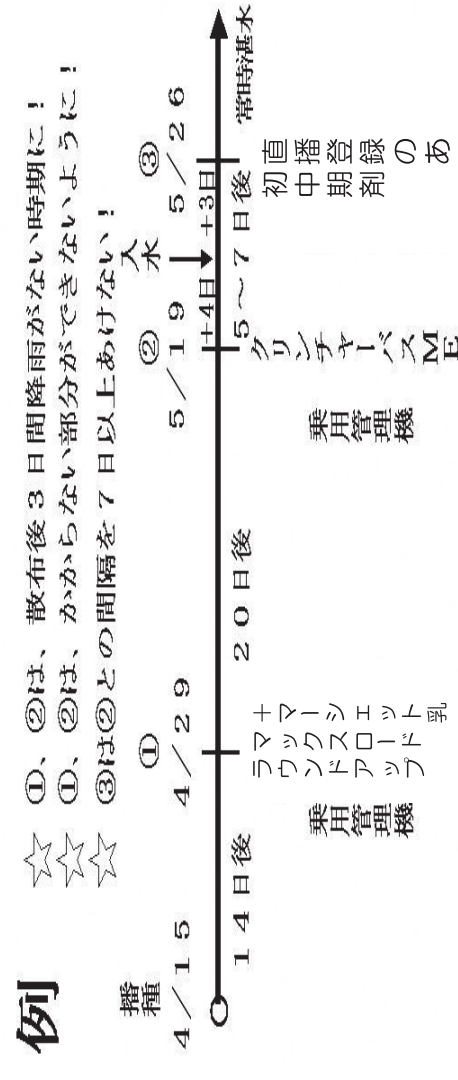
生育時期	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	育苗期間			田植期	活着期	分げつ期			最高分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期			成熟期		
栽培のポイント	○ 薄播きによる健苗の育成 120 g/箱			○ 3 cm の浅植え ○ 3 ~ 4 本植え	○ 適正な水管理による 初期分げつの促進	○ 中干しの開始(田植一ヶ月後) 目標穂数の70%が確保された時点			○ 中干し終了(幼穂形成期前)	○ 飽水管理の実施	○ 穂肥 出穂20日前 (幼穂長約8mm) (○追加穂肥)	○ 病虫害防除	○ 病虫害防除	○ 害虫防除	○ 適期刈取り ○ 落水(刈取り4~3日前)			
	○ 苗の生育に応じた 適正播種量 温度・水管理																	
水管理のポイント																		
	○ 浸種・催芽は十分に 																	

	時 期	生育等	作業名	使用資材 (10a当り使用量)	作業の目的・留意点																												
圃 場 準 備	9～10月		有機物の還元	稲わら、粃がら、大豆残留	前作物収穫後の残渣は燃やさない！																												
	10～11月		土づくり肥料散布	ユーキPK 40kg/10a 白山大地 または 鉄腕ソイル 60kg/10a	基肥は窒素成分のための、PK入り肥料と土づくり肥料を必ず施用する																												
	※圃場は秋～冬の水利用、乾田期の除草剤散布作業が効果的にできるよう、圃地化に努める				<table><tr><th>分類</th><th>肥料名</th><th>施肥量</th><th>P</th><th>K</th><th>Si</th><th>他</th></tr><tr><td>PK入りの肥料</td><td>ユーキPK</td><td>40kg</td><td>4.0</td><td>8.0</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>土づくり肥料</td><td>白山大地</td><td>60kg</td><td>1.8</td><td>-</td><td>12</td><td>Mg2.7</td></tr><tr><td></td><td>鉄腕ソイル</td><td>60kg</td><td>-</td><td>-</td><td>12</td><td>MgO6、Fe9.9</td></tr></table>	分類	肥料名	施肥量	P	K	Si	他	PK入りの肥料	ユーキPK	40kg	4.0	8.0	-	-	土づくり肥料	白山大地	60kg	1.8	-	12	Mg2.7		鉄腕ソイル	60kg	-	-	12	MgO6、Fe9.9
	分類	肥料名	施肥量	P	K	Si	他																										
PK入りの肥料	ユーキPK	40kg	4.0	8.0	-	-																											
土づくり肥料	白山大地	60kg	1.8	-	12	Mg2.7																											
	鉄腕ソイル	60kg	-	-	12	MgO6、Fe9.9																											
	10～12月		耕起・畦塗り		残渣のすき込み・砕土による代かき水の漏水防止、入水後の保水性向上																												
種子準備・播種作業	12～ 2月		冬期代かき		圃場の整地・均平、保水性の向上、雑草抑制、播種精度の向上 ※ 浅水代かきとし、汚濁水を落とさない ※ 残渣が吹き寄せた場所は、田面が乾きにくくなるため取り除く ※ 暗渠は5月下旬の入水まで開放状態にしておく 水質汚濁の防止対策とカリ成分の補給として、塩化カリ20kgを施用する																												
	3月末～4月初旬	播種前	種子消毒 種子殺菌	キヒゲンR-2フロアブル 原液130mℓ/乾籾6.5kg ルーチンシードFS（殺菌） 原液52mℓ/乾籾6.5kg ヨーバルシードFS（殺虫） 原液39mℓ/乾籾6.5kg	種子の腐敗防止、鳥害忌避として処理する 速乾性で風乾後に冷暗所で保管する ※ 浸種、催芽は実施しない（出芽率が低下しやすいため）																												
	4月上旬～中旬		播種機調整 施肥・播種	コシヒカリ乾燥種子 BBV溝直播一発くん 播種量・施肥量は右表参照	<table><tr><th>品種</th><th>播種量</th></tr><tr><td>コシヒカリ</td><td>6.5kg</td></tr></table> <table><tr><th>肥料名</th><th>施肥量</th><th>N</th><th>P</th><th>K</th></tr><tr><td>BBV溝直播コシ一発くん</td><td>25kg</td><td>10.3</td><td>-</td><td>-</td></tr></table>	品種	播種量	コシヒカリ	6.5kg	肥料名	施肥量	N	P	K	BBV溝直播コシ一発くん	25kg	10.3	-	-														
	品種	播種量																															
コシヒカリ	6.5kg																																
肥料名	施肥量	N	P	K																													
BBV溝直播コシ一発くん	25kg	10.3	-	-																													
				 <p>開口部2cm、深さ5cmの溝に種子と肥料が同時に施用される。</p> <p>播種機構造図</p>	播種開始前に肥料、種子ホッパーの開度調整ダイヤルにより落下量を調整する 圃場が乾いた時期に、V溝直播播種機を使用し播種する ※ 作溝輪が磨耗（4cm未満）している場合は取り替える ※ 作溝輪はPTOにより正転方向の回転で使用する（無回転ではV溝が崩れる） ※ 播種速度は毎秒1.2～1.5mが理想（枕地での旋回は地面が荒れないよう慎重に） ※ 作業機を上げ下ろしする際、播種パイプの泥詰まりやスレに注意 ※ 作業中に機械を止めた場合は、1～2m戻って再スタートする ※ 枕地や外周の仕上げの際は、肥料や種子が重複しないように（倒伏防止） V溝直播専用肥料（基肥一発肥料）を播種同時に播種溝に施用する 播種後に水を通し、発芽を促進させる ※ 雑草の発芽を抑え、除草剤の効果を高める																												
乾田期間の除草	4月中旬～下旬	(出芽直前)	除草剤散布 (1回目)	ラウンドアップマックスロード 葉量500mℓ/水50ℓ/10a マーシエット乳剤 葉量1～1.5ℓ/水50ℓ/10a	乗用管理機を使用し、飛散防止のため泡噴口を用いる ※ 出芽直前に散布するのが理想だが、圃場周辺に移植水田がある場合は、安全のため田植え開始前に作業を終える																												
	4月末～5月上旬	出芽期			目標苗立数：100～150本/㎡（20～30本/㎡） 乗用管理機を使用し、霧噴口を用いる																												
	5月中旬～下旬	稲3葉期	除草剤散布 (2回目)	クリンチャーバスME液剤 葉量1ℓ/水100ℓ																													
	1回目除草剤散布の20日後頃																																
※入水後の栽培管理	5月下旬	稲3葉期	入 水		3回目除草剤散布の2～3日前から入水し、止水管理（中干し不要）																												
	5月下旬	稲3～4葉期	除草剤散布 (3回目)		湛水状態で散布し、散布後7日間は3～5cmの止水とする ※ 入水後、水が落ち着くのを待ってから除草剤を散布する ※ノビエ3葉期までに散布する（収穫75日前まで）																												
	2回目除草剤散布の7日後頃まで																																
	6月下旬		追肥 随時防除 随時防除	PKけい酸 40kg/10a オリゼメート1キロ粒剤 1kg/10a 中後期剤 シブラスギア1キロ粒剤 1kg/10a BBとれるぞう 10kg/10a ※高温登熟年：収量品質対策	湛水状態で散布し、散布後7日間は3～5cmの止水とする ※ 葉いもち病予防 湛水状態で散布し、散布後7日間は3～5cmの止水とする ※ノビエ・多年生雑草の発生した場合																												
	7月上旬	最高分けつ期																															
8月上旬		追肥																															
8月中旬	出穂期	基幹防除	※移植栽培に準ずる	登熟期間は、上根を維持するため 水の入替を実施																													
収穫2日前		落 水			※ 耕土が硬く根の伸長が少ないため、 田面を乾かすと干ばつの影響を受けて収量・品質低下の原因となるので、 収穫2日前まで湛水状態にする																												
9月中旬	収穫期	収 穫			地耐力が大きいため、収穫作業が容易 ※ クサネムは収穫前に必ず抜き取る																												

排水溝の設置図



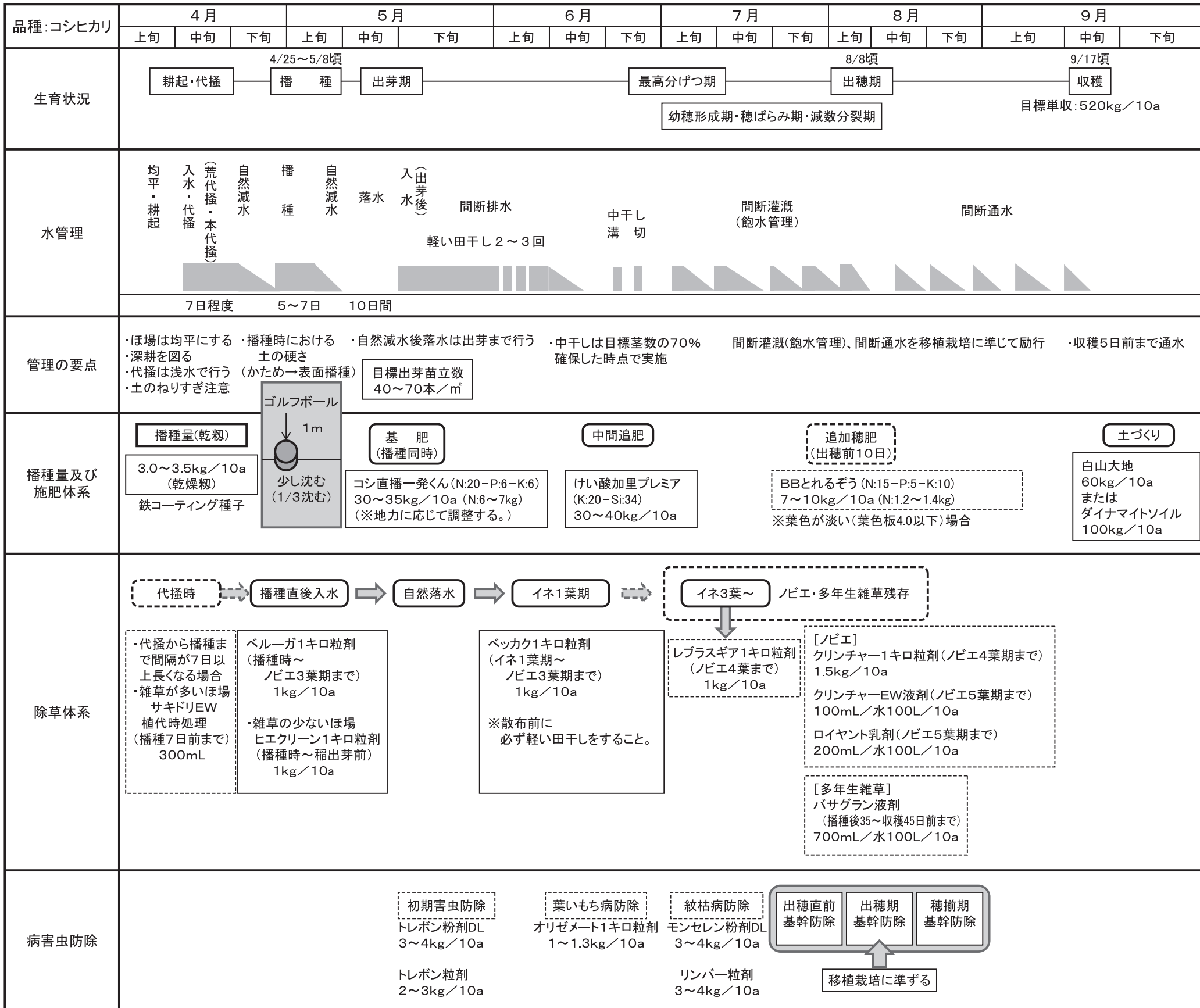
除草剤の散布例



例

- ☆ ①、②は、散布後3日間降雨がない時期に！
- ☆ ①、②は、かからない部分ができないように！
- ☆ ③は②との間隔を7日以上あけない！

ほ場の設定条件； ●ほ場の均平度が高く、表面の硬さが均一なほ場を選ぶ ●漏水田など水持ちの悪いほ場は避ける ●ホタルイ、多年性雑草の発生の少ないほ場を選ぶ
●用水が豊富で、移植栽培の収穫後も通水可能なほ場を選ぶ ●未熟な堆肥を多用した田、強湿田などは避ける ●漏生モミ対策として、前年作と同じ品種の作付けとする



※鉄コーティング種子は購入

湛水直播栽培は、育苗管理、苗の運搬等の春作業の労働力軽減が大きく、収穫時の作業分散に有効です。

収量構成要素

㎡当たり穂数	380本/㎡
一穂着粒数	75粒
㎡当たり着粒数	28,500粒/㎡
登熟歩合	85%
千粒重	21.8g
収量	520kg/10a

管理のポイント

- ほ場設定条件を守り作付けを行う。
- 播種前に発芽試験を実施する（鉄粉依作業時に酸化させるため熱がでる（作業条件によっては高温となる）。
- 播種時に種子が埋没すると極端に出芽不良となるので、田面を適正な硬度にする（移植栽培より固め）。
- 播種時期は、4月25日～5月10日頃を目安とし、播種量を厳守する。
- 播種直後に除草剤を散布し、5～7日間は湛水状態を保ち、その後、出芽までの落水状態を徹底する。
- 出芽後は、速やかに入水し（鳥害防止）、イネ1葉展開以降の除草剤使用は遅れないように適期に散布する。
- 有機物の分解に伴うガスを除去を図るため、中干しまでに2～3回軽い田干しを行い発根を促し、分げつの発生を促す。
- 過剰分げつ及び、下位節間の伸びによる倒伏防止のため中干しを適期に実施する。
- 稲体及び根の健全化を図るため間断灌漑（飽水管理）、間断通水等の水管理を徹底する。
- 葉いもち防除及び基幹防除を実施するとともに、発生予察情報をもとに異常発生時には、追加防除を実施する。

使用時期別除草剤一覧

播種直後入水時	除草剤名	使用量
	雑草が多いほ場（は種時～ノビエ3葉期） 収穫75日前まで	
	ペルーガ1キロ粒剤	1kg/10a（1回） 湛水処理
	雑草が少ないほ場（は種時～稲出芽前） 収穫45日前まで	
	ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg/10a（1回） 湛水処理

イネ1葉期 （イネ1葉期～ノビエ3葉期）	除草剤名	使用量
	ベッカク1キロ粒剤	1kg/10a（1回） 湛水処理

随時	除草剤名	使用量
	ノビエが多いほ場	
	クリンチャー1キロ粒剤	1.5kg/10a（2回以内） 湛水処理
	クリンチャーEW	100mL/水100L/10a（2回以内） 落水処理
	ロイアント乳剤	200mL/水100L/10a（2回以内） 落水処理
	多年生雑草が多いほ場	
	バサグラン液剤	500～700mL/ 水70～100L/10a（2回以内） 落水処理
	ノビエ・多年生雑草が多いほ場	
	レプラスギア1キロ粒剤	1kg/10a（1回） 湛水処理

水稲作でできる環境配慮の取り組み

1. 早期「秋起こし」の実践

🔍 「秋起こし」時のポイント

- ・刈取後できる限り早い時期（目安は **1 か月以内**）に実施する。
有機物を分解する土壌微生物は気温が高い環境下で活発になります。
- ・ロータリーの回転は「**ゆっくり**」、深度は「**浅く**」
車速は 1.5～2.0km/h、深度は 5cm を目安に実施する。

✳ 環境配慮だけじゃない！「早期秋起こし」のメリット

- ・翌年春季のほ場のガス湧きを軽減！
- ・塊茎雑草（クログワイ・オモダカ等）の塊茎根を死滅！
- ・塊茎根を表面に露出させ、冬季の低温と乾燥にさらすことで死滅します。



2. 「浅水代かき」の実践

被覆殻の流出の“9割”は代かき時に発生します。
「浅水代かき＋自然落水」によりほ場外への流出防止に努めましょう！

🔍 浅水代かきのポイント

- ・入水前のほ場の均平化
- ・水尻の管理
止水板は十分な高さまで積み上げましょう。
- ・適切な入水量
事前に入水し、土に水を十分浸透させ、田面が 80～90%露出したら代かきを行いましょう。
- ・自然落水の実施
強制落水は被覆殻の流出を招くため、控えましょう。



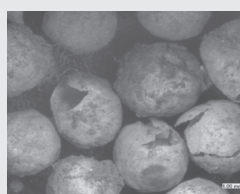
【浅水の目安：田面が 8～9 割露出した状態】

✳ 環境配慮だけじゃない！浅水代かきのメリット

- ・水量が少ないため、田面が均一になる。
- ・稲わらや稲株、雑草などの残渣が、土の中にしっかり埋め込まれる。（稲株の浮きが少なくなる）
- ・土が均一になり、苗がムラなく植えられるため、活着と生育が良くなる。
- ・残渣や雑草の種が土中に深く埋め込まれるため、雑草が生えにくくなる。

3. 崩壊性の高い「Jコート」入り一発肥料の活用

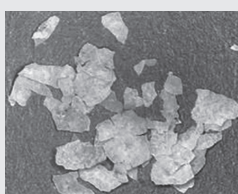
「Jコート」とは、被覆肥料の被膜の崩壊性を高め、ほ場外への流出を今までよりも軽減できる環境に配慮した被覆肥料です。



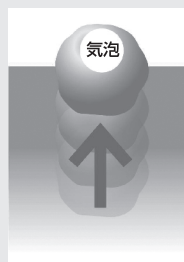
〈従来品〉



軽微な
力で崩壊

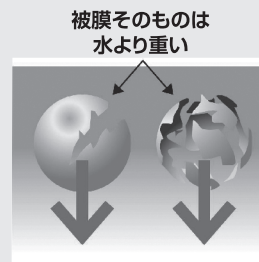


〈Jコート〉



気泡が入っていると
浮上しやすい

〈従来品〉



被膜そのものは
水より重い
崩壊していれば浮上しにくい
（気泡が抜けやすいため）

〈Jコート〉

3月

健苗につながる的確な播種準備

芽出しが揃いスクスク育つ条件を整えます。

作業スケジュール

床土準備

<床土の準備は出来ていますか？>

☆自家製の床土を準備する際は、『土壌pH』に注意しよう！

【土壌pHの目安：pH4.5～5.5】

	要 因	影 響	調整資材
pH5.5以上	菌による苗立枯病が急増	ムレ苗	サンドセット
pH4.5以下	土壌中アルミニウムが溶出	イネ出芽時に根の伸長に影響	くん炭

<種子消毒はしっかりしていますか？>

☆籾がらに付着している病原菌を死滅させ、健全苗を育てましょう！

【消毒薬で種子消毒をする場合】

薬 剤 名	希釈倍数	使用時期	使用方法	薬 液 温	対象病害
テクリードC フロアブル	200倍	浸種前	24時間 種子浸漬	15～18℃	いもち病、ごま葉枯病、ばか苗病、褐条病 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、苗立枯病

※薬剤吹き付け種子の場合は、最初の3日間は水を交換しない。

【種もみに対する水量及び薬量】

種籾重量	3kg	5kg	10kg	15kg	20kg	40kg
水量(ℓ)	6	10	20	30	40	80
薬量(ml)200倍	30	50	100	150	200	400

- ①薬液の中で2～3回上下にゆすって空気を追い出し、種籾を完全に浸漬しましょう。
- ②消毒中は、2～3回は攪拌して、効果ムラの防止に努めましょう。
- ③環境に配慮し、廃液処理は適切に行いましょう。(簡易廃液処理キット「イレートキット」がお勧めです。)

種子消毒

<浸種・催芽の日数はしっかりとっていますか？>

☆芽出し揃えを良くし、播種後の出芽も早くさせて健全苗を育てましょう！

【浸種積算温度100℃以上の目安】

種類	水温	10℃の場合	15℃の場合
うるち米 酒造好適米		12日	8日
もち米		10日	7日

- 浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日に1回水の入れ替えを行う。
但し、最初の2日間は水を交換しない。
(薬剤吹き付け種子の場合は3日間)

●浸種の注意

高温にしない。
(20℃以下)水のとり替え、
酸素の供給、
有害有機酸
(発芽阻害物質)
の除去。

浸 種

催 芽

播 種

【催芽の目安】

催芽日数	2.5～3.0日	催芽適温	28～30℃
		催芽程度	1mm(鳩胸)

【催芽温度と日数】

催芽温度	28℃	30℃
芽が出るまでの日数	2.3日	1.9日
幼根が出るまでの日数	2.8日	2.6日

- コシヒカリ、ゆめみづほ、五百万石は発芽しにくい品種なので、芽が十分揃うように注意する。

■催芽の方法

- 育苗器を利用する場合の温度計のセットは28～30℃にする。芽出し袋を育苗器の棚にならべる場合は、袋の厚さをできる限り薄くする。

(厚さがあると外側と内側で催芽ムラが生じる。途中で

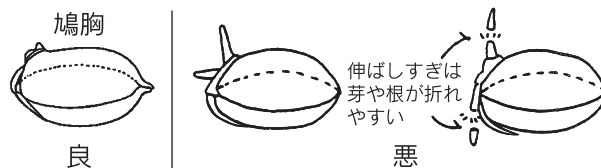
芽出し袋を反転する。また、電熱の育苗器は乾燥するので、芽出し袋の上に濡れたものをかけるとよい。)

- 循環式育苗催芽機(シャワー式催芽機)の温度セットは30℃とし、発芽が確認できたら直ちに電源を切る。一度使用した水は入れ替えを行い、重複使用しない。また、催芽はなるべく同一品種ごとに行い、混種催芽は行わない方がよい。

■芽出しの注意



- 芽出し時には十分酸素を供給する。
- 必ず発芽状態を確認し催芽を終了して下さい。80%以上鳩胸状態に！



<5月田植時期にあわせた播種作業を行っていますか？>

☆健全苗から健全な稲体への第一歩！

■1箱当たりの播種量

品 種 名	乾 籾 重
コシヒカリ ゆめみづほ(石川43号) カグラモチ	120g
五 百 万 石	150g

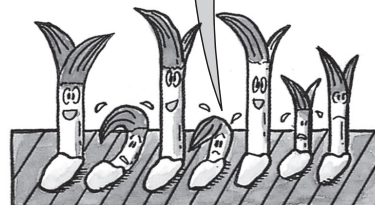
は種量を確認!!
厚播きになっていませんか?

(乾籾) 120g/箱



- 厚播きは苗質を弱くします。

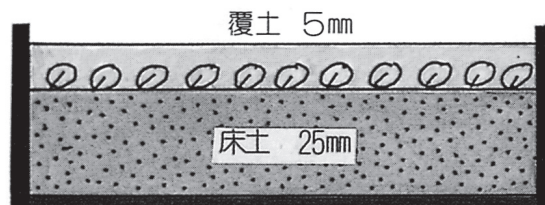
大きくなれないよう～



■田植時期にあわせた播種時期の目安

育苗等作業	田 植 時 期		
	5/5	5/10	5/15
催 芽	4/10	4/18	4/25
播 種	4/13	4/21	4/28
育苗期間	23	20	18

- 覆土は種籾のかくれる程度とする。



■育苗器内の温度は28～30℃とする

■厚播きによる品質低下に注意！

播き床は、稲の赤ちゃん(種籾)がスクスク育つベッドです。

ゆったりベッド(乾籾で120g/箱)で腰の太い子供(苗)に育てましょう。

厚播きになると、腰の細い徒長苗になり、苗の生育が遅れ、苗の体重が小さくなる。

更に苗の老化が早く、活着力が弱くなるため、植え遅れると植傷みが多くなり、分けつの出方が遅れて初期生育が悪くなる。

厚播きにするほど障害苗(カビ類・立枯れ病)の発生が多くなる。

4月

素直に育つ健苗づくり

田植え後に生育停滞の無い健康な苗に仕上げます。

① 適切な温度管理と水やりで健全な苗づくり

出 芽

◎一斉に芽を揃えよう。

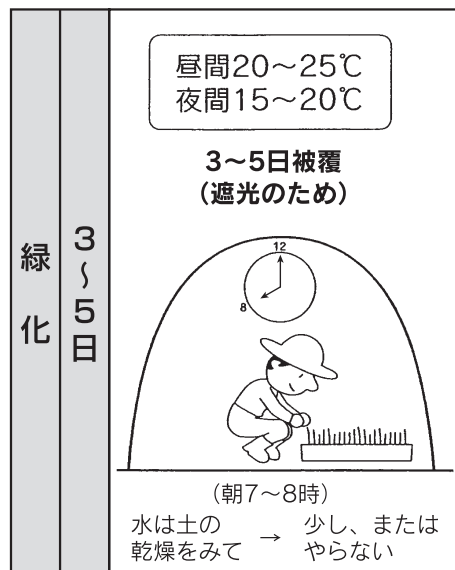
- 出芽日数…4日間 ● 温度管理…28～30℃
- 出芽目安…芽の長さが8mm～10mm程度。
- 水管理……基本的に、覆土後の灌水は行わない。
(覆土後の灌水は生育ムラの原因となるため、播種時覆土前に均一に灌水する)

緑 化

◎保温が第一、苗の素質が決まる。

- 緑化日数…3～5日間 (高温時には早めに硬化へ。)
- 温度管理…昼：20～25℃，夜：15～20℃
- 緑化目安…本葉1枚が完全に出揃うまで。
- 水管理……被覆資材を外した後、床土の中まで乾いている場合は、表面だけ湿るよう軽く灌水する (苗箱の底まで湿るのはやりすぎ)。

【注意事項…○ 出芽直後の白い芽は直射日光にあたりと白化現象を起こすので、寒冷紗等で被覆する。
○ 日中25℃以上に上がる場合は換気を行うこと。
○ 夜温が12℃以下の時は保温を行うこと。
○ 灌水は床土が乾くまで控えること。
灌水する場合は早朝 (7時～8時) に少し行うこと。
覆土の持ち上がりがある場合は軽く灌水し、芽をおちつかせる。
(種籾がみえたら再覆土する。)

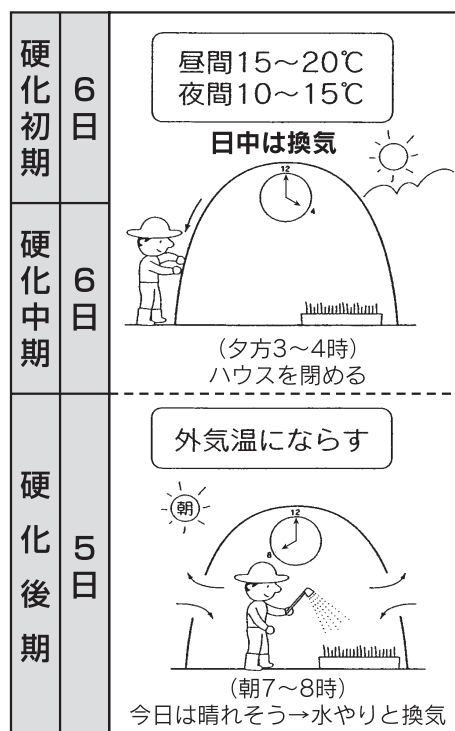


硬 化

◎きめ細かな水・温度管理で丈夫な苗づくり。

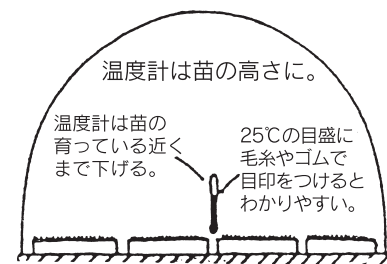
- 硬化日数…初期：6日間，中期：6日間，後期：5日間
- 温度管理…初期：昼は15～20℃，夜は10～15℃
中期：初期と同様に。
後期：外気温にならず。
- 水管理……初期：緑化期と同程度
中～後期：原則として1日1回、早朝気温の低いときに灌水する。

【換気の注意…初・中期：早い時期に冷たい風に当たらないよう注意する。
(夕方3～4時にはハウスをしめる。)
中・後期：日中の高温に注意し、早朝から換気する。
田植えの5～3日前から外気温にならし、極端な低温の恐れがない限り夜間もハウスをあけておく。
晴天時は床土が乾きやすいので、様子をみて1日1回～2回灌水する。】



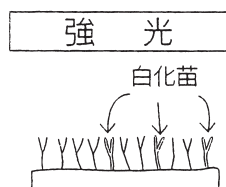
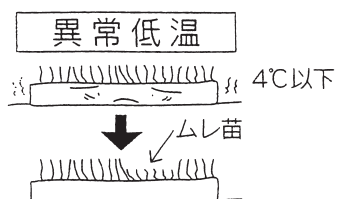
《温度管理と被覆資材使用の目安》

ステージ	緑化期	硬化初期	硬化中期	硬化後期	注意事項
日 数	3～5日間	6日間	6日間	5日間	※育苗日数 20～25日 ※緑化期は30℃ 硬化期は25℃ 以上にしない。 ※最低8℃以下に しない。
昼	温 度	20～25℃	15～20℃	15～20℃	
	被覆資材	○	△	×	
夜	温 度	15～20℃	10～15℃	10～15℃	
	被覆資材	○	△	×	

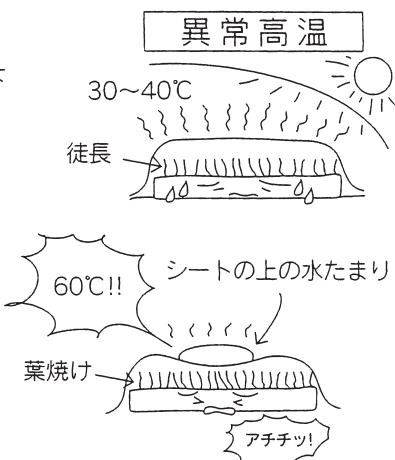


注) ○は常時必要、△は状況に応じて必要、×は不要。

緑化期の障害の例



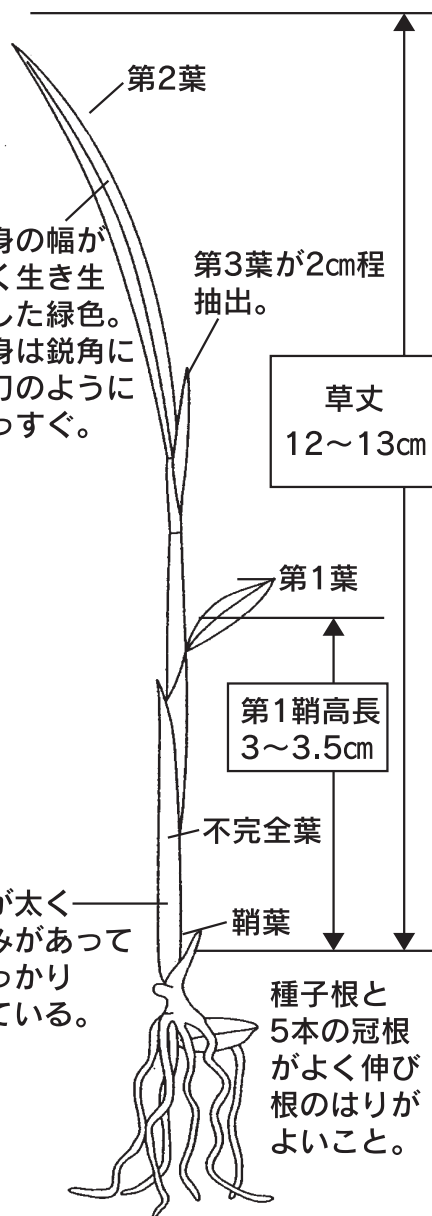
※温度が低すぎても高すぎてもよくないので温度管理に十分気をつける。



※田植え後、苗が冠水して欠株になることを避け、長めに苗を作ることは、軟弱苗を助長し逆効果です。苗は徒長させず水田の均平を図りましょう。

田植時の良い苗

※原寸大



◆ 箱育苗の生育障害と対策

※病状の詳細はP.66参照

病害名等	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	使用回数	使用方法
苗立枯病 (リゾプス菌(白カビ) トリコデルマ菌(青カビ) フザリウム菌 (白～淡紅色のカビ)	ダコレート 水和剤	400 ～ 600 倍	播種時から 緑化期 (但し播種 14日後 まで)	2回 以内	※使用 回数は 播種時を 含め 2回以内
いもち病 (苗いもち)		400 倍	播種時	1回	
苗立枯病 (ピシウム菌 フザリウム菌 (白～淡紅色のカビ) ムレ苗防止、 根の生育促進 移植後の活着促進	タチガレエース M液剤	500 ～ 1000 倍	播種時 又は 発芽後	1回	1箱 当たり 500ml 灌注
苗立枯病 (ピシウム菌 フザリウム菌 リゾプス菌) ムレ苗防止、 根の生育促進 移植後の活着促進	ナエファイン フロアブル	1000 ～ 2000 倍	播種時 から 緑化期	2回以内	1箱 当たり 500ml 灌注

③ ほ場準備

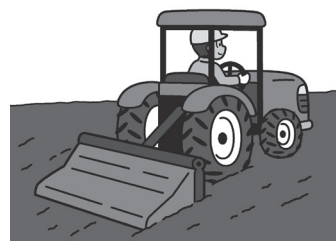
耕 起

【目的】

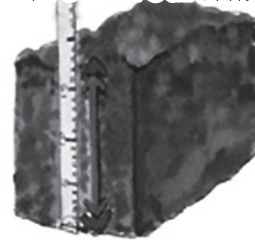
- ① 土を柔らかくし、深層部にまで空気を入れ、根の発育を良くすること。
- ② 田面にある稲わらや雑草を埋め込み、土壌中に有機物を増やし雑草発生を抑制すること。
- ③ 深層部の土を表面に出し、養分の分解を早めること。

【目標】

- ① 耕起深さは15cm以上を目指しましょう。
- ② 春の荒起こしだけでは稲わらが十分に腐熟せず、浮きワラ、根腐れ、地力低下につながります。稲わらの分解促進を図るには、春の荒起こしだけでなく、土づくり資材の散布と併せて、気温が高いうち（10月上旬頃まで）の秋起こしを実施しておきましょう。



作土深15cm~18cmを目標に!!



いまより2~3cm深くしましょう。

代かき(植え代)

【目的】

- ① 田面を平らにし、漏水を防ぎ、土壌を柔らかくし、苗を活着させやすくすること。
- ② 雑草を土壌中に埋め込むことによる物理的除草、田面を整えることにより水稻除草剤の効果を高めること。

【目標】

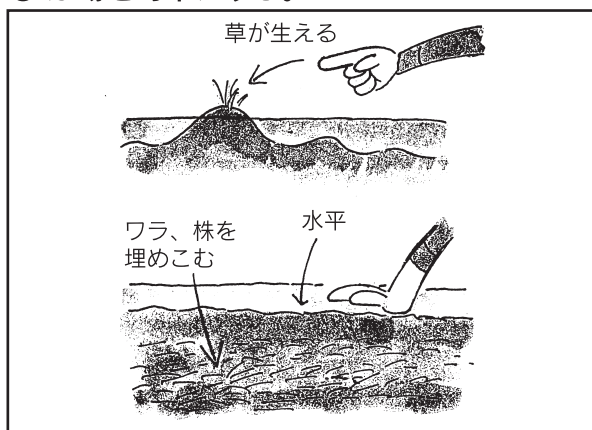
- ① 水管理をしやすくするため、また稲の生育を揃えるため、凹凸をなくし、均平に努めましょう。
- ② 代かきが終わった瞬間から雑草の再生が始まります。代かきから田植えまでの日数が空きすぎると取りこぼす雑草が多くなるので、代かきから5日以内に田植えを実施できるよう、春作業を計画しましょう。

● 代かきは、ねりすぎにならないように。



トラクターによる代かきの場合、枕地になる所はねり込みすぎないように注意する。
代かき時の水は少なめにして、ワラや春雑草が浮かないようにする。
※代かき作業後の強制落水はやめましょう。

● ほ場を均平にする。



田面が露出していると除草効果が落ち、また低い部分は薬害が出やすくなるので田面を均平にする。

畦 畔 除 草

【4月中に畦畔・農道を除草しましょう！】

- 斑点米カメムシ類はすでに4月から増殖を始めています。4月中に除草を実施して雑草がない状態とすることで、その後の増殖を抑えることにつながります。
- カソロン粒剤6、7を冬期に散布しておくことで、春の除草を省略できます（6月頃まで抑草）。

4 基肥施用基準

活着を早め、初期分けつを確保するのに適正な施肥量にしましょう。

(10a当たり)

		側 条 施 肥						
		基肥一発肥料 使用の場合	基 肥 一 発 肥 料					
肥料 品種	(全層施肥) PKけい酸 09号	コシー発 くんDX24	けい酸アップ・ コシー発くん	コシー発 くんNEOα	早生一発 くんDX28	早生一発 くんNEO	五百万石 一発くん	側条BB 003-40号
比 重	1.22	0.8~0.85	0.9~0.94	0.85~0.9	0.8~0.85			0.94~1.05
コシヒカリ	60kg	45~50kg	55~60kg	35~40kg	—	—	—	30kg (35kg)
ゆめみづほ (石川43号)		—	—	—	45kg	40~45kg		35kg (45kg)
五 百 万 石				—	—	—	—	—
カグラモチ	—			35~40kg			—	

※()内は手取地区の施肥量です

注意1 初期生育の悪い場合は、過燐酸石灰を20kg/10a施用する。

注意2 手取地区や、秋落ちし易い砂壤土などの低地力田では、基肥一発肥料を全層と側条に分けて施肥すると、肥料からの栄養補給が効率よくくなります。
(※ただし、全層と側条の割合は、4(全層):6(側条)を目安とし、
全層施肥日と田植日の間を1週間以上あけないこと。)

注意3 大豆跡の「コシヒカリ」は基肥を2割減らす。
(※基肥一発肥料使用の場合は生育診断に応じて追加穂肥を
実施してください。)

① 田植えの4大ポイント

過剰生育防止、良質茎確保のため5月の好天日に田植を行いましょう。

① コシヒカリは特に

田植えは5月になってから、8月2日以降に出穂期となるように田植時期を設定しよう。

早期の田植えは出穂期が早まることにより、登熟期間が高温に経過し、乳白・腹白粒等品質低下の要因となります。そのため、田植えを遅らせ出穂期を遅らせることによって、高温時の登熟を回避し、好適な条件とすることにより品質の向上を図ろう。

◎田植時期と出穂期の関係（品種：コシヒカリ）

田 植 時 期		出 穂 期	
4/25	- 10日	7/30	- 3日
5/ 1	- 4日	8/ 1	- 1日
5/ 5	基準日	8/ 2	基準日
5/10	+ 5日	8/ 5	+ 3日
5/15	+10日	8/ 8	+ 6日

② 栽植密度は坪当たり60株植えを基準にしましょう。

※10a当たりの苗箱使用は、補植を含めて18箱。

過度な疎植は減収や乳白粒の多発を招くおそれがあるため行わない。

③ 良質茎の確保のため、3～4本の細植えに調整しましょう。

※植付本数が多くなると、整粒歩合が低下し、未熟粒や奇形粒の原因となるので、細植えを徹底する。

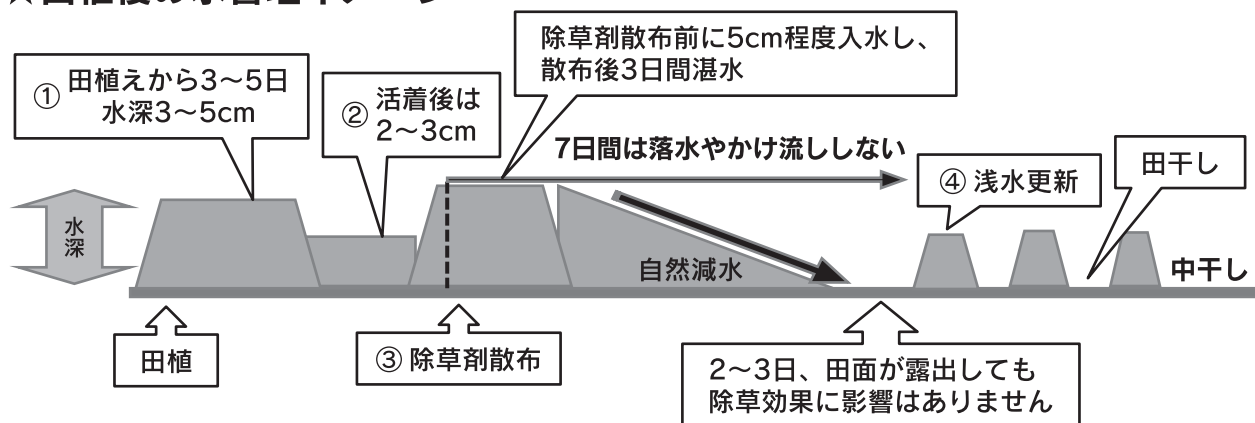
又、茎数が多くなると、倒伏しやすくなり、品質の低下となる。

④ 活着・初期生育促進のため、3センチ程度の浅植えにしましょう。

※ほ場ごとに田植えを始めたら、植付深さ、本数のチェックを忘れずに行いましょう。

② 初期生育を促進する水管理

★田植後の水管理イメージ



◎ 田植え後～分げつ期の管理のポイント

①【田植え直後】・・・「できるだけ早く活着させる」

活着とは、一般的に新根が3～5本発生して養分や水を十分吸収できる状態のこと
 苗の活着限界温度は12～13℃、最適温度は25～30℃

田植え直後から5日目くらいまでの間は、**低温時や強風時には**
 5～7cm程度(草丈の2/3位の水深)の**やや深水で管理し苗を保護する**
 天候が悪い時に水深を保つ効果 ①地温と水温を確保して発根を促す

温度が高い方が
早く活着する！

②苗からの水分蒸発を抑制して苗をしおれさせない

②【活着後】・・・「分げつの発生を促す」

分げつの発生は、**昼夜の温度差が大きいと促進される**
浅水にすると、昼夜の地温、水温の温度差が大きくなる

分げつ発生には
浅水管理！

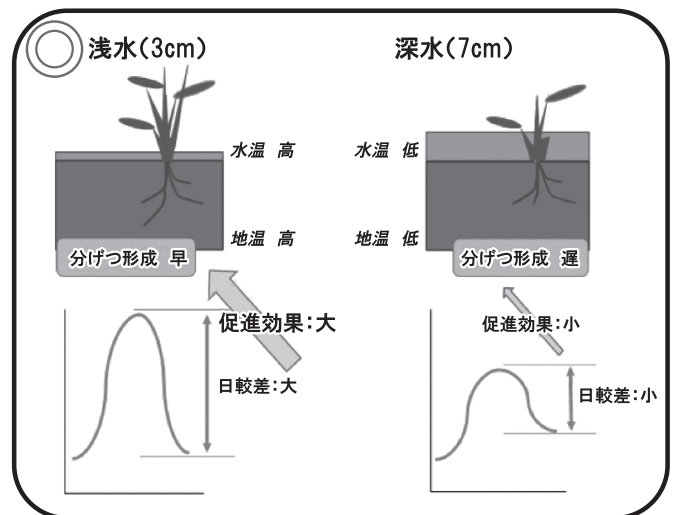
昼の気温が低い天候の場合は、分げつが抑制されるので、深水にして水温を保つ

(参考) 水深と水稻生育への影響

水深と影響	活 着	保 温	発 根	分 げ つ	養 分 吸 収	酸 素 供 給
深水 (5～7cm)	▲	☆	▲	▲	△	▲
浅水 (2～3cm)	☆	△	☆	☆	☆	△
落水 (0cm)	☆	▲	△	△	▲	☆

☆：促進・効果高い
 △：中くらいの効果
 ▲：抑制・効果低い

分げつの発生促進には日較差が重要！



④ いもち・紋枯・初期害虫防除

●育苗箱施薬剤

品種	使用時期	薬 剤 名	使用量	対象病害虫名
ゆめみづほ	は種時(覆土前)～ 移植当日	ブーンレパード箱粒剤 (紋枯病の発生しやすい品種 昨年紋枯病の発生したほ場)	1箱当たり 50g	いもち病、紋枯病、イネミズソウムシ、イネドロオイムシ、 白葉枯病、内穎褐変病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、 ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、 イネツトムシ、イナゴ
その他	移植7日前～ 移植当日	Dr.オリゼリディア箱粒剤	1箱当たり 50g	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病)、 イナゴ類、ウンカ類、イネミズソウムシ、イネドロオイムシ、 イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、 ツマグロヨコバイ、イネツトムシ

使用方法・・・1箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。

※初期害虫だけでなく、いもち病予防も兼ねた混合剤です。

7月中旬まで効果を持続させるため、必ず1箱当たり50gを散布する。

使用上の注意・・・①使用前、苗についた露を落とす。

②薬剤使用後に散水し、薬剤が苗箱に落ちてくようにする。

③軟弱徒長苗、ムレ苗、移植適期を過ぎた苗などは薬害の恐れがある。

④水稻育苗ハウスを活用して野菜を栽培する場合は、育苗ハウス内で使用しない。(こぼれた農薬が後作の野菜に残留する場合があります。)

水稻除草剤処理一覧表

	4 月													
月 日	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8
代かきからの日数							1				5			

代かき

田植え

体系処理

〈初期剤〉 + 〈初中期一発剤〉

〈初期剤〉

田植時処理

一発処理

〈粒剤〉

▲ ノビエ3葉期末満

田植時処理

▲ ノビエ3葉期以上

田植時処理

〈省力剤〉

〈初期剤〉

〈漏生イネ対策〉



1成分
ソルネット 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ1葉期
内容 移植後30日まで

〈藻類対策〉



2成分
クラール 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ1.5葉期
内容 移植後30日まで

使用適期
7～14日後

〈一発剤〉



3成分
アットウZ 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ4葉期
内容 収穫60日前まで



3成分
ゼアス 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ2.5葉期
内容 移植後30日まで



4成分
バッチリLX 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ2.5葉期
内容 移植後30日まで



3成分
ベッカク 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ3葉期
内容 収穫60日前まで



3成分
ディオレ 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ3葉期
内容 移植後30日まで



3成分
流星 1キロ粒剤

登録 移植時～ノビエ3葉期
内容 移植後30日まで

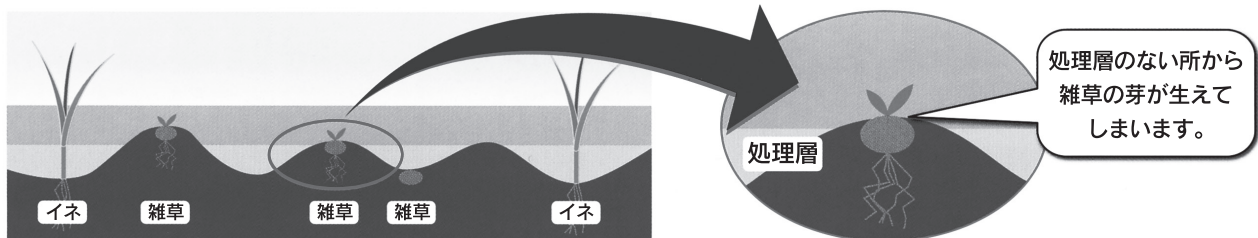
※藻の発生前に散布して下さい。

水稲除草剤の上手な使い方のポイント

ポイント 1

代かきと除草剤の効果って関係あるの？

代かきで、雑草を埋め込むだけではありません。
代かきで田面が均一になると、除草剤の処理層も均一になります。
また、代かきが丁寧だと水持ちがよくなるので、除草剤の残効も期待できます。



代かきが不十分だと田面が露出し除草剤の処理層が作れない部分が出てきます。

ポイント 2

代かきから田植えまでの期間って関係あるの？

雑草は、代かき直後から動き出します。
代かきから田植えまでの期間が長いと、その間に雑草が生長しますので、
除草剤の散布遅れにならないように注意してください。

田植え日が同じでも代かき日が早いと雑草の生育が早まります

代かき日	田植え日	ノビエ2.5葉期に達する日		
			代かき後日数	田植え後日数
4/26	5/5	5/13	17日	8日
4/29		5/16	17日	11日
5/2		5/18	16日	13日

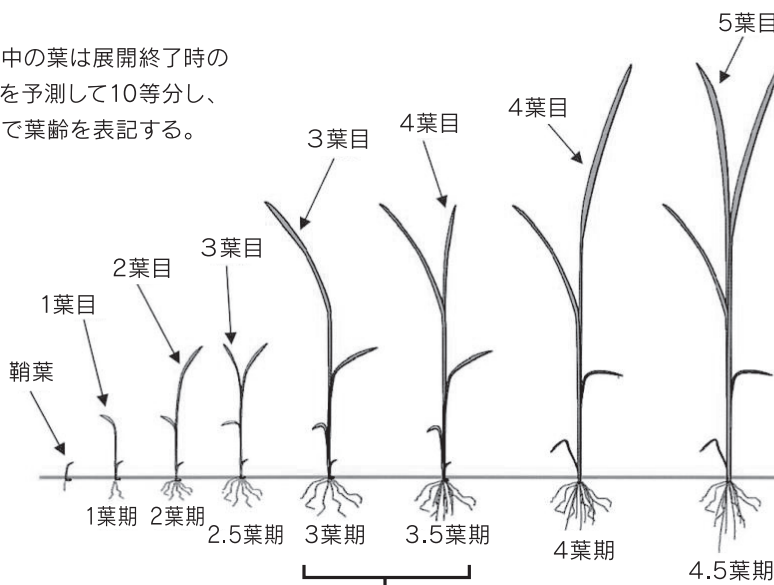
(注) 金沢アメダスデータ、年平均気温による推定

気温が高い年は、雑草の生育が早まります

区 分	代かき日	ノビエ2.5葉期に達する日	
			代かき後日数
平 年	5/2	5/18	16日
暑い年(H27,28)		5/17	15日
寒い年(H22)		5/19	17日

(注) 金沢アメダスデータ、年平均気温による推定

★展開中の葉は展開終了時の
長さを予測して10等分し、
少数で葉齢を表記する。



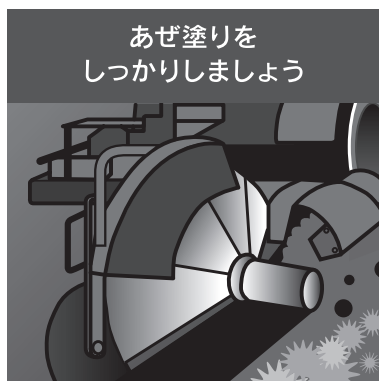
この頃には1葉は枯れ、消失していく

上記にあるようにノビエの生長は早いので注意が必要です。また、3葉以上になると1葉が枯れ始めるため
葉齢を間違わないように注意してください。

ポイント
3

あぜの管理で漏水防止!

田んぼの水が田んぼの外に流れ出ると、除草剤の効果も低下します。
あぜはモグラ等の穴や崩れがないようにしっかり整備し、
あぜ波板や畦畔シートなどを使って漏水を防ぎましょう。



ポイント
4

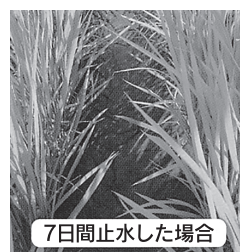
除草剤の効果を手早く出すための水管理って？

農薬を散布するときは、よく拡散するように、十分な湛水状態にします。
散布後は、除草剤の処理層を壊さないために、散布後7日間は落水やかけ流しは
行わないようにします。また、勢いよく注水すると処理層が壊れてしまうので、
差し水はゆっくり行います。

散布後7日間は、落水・かけ流しをしないでください

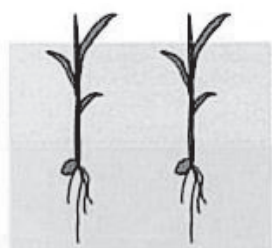


効果に
大きな違いが！



水持ちが悪い田んぼでは？

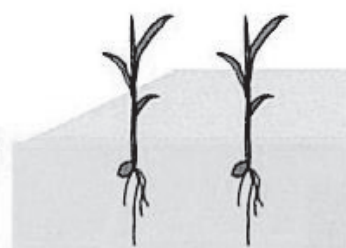
徐々に減水しても…



たっぷり水を
張って散布。



ひたひたまで我慢。



散布3～5日後、
ゆっくりさし水する。

水のかけ流しはしない!! 常時さし水はしない!

6月

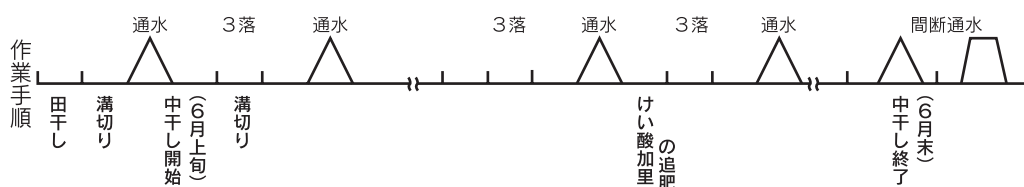
中干し開始は田植え後1か月

過剰生育を抑えて適正穂数に誘導します。地耐力を高めます。

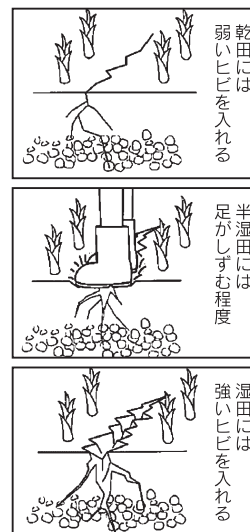
◆ 田植え後1か月の中干しを徹底しよう！

- 中干し開始の目安は、目標穂数の70%の茎数が確保された時期です。
(コシヒカリの場合：1株14～15本)
- 溝切りを実施し中干しを効果的に実施する。
- 中干しの程度は田面に小ヒビが入るぐらいにし、これを2～3回繰り返す。
- 乾田では、強く干しすぎたり、大ヒビを入れると、根を切ったり
ほ場の水持ちが悪くなるので注意する。

《中干しのやり方（1日通水、3日落水）》



〈中干しの程度〉



～中干し・溝切りの効果～

〈中干し〉

- ①ムダな分げつを抑制 → 実りの悪い穂を減らし、屑米や乳白粒を減らす
→ 茎が強く太くなり、倒伏が軽減される
- ②土に酸素を供給 → 根張りが良くなる → 収量・品質向上、倒伏軽減
- ③地耐力の向上 → 地面が締まり、コンバインが入り易くなる

〈溝切り〉

- ①均一な水管理が可能 → ほ場全体の生育が揃い、品質のバラツキが減り、収量も向上
- ②通排水をスムーズに → 収穫直前までの通水管理が可能になり、収量品質が向上
→ フェーン等、緊急時に迅速な入水ができる
→ 収穫時期の雨でも水が溜りにくく、適期収穫が可能に

〈中干し開始時期（目安）〉



中干し開始適期
(15本/株)

中干し開始おくれ
(20本以上/株)

〈溝切り〉



溝の連結は忘れずに

② 初期病害虫防除

●いもち病の予防を確実に

使用時期	薬 剤 名	10aあたり使用量	対象病害虫
6月中旬	オリゼメート1キロ粒剤	1 kg	葉いもち

(注)使用後4～5日間は湛水状態を保ち、7日間は強制的に落水しない。

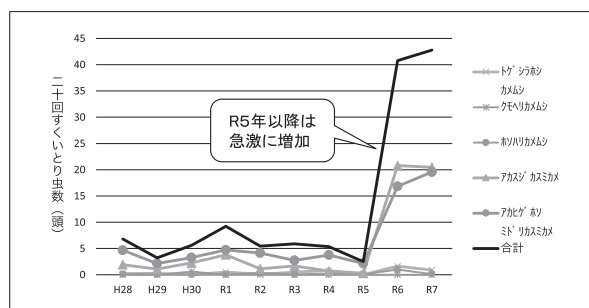
●ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、イネドロオイムシの防除

使用時期	薬 剤 名	10aあたり使用量	対象病害虫
6月上旬	トレボン粉剤DL	3～4kg	ニカメイチュウ
6～7月		3kg	フタオビコヤガ (イネアオムシ)
6月			イネドロオイムシ

●棲み処を無くしてカメムシ対策

除草の徹底により斑点米カメムシ類の発生を元から絶とう

カメムシ類の発生源となる畦畔雑草地については、カメムシ類の生息密度を抑えるため、6月中旬から7月上旬まで草がない状態を保ち、7月上旬には仕上げ除草を行う。



雑草地におけるカメムシ類生息密度調査結果
(JA白山管内:6月下旬～7月上旬調査)

③ けい酸加里の追肥で稲体の健全化

施用時期	肥料名	施肥量	備 考
6月中・下旬 ※早生は6月中旬	けい酸加里プレミア	40kg / 10a	代かき前全層散布も可 (その場合は60kg施用)
	B B グッドサポート		
	(省力) エスアイ加里カリ投げくん	4kg / 10a (200g×20個)	動散での散布が困難な方へ おすめの投げ込み肥料
	ファイトアップ	500g / 10a (50g×10錠)	湛水状態で散布。全面処理。

※けい酸加里プレミアを施用できない場合は基肥一発に「けい酸アップ・コシー発くん」を使用してください。
但し、土づくりによるケイ酸分の補充は継続しないと、土壤中のケイ酸は減少していきます。
※カリ投げくんは湛水状態(5cm以上)で投げ入れ、4～5日間は水を切らないようにする。
※ファイトアップの効果「毛細根」が充実し、生育を促進→健全な強い稲に

けい酸施用の効果

①高温障害に対する耐性向上 **注目**

根の活力が向上し、養分・水の吸収量アップ
→気孔からの蒸散活性化により穂の高温化防止→登熟向上(乳白粒発生の抑制)

②登熟向上による収量・品質・食味向上 **注目**

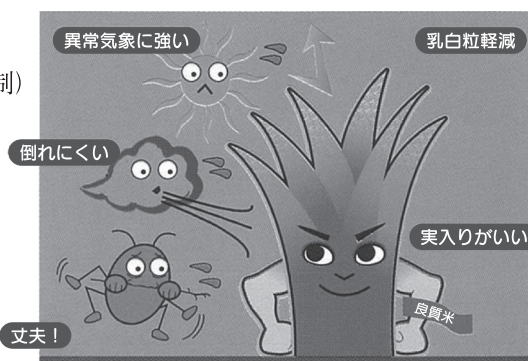
受光体勢が良くなり光合成が良好→デンプンの蓄積が増大
→タンパク含量を抑え、乳白粒発生減少

③葉いもちや虫害に強くなる

けい酸が稲体の表面に集積(ケイ化細胞)→病害虫の侵入を防ぐ鎧となり、抵抗力を高める

④倒伏に強くなる

茎葉や稈が強くなる

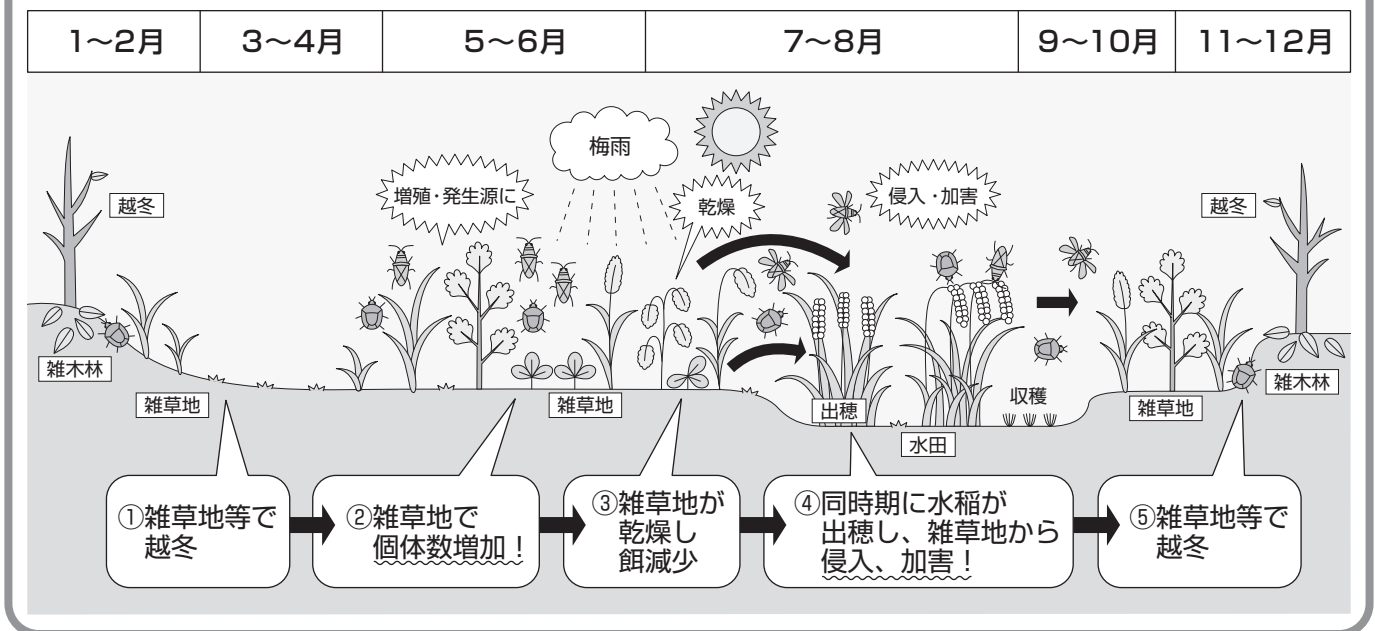


除草の徹底によるカメムシ対策について

※R7年産でもカメムシが多く発生しました。

斑点米の原因となるカメムシの防除のためには、殺虫剤による直接的な対策も欠かせませんが、生息場所や繁殖源となる雑草の防除によって発生する個体数自体を少なくしていくことが基本です。

斑点米カメムシ類の生活史



対策1

畦畔等雑草地の除草

農道や畦畔等の雑草地は、カメムシの発生源および水田へ侵入する中継点となります。したがって、これらの除草を徹底し、草が無い状態をできるだけ長く保つことが大原則です。また、水稻出穂期頃の除草は、雑草地のカメムシを水田内へ追い込むほか、この時期までずっと雑草を放っておいても、雑草地自体の乾燥による餌の減少を受けて水田侵入が助長されるので、6月頃から出穂期頃まで、期間をとおして雑草を少なく維持しておくことが重要な対策となります。

対応

春先除草



6月除草



7月上旬仕上げ除草



収穫前除草

対策2

水田内雑草の除草

近年、ヒエやホタルイ等、水田内雑草がカメムシの発生源、誘引源となって斑点米被害を増加させることがわかってきました。これらの雑草が水田内に多く生えてしまった場合、雑草が穂をつける前に中後期除草剤により除草をしてください。

※水田内の取りこぼし雑草が多いときの対応については右ページ参照。



ホタルイの穂

カメムシの生態に基づいた雑草管理によって、斑点米被害を効果的に減らしていきましょう！

■水田内の取りこぼし雑草が多いときの草種別除草剤の選択

《ヒエ剤》ノビエの取りこぼしが多いとき

薬 剤 名	使 用 時 期	使 用 量 10a当たり	使 用 方 法	使 用 上 の 注 意
ヒエクリーン 1キロ粒剤 (豆つぶ)※1	移植後15日～ ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1kg	湛水状態で散布 本剤は遅効性であるが 抑草期間は長い。	① 水の出入りを止めて湛水のまま 田面に均一に使用する。 ② 使用後7日間は湛水状態を保ち 落水、かけ流しをしない。
クリンチャー 1キロ粒剤 (ジャンボ)※2	移植後7日～ ノビエ4葉期 (但し、収穫30日前まで)	1kg	湛水状態で散布 残効性がないので 処理時期を見極めて 散布する。 (2回まで)	
	移植後25日～ ノビエ5葉期 (但し、収穫30日前まで)	1.5kg		
クリンチャーEW	移植後20日～ ノビエ6葉期 (但し、収穫30日前まで)	薬量100ml 希釈水量 25～100 ℓ	落水状態で散布 (2回まで)	① 展着剤(「ハイテンパワー」等)を 加用する。 ② 均一に雑草茎葉散布する。
トドメMF 1キロ粒剤	移植後14日～ ノビエ5葉期まで (但し、収穫50日前まで)	1kg	湛水状態で散布	① 水の出入りを止めて湛水のまま田面 に均一に使用する。 ② 使用後3～4日間は湛水状態を保ち、 7日間は強制落水、かけ流しをしない。 ③ 強風時には使用しない。
トドメMF乳剤	移植後14日～ ノビエ7葉期まで (但し、収穫50日前まで)	薬量200ml 希釈水量 25～100 ℓ	湛水散布又は落水散布	① 展着剤は不要。 ② 均一に雑草茎葉散布する。

《広葉剤》広葉雑草が多いとき

薬 剤 名	使 用 時 期	使 用 量 10a当たり	使 用 方 法	使 用 上 の 注 意
バサグラン粒剤	移植後15日～ (但し、収穫45日前まで)	3～4kg	落水散布またはごく 浅く湛水して散布	① 晴天時に使用し、使用後3日間は 入水しない。 ② 1年生イネ科雑草には効果がない。 ③ 多年性雑草が部分発生している場 合は落水してスポット処理する。
ロイヤント乳剤	移植後20日～ノビエ5葉期まで (但し、収穫45日前まで)	薬量200mℓ 希釈水量100ℓ		① 散布後3日後を目安に入水する。 ② ホタルイ、クログワイ、コウキヤガ ラ等には効果が劣る。

《ヒエ剤+広葉剤》ノビエや広葉雑草の取りこぼしが多いとき

薬 剤 名	使 用 時 期	使 用 量 10a当たり	使 用 方 法	使 用 上 の 注 意
アトリ 1キロ粒剤 (豆つぶ)※1	移植後14日～ ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1kg	湛水状態で散布 (1回まで)	① 水の出入りを止めて湛水のまま 田面に均一に散布する。 ② 使用後7日間は湛水状態を保ち 落水、かけ流しをしない。
レプラスギア 1キロ粒剤 (ジャンボ)※2	移植後14日～ ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで)			
クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ ノビエ5葉期 (但し、収穫50日前まで)	薬量1,000mℓ 希釈水量 70～100ℓ	落水散布又はごく浅い 湛水状態で散布 (2回まで)	① 使用液は使用当日に調製すること。 ② 展着剤は加用しない。 ③ 使用前に落水状態にして水の出入 りを止め、田面に均一に散布する。 ④ 使用後7日間は湛水状態を保ち 落水、かけ流しをしない。 ⑤ 晴天の持続する時を選んで使用 する。軟弱苗への使用、重複散布、 DCPA剤との近接散布、高温条件の 使用はさける。

《クサネム対策》

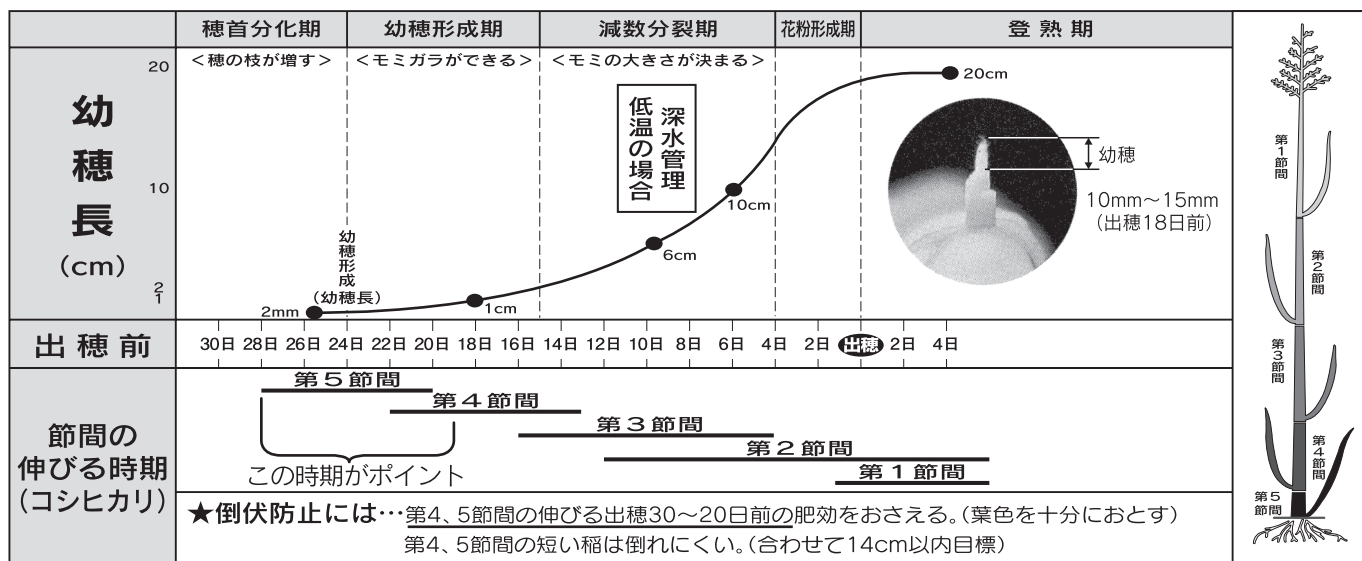
薬 剤 名	使 用 時 期	使 用 量 10a当たり	使 用 方 法	使 用 上 の 注 意
ノミニー液剤	移植後30日～ クサネムの草丈 40cmまで (但し、収穫60日前まで)	50～100mℓ	落水又はごく浅い 湛水状態で散布 (1回まで)	① 雑草の生育期に薬液が茎葉全体に 均一にかかるように加圧噴霧機など で散布する。 ② 3日以上落水(浅水)状態を保つ。 ③ 散布後、6時間以内に降雨が予想 される場合は使用を控える。

※1 豆つぶ、※2 ジャンボの登録内容については、p.75「農薬の使用基準一覧」参照。

7月

生育に応じた追肥と斑点米カメムシ類防除

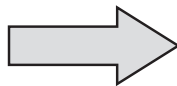
的確な追肥で稲の夏バテ防止・登熟向上、生育に合わせた防除で効果的なカメムシ対策。



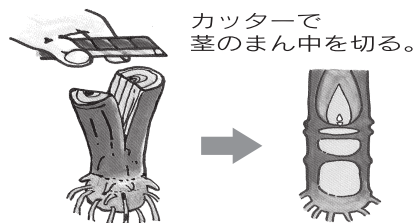
① 自分の田んぼの「穂肥」診断を!! ~幼穂長・葉色の確認のしかた~

幼穂の確認方法は?

- (1) 一株の中の最長茎を抜き取る。
(畦畔から1m以上入り、3株以上の株取りが望ましい。)
- (2) 茎の中央をカッターで切る。
- (3) 幼穂の長さを測る。
コシヒカリは10~15mmが穂肥適期。

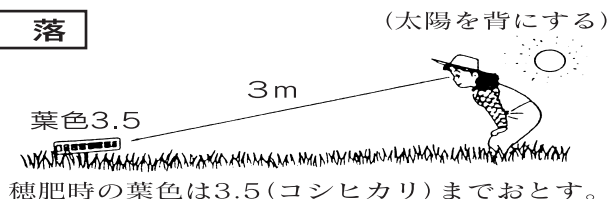


幼穂長の確認方法

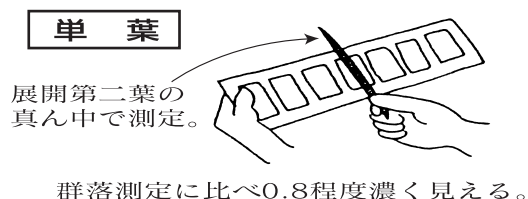


◎カラススケールによる葉色の測定法

群落



単葉



② 穂肥の施用基準 (分施肥系)

品種	肥料名	施肥時期	10aあたりの施用量	幼穂長	葉色
ゆめみづほ (石川43号)	BBLP有機060号 (20-6-10)	出穂23日前	30kg	2~3mm	4.0
コシヒカリ		出穂18日前	30kg (手取は25kg)	10~15mm	3.5
五百万石		出穂18日前	30kg	10mm前後	4.3
カグラモチ		出穂20日前	25kg	8mm前後	4.3

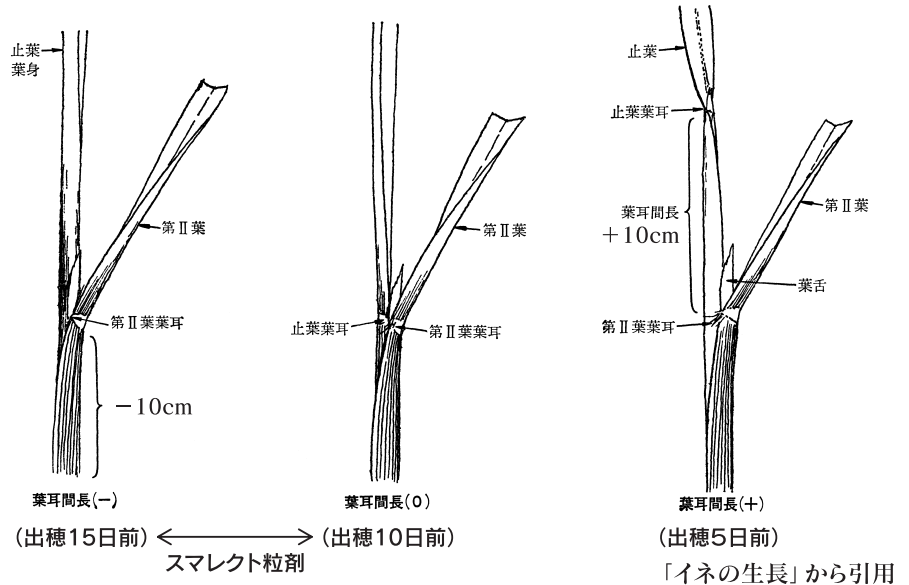
※稲体を見て必要に応じて倒伏軽減剤を使用しましょう。

③ 生育、地力に応じた施肥量、時期を判断

茎数が多く葉色が濃い場合は、穂肥の施肥時期を基準より遅らせたり、施肥量を減らすなどして、過剰な着粒を防止し乳白粒等の発生を軽減させる必要があります。

稲の姿による診断

●出穂15～5日前の稲の姿 (葉耳間長での判断方法)



④ 追加穂肥(一発肥料+追肥)の施用について

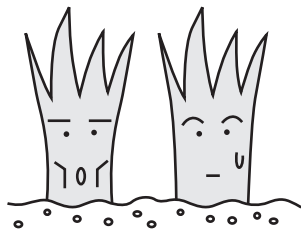
高温登熟が予想される場合は、追加穂肥を施用してください。

※基肥一発に「コシー発くんDX24」「早生一発くんDX28」を施用した場合は、追加穂肥は不要です。

施用時期	肥料名	施用量
出穂7日前頃 (走り穂が出る頃まで)	BBとれるぞう	7～10kg/10a程度

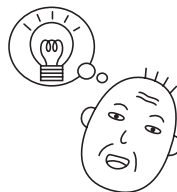
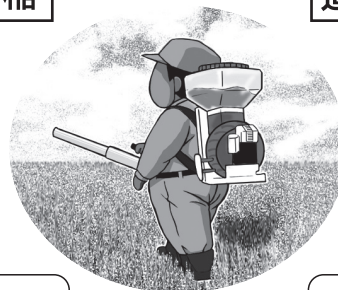
〈追加穂肥〉高温年における追加穂肥(出穂7日前頃)

追加穂肥を施用できる稲

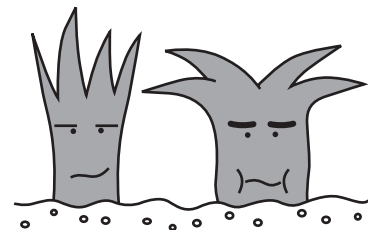


- 葉色が淡く、直立している。
- 茎葉が硬い。
- 下位節間が短い。

葉耳間長が+5～10cm



追加穂肥を施用できない稲

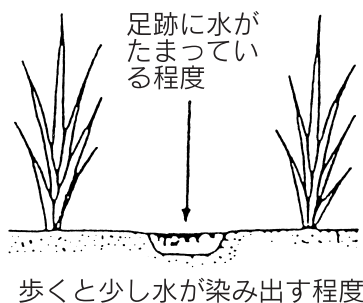


- 葉色が濃い。
(ゆめみづほで葉色板5以上、
コシヒカリで葉色板4.5以上)
- 草丈が長い。
- 葉が垂れ、乱れている。
- 下位節間が長い。

葉耳間長が+10cmより長い

5 水管理 飽水管理で高品質化

●飽水状態とは



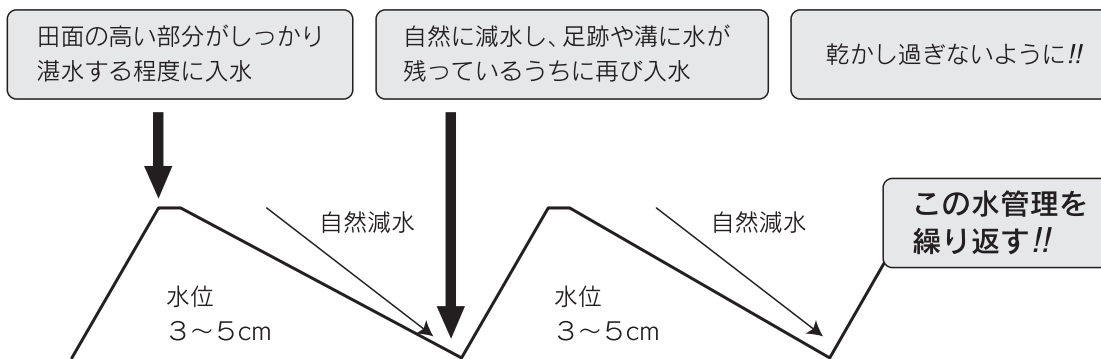
「田面の足跡や溝に水が溜まっている状態」

を保つ水管理のこと

効果

- 根が常に水分吸収可能な状態を維持します。
- 地力窒素の発現を促して後期栄養を供給します。
- 下葉の枯れ上がりや倒伏を抑制します。
- デンプンの転流を助け未熟粒の発生を防ぎます。

●中干し終了後の管理（幼穂形成期から出穂後3週間）



①中干し後～出穂期

- 中干し後は間断通水を行い、水分と酸素を交互に供給して稲体の活力を保つとともに、地耐力の維持を図る。
- 出穂15～5日前に低温（17℃以下）が予想される場合は、深水にして幼穂を守る。
- 穂肥・追加穂肥の施用時は、浅く湛水し、肥料の分解を促すとともに肥効の均一化を図る。

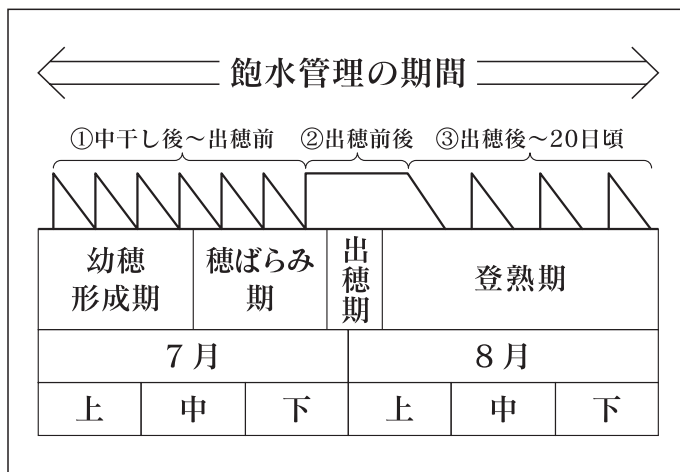
②出穂前後

- 幼穂形成期から出穂・開花期にかけては水を最も必要とする時期のため、花水として湛水する。ただし溜めっぱなしを避け、水の入れ替えに努める。

③出穂後～20日頃

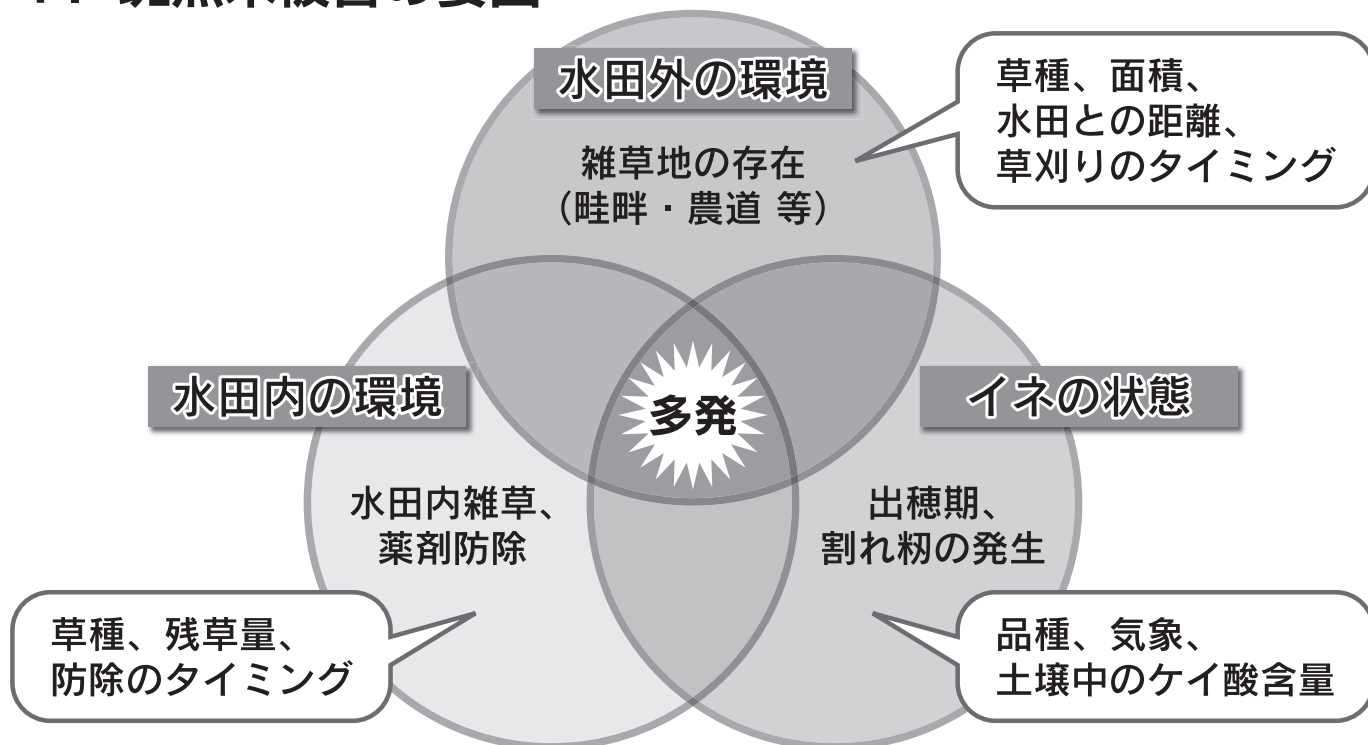
- 開花後は間断通水を行い、根の活力を維持する。
- 登熟期に高温が続く場合、できれば夜間入水により地温を下げる。
- 強風やフェーン現象等の一時的な異常高温が予想される場合、あらかじめ十分に入水し、稲を高温から守る。

水管理のイメージ（コシヒカリの場合）



斑点米カメムシ類対策〈特集〉

1. 斑点米被害の要因



→斑点米被害の多発には、様々な要素が上図のように複合的に関わっています。
「畦畔の除草を徹底する」等により、1つずつ要素を排除していくことで、斑点米被害の多発を回避することができます。

2. 斑点米カメムシ類の特徴



実物大

トゲシラホシカメムシ



実物大

ホソハリカメムシ

トゲシラホシカメムシ

体長4.5～7mm位で、体色は淡褐色で黒点がある。
年2世代を経過し、7～8月に稲穂に集まって加害する。

ホソハリカメムシ

体長8.5～11mm位で、体は黄褐色の点刻がある。イネ科雑草の穂などに寄生し、稲には出穂後に集まって加害する。

アカヒゲホソミドリカスミカメ

体長は5～6mm位で、体色は緑、触角が体長ほどの長さがあり、淡紅色である。稲の出穂に反応して水田に侵入し、粃を吸汁加害する。斑点米の発生は割れ粃との関係が大きいと言われている。

アカスジカスミカメ

体長5～6mm位で、体は淡い黄緑色で橙赤色の縦条が特徴。イネ科雑草の種子を好食し、稲穂の割れ粃が発生すると吸汁加害する。



実物大

アカヒゲホソミドリカスミカメ



実物大

アカスジカスミカメ

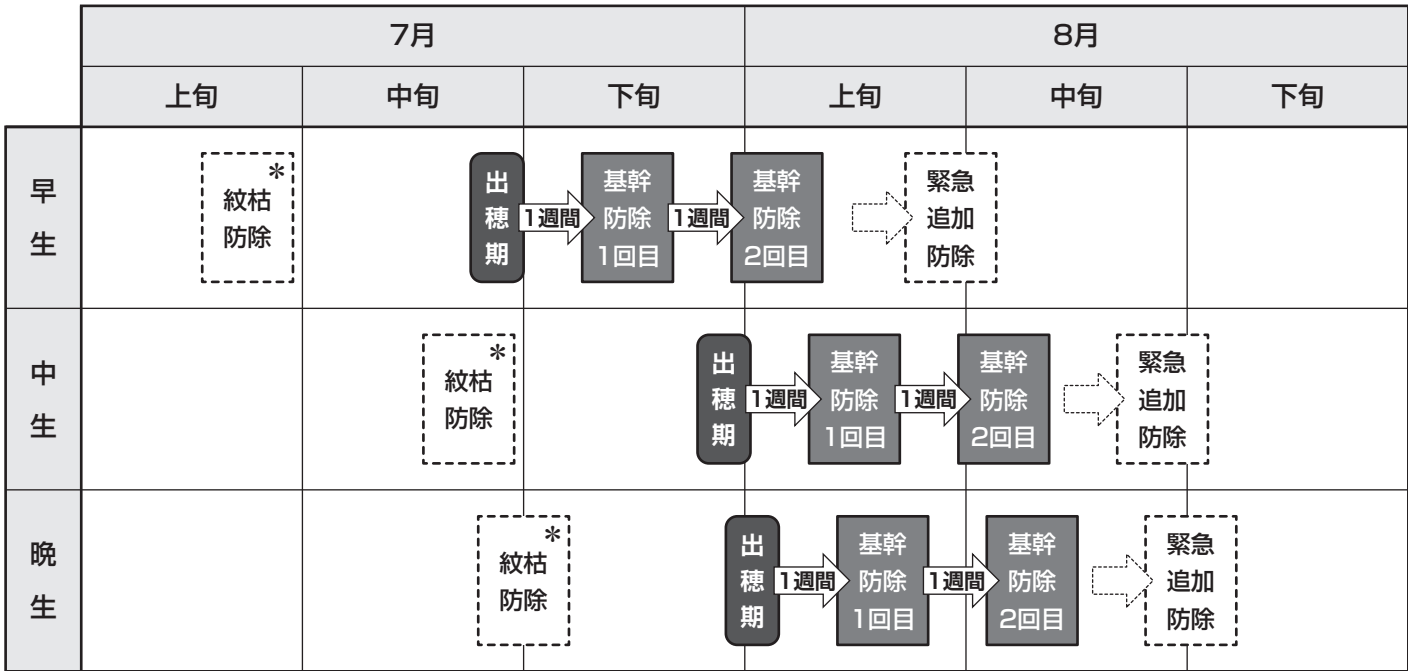
カスミカメ類のこれら2種が管内で近年増加しており、斑点米被害の中心となっています。これらは飛翔性であり、移動能力が高いことが特徴です。

→集落全体で雑草管理を徹底していくことが重要です。

水稻基幹防除 ※詳しい散布時期は農事メモ参照

◆粉剤・液剤・航空防除

(1) 防除時期



※「昨年紋枯病が多発した場」、「箱施用剤で紋枯病対策のできない直播」等では以下対策を必ず実施する。

品種	R7出穂期	使用時期の目安	使用薬剤名	10aあたり使用量	対象病害虫	使用回数
早生	7月中下旬	出穂1週間前	モンガリット粒剤	3～4kg	紋枯病、稲こうじ病	2回以内
中生	7月下旬					
晩生	7月末～8月頭					

(2) 防除体系

<粉剤防除>

	品種	出穂目安	散布時期の 目安	使用薬剤名	10aあたり 使用量	対象病害虫	使用回数	使用時期
1 回 目	早生	7月中下旬	出穂直前	ビームトレモンセレン 粉剤DL	3kg	いもち病、紋枯病、 ウンカ類、カメムシ類	3回以内	収穫21日前 まで
	中生	7月下旬						
	晩生	7月末～8月頭						
2 回 目	早生	7月中下旬	1回目散布 約1週間後	ビームスタークル 粉剤5DL または スタークル粉剤DL	3kg	イモチ病・カメムシ類・ ウンカ類他 カメムシ類・ウンカ類・ ツマグロヨコバイ	3回以内	収穫7日前 まで
	中生	7月末						
	晩生	7月末～8月頭						
随時		いもち発生時		ブラシン粉剤DL	4kg	いもち病、稲こうじ病	2回以内	収穫7日前 まで
随時		カメムシ多発時		スタークル粉剤DL	4kg	いもち病、稲こうじ病	2回以内	収穫7日前 まで

＜液剤防除＞ ※散布時はドリフトに注意してください。

	品種	出穂目安	散布時期の 目安	使用薬剤名	10aあたり 使用量	対象病害虫	使用回数	使用時期
1 回 目	早生	7月中下旬	出穂直前	(混用) ①ビームエイト トレボンゾル ②バリダシン液剤5	①100～150L (650倍) ②60～150L (1000倍)	①いもち病、ウンカ類 カメムシ類、他 ②紋枯病	3回以内	収穫14日前 まで
	中生	7月末						
	晩生	7月末～8月頭						
2 回 目	早生	7月中下旬	1回目散布 約1週間後	ビームエイト スタークルゾル または スタークル液剤10	60～150L (1000倍)	いもち病、ウンカ類、 カメムシ類他 カメムシ類・ウンカ類	3回以内	収穫7日前 まで
	中生	7月末						
	晩生	7月末～8月頭						
随時		いもち発生時		ブラシンフロアブル		いもち病、稲こうじ病	2回以内	収穫7日前 まで
随時		カメムシ多発時		スタークル液剤10			3回以内	収穫7日前 まで
随時		カメムシ多発時		トレボン乳剤			3回以内	収穫14日前 まで

＜航空防除＞ ※散布時はドリフトに注意してください。

	品種	出穂目安	散布時期の 目安	使用薬剤名	10aあたり 使用量	対象病害虫	使用回数	使用時期			
1 回 目	早生	7月中下旬	出穂直前	(混用) ①ビームエイト トレボンゾル ②バリダシンエアー	①0.8L (5倍) ②0.8L (8倍)	①いもち病、ウンカ類 カメムシ類、他 ②紋枯病	①3回以内 ②5回以内	収穫14日前 まで			
	中生	7月末									
	晩生	7月末～8月頭									
2 回 目	早生	7月中下旬	1回目散布 約1週間後	ビームエイト スタークルゾル または スタークル液剤10	0.8L (8倍)	いもち病、ウンカ類、 カメムシ類他 カメムシ類・ウンカ類	3回以内	収穫7日前 まで			
	中生	7月末									
	晩生	7月末～8月頭									
随時		いもち発生時		ブラシンゾル		いもち病、もみ枯細菌病	2回以内	収穫7日前 まで			
随時		カメムシ多発時		スタークル液剤10					カメムシ類、ウンカ類他	3回以内	収穫7日前 まで
随時		カメムシ多発時		トレボンエアー							

◆粒剤体系

(1) 防除時期

粒剤は稲が吸収するまで時間がかかるため、防除時期に注意しましょう！

	7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
早生		<div> <div>基幹防除1回目</div> <div>←1週間</div> <div>出穂期</div> <div>→1週間</div> <div>基幹防除2回目</div> </div>				
中生			<div> <div>基幹防除1回目</div> <div>←1週間</div> <div>出穂期</div> <div>→1週間</div> <div>基幹防除2回目</div> </div>			
晩生			<div> <div>基幹防除1回目</div> <div>←1週間</div> <div>出穂期</div> <div>→1週間</div> <div>基幹防除2回目</div> </div>			

(2) 防除体系

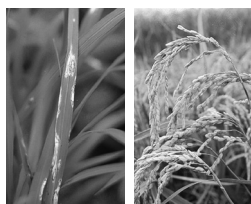
散布時は3日程度落水させないようにしましょう。

	品種	出穂目安	散布時期の 目安	使用薬剤名	10aあたり 使用量	対象病害虫	使用回数	使用時期
1 回 目	早生	7月中下旬	出穂1週間前	イモチエース スタークル粒剤 または ワイドパンチ豆つぶ	3kg	いもち病、カメムシ類 紋枯病、ウンカ類他	1回	収穫35日前 まで
	中生	7月末			250g			
	晩生	7月末～8月頭						
2 回 目	早生	7月中下旬	1回目散布 約2週間後 (出穂1週間後)	スタークル粒剤 または スタークル豆つぶ	3kg	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ カメムシ類・ウンカ類	3回 以内	収穫7日前 まで
	中生	7月末			250g			
	晩生	7月末～8月頭						
随時		カメムシ多発時						



紋枯病

病斑は下位から上位へ次第に進展する。穂ばらみ期以降に急激に上位進展し、枯れあがる。



いもち病

水稻での最重要防除病害。6月の高温多湿、7～8月の低温多雨条件下では発生が助長される。



稲こうじ病

穂ばらみ期～出穂にかけて雨が多く、低温・日照不足時に発生が多い。発生ほ場では数日間防除が必要。



ニカイメイチュウ

幼虫が稲体に潜り食害し、稲の茎が折れて倒伏する場合がある。



コブノメイガ

多発するとほ場一面が真っ白となるような被害が見られる。

ドローンによる農薬等の空中散布を行う皆さんへ 航空法に基づく飛行の許可・承認手続きについて

令和元年7月、農業用ドローンの利活用拡大に向けて各種規制の見直しが行われました。今後、ドローンを使って農薬等を散布する場合には、以下を参照ください。

事前に国土交通省への許可・承認の申請を行ってください。

- ドローンを用いて農薬等を散布する場合には、散布予定日の少なくとも10開庁日前までに申請を行ってください（オンライン申請、郵送又は持参）。

- 許可・承認の申請の際には、①ドローン機体の機能・性能、②操縦者の飛行経歴・知識・技能、③空中散布に係る安全確保体制（飛行マニュアルなど）に関する資料の提出が必要です。

国土交通省
地方航空局等



許可・承認の申請



①機体の機能・性能



②操縦者の飛行経歴・知識・技能



③安全確保体制

許可・承認の申請時の提出資料の一部は省略できます。

- 機体の機能・性能に関する資料の一部の省略
→「資料の一部を省略できる無人航空機」を使用する
<https://www.mlit.go.jp/common/001582421.pdf>
- 操縦者の飛行経歴・知識・技能に関する資料の一部の省略
→「無人航空機の民間講習団体及び管理団体」の講習を受講する
<https://www.mlit.go.jp/common/001579421.pdf>
- 空中散布に係る安全確保体制に関する資料の一部の省略
→「航空局標準マニュアル（空中散布）」を使用する
<https://www.mlit.go.jp/common/001521379.pdf>



※民間の技能認証を用いて飛行許可を受ける際の申請書類の一部を省略する運用は令和7年12月に終了します。ライセンスの詳細については、こちらを御確認ください。
→<https://www.mlit.go.jp/koku/license.html>

許可・承認の申請は代表者（代行者）による申請も可能で、ドローン販売店等でも受け付けている場合があります。

航空法の許可・承認手続きについては、国土交通省航空局からの情報をご確認ください。

航空局ホームページ http://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr10_000042.html

無人航空機ヘルプデスク ☎050-3818-9961（受付時間：平日午前9時～午後5時まで）

① 品質向上のための水管理

●登熟期（8月上旬～刈取り4～3日前）

① 2～3日おきの間断通水が基本であるが、高温等の稲体が消耗する気象条件下では、毎日でも通水を実施する。

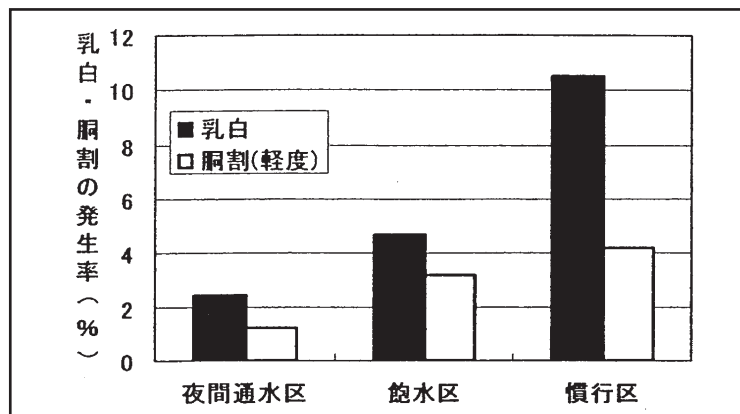
ただし、出穂期を含め、強風、フェーンを伴う場合はあらかじめ通水し、土壌水分を保持しておく。

（登熟後半ほど必要。特に収穫直前のフェーンによる水分変化は胴割粒多発の最大の原因）

② 高温となる日中の湛水を避け根の健全化に努める。通水は夜間通水が効果的。

③ 刈取り4～3日前まで間断通水を継続すること。

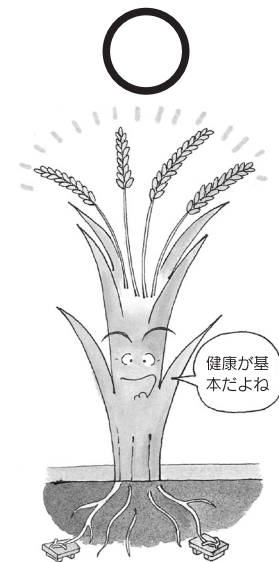
出穂後の水管理が品質に及ぼす影響（石川農研）



高温年においては5日間隔の間断通水を行う慣行区に比べて、夜間通水により乳白粒や胴割粒の発生が抑えられる。

夜間通水を行えない場合でも、通水間隔を短くして土壌を常に飽水状態に維持すると、慣行区に比べて乳白粒や胴割粒の発生を抑えることができる。

飽水管理で良好な稲体
根が健全であり、登熟も良い。



水不足の稲体
根が不健全であり、乳白粒や着色粒が発生しやすい。
また、早期落水で胴割粒が発生しやすい。



●落水時期

○農作業に支障のないかぎり、落水時期を遅らせ、高温登熟の場合は、刈取直前まで通水する。

－早すぎる落水は、米の収量・品質を低下させる－

- ・ 落水の時期が早すぎると、イネの根の機能を早く弱め、稲全体の活力を急激に落とす。 その結果、デンプンを作って穂に送る葉の働きを弱めて、籾の肥大を途中で止めるために、シイナやクズ米が多くなり、収量が低下する、又、胴割粒の発生をまねくことになり品質も低下する。
- ・ 水分不足で稲体の機能が低下すると、下葉の枯れ上がりが多くなり、着色粒の発生や各種の病害に対する抵抗力も弱くなる。

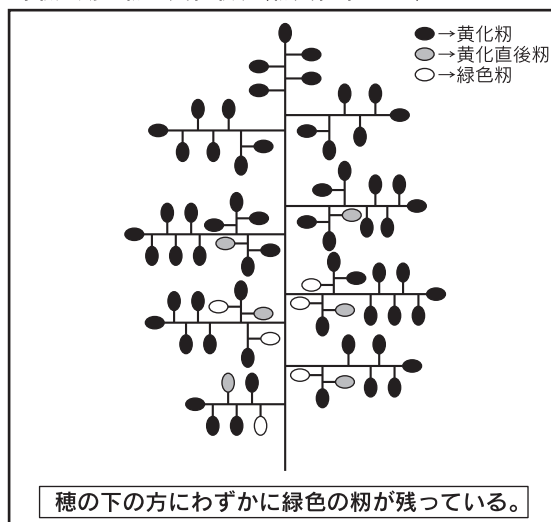
② 品種別刈取適期の目安

- 全籾数の85～90%が黄化したとき。
(枝梗が青くても、籾の黄化具合で判断する。)

品 種 名	出穂期からの登熟日数
ゆめみづほ(石川43号)	32～35日程度
五 百 万 石	39日程度
コ シ ヒ カ リ	36～38日程度
カ グ ラ モ チ	41日程度

- ・ 登熟日数や刈取り目安は登熟期が高温に経過した場合はさらに早くなる場合があります。

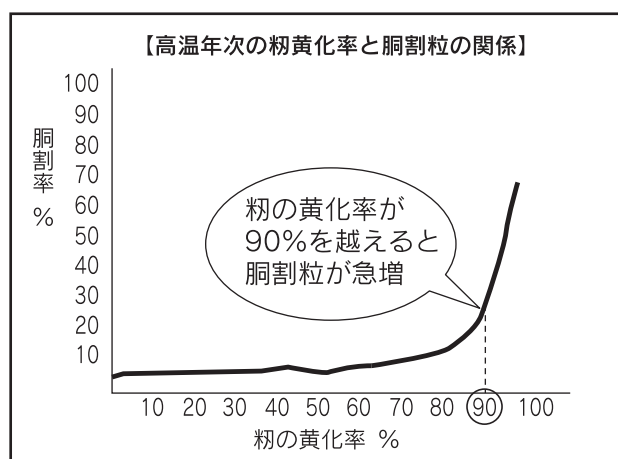
刈取適期の籾の黄化状況(籾黄化率90%)



- 高温年次におけるコシヒカリの胴割粒の発生について。

高温年次は、籾の黄化率が70%頃から胴割粒の増加が始まり、籾の黄化率が90%を越えると胴割粒が急増します。

このため、高温年次には胴割粒の発生を防ぐため、やや早めの刈取りが必要です。



【コシヒカリの刈取適期目安】

	登熟期間の平均気温	籾の黄化率	積算気温	出穂後日数
高温年	27℃以上 (手取は25℃以上)	80～85%	980℃ (手取は920℃)	36日
平 年	27℃未満 (手取は25℃未満)	85～90%	1,030℃ (手取は990℃)	38日

なお、籾の黄化率の目安を85%とすれば、今までの籾の黄化率90%に到達するよりも2～3日早く、刈取適期となります。

③ カメムシ類の出穂後の防除

薬剤名	対象害虫	使用量 10a当たり	使用時期	本剤の 使用回数
スタークル粉剤DL	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3kg	出穂 10～14日後	3回以内
スタークル液剤10	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	60～150L (希釈倍率1,000倍)	出穂 10～14日後	3回以内

9月

適切な乾燥調製作業

整粒歩合を高め、きれいな米に仕上げます。

◆ 万全な仕上げ5つのポイント

▶ 生粳は早めに乾燥する

ヤケ米防止



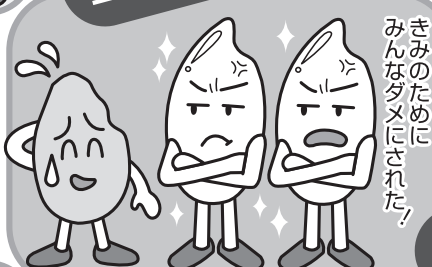
仕上乾燥は、ゆっくりと行う（毎時 0.8% 以下の乾減率が最適）▼

過乾燥米防止



▼ 仕上げ水分は 14.5～15.0% を目標とする

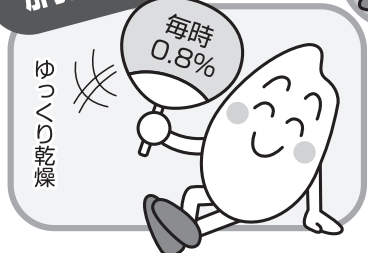
整粒歩合向上



きみのために
みんなダメにされた？

穀温が常温に戻ってから粳すりをする▼

胴割粒防止



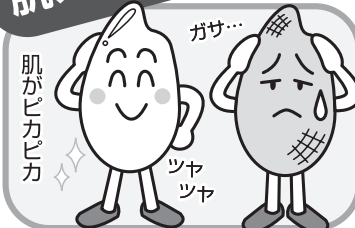
ゆっくり乾燥

毎時
0.8%

▲ ライスグレーダーの網目は品種に応じたものを使用する

粳すり機的能力に合わせ、適正流量で流す

肌ズレ米防止



肌がピカピカ

ガサ…

ツヤ
ツヤ

肌ズレがひどいなあ

乾燥調製作業チェック

● 乾燥作業の留意点

- ☐ 本格的な作業の前に事前作業を行い、各部の点検を実施しましたか？
- ☐ 生粳は3時間以内に乾燥機へ張り込み、通風・乾燥しましたか？
- ☐ 過乾燥米や高水分米を絶対出さないようにするため、玄米水分は14.5～15.0%を目標に均一に仕上げましたか？

※ 高温時の乾燥注意点

- ・刈取時の粳水分が低い時には、水分をチェックして乾燥する。
- ・低い送風温度で乾燥し、急乾燥はしない。（熱風温度：40～45℃（穀温35℃以下））
- ・張り込み後、昼間は通風のみとし夜間に温度をかける。

● 調製作業の留意点

- ☐ 碎米や肌ズレ米の発生を防ぐため、穀温を十分に冷まし、玄米水分を均一にしてから粳摺りを行いましたか？
- ☐ もみ混入、量目不足、異物（石、クサネム等）混入がないよう調製しましたか？

お米への異物混入防止を徹底しましょう

異物混入防止チェック

- ☐ 納屋・作業場の清掃を徹底しましたか？

ネズミが住み着く理由は、雨露をしのぐことのほかに、エサとなる米粒などが落ちていることが原因です。このため、清掃を徹底することが一番の対策です。

- ☐ 使用後のコンバイン・乾燥機・粳すり機の清掃を徹底しましたか？

機械内に残っている残米を取り除いてください。必ず電源スイッチを切ってから行い(キー、プラグは抜く)、取り外したカバー・フタは、必ず元どおりに取り付けてください。

ネズミ対策のポイント

- ①倉庫内の米粒やゴミ等がネズミの餌となります。**倉庫内の清掃が一番の対策**となります。
- ②農産物を扱う作業場では、異物混入の危険性があるため、**ネズミ駆除剤は絶対に使用せずに、粘着シートで対応**してください。

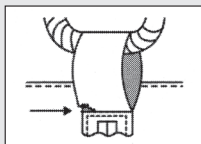
注：ネズミ駆除剤は、ホームセンターやドラッグストアなどでも販売されておりますが、納屋や作業場等ではお米に混入する危険性が高いため、絶対に使用しないようにお願いいたします。

【フレコンをお使いの方へ】

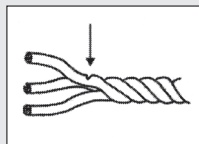
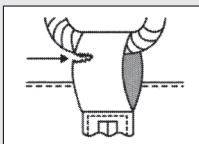
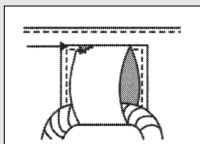
近年、JA乾燥施設への持込みの際に、フレコンのひも切れ事故が多発しております。搬入の際には必ず点検をお願いします。

次のような時は、買い替え(廃棄)をお願いします。

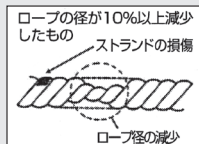
ご使用前には必ず各部の異常の有無及び部品の欠落の点検をお願いします。



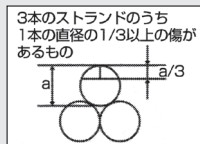
●吊りベルトに傷、切れ、著しいけば立ち等がないか確認してください



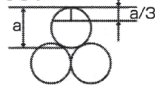
●吊りロープに傷、切れ、著しいけば立ち、ロープ径の減少がないか確認してください



ロープの径が10%以上減少したもの
ストランドの損傷
ロープ径の減少



3本のストランドのうち1本の直径の1/3以上の傷があるもの



異品種・異物混入防止を 徹底しましょう

石川の米をご愛顧いただく

消費者・取引先の

信頼に応えていくために

使用前、品種が変わる際、使用後には

コンバイン・乾燥機・粳すり機を清掃し

異品種や異物の混入を防止しましょう

作業をする際の注意点

コンバイン

- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください
- エンジン、マフラーが冷えてから作業してください
- 取り外したカバー類は、必ず元の位置に取り付けてください

乾燥機

- 必ず元電源のコネクタを抜いてください
- はずしたカバー、点検フタは、必ず元どおりに取り付けてください

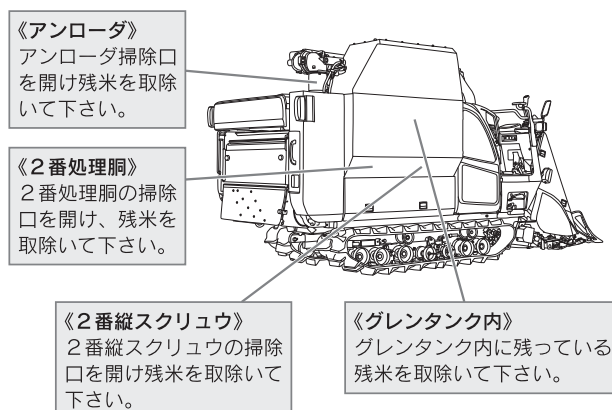
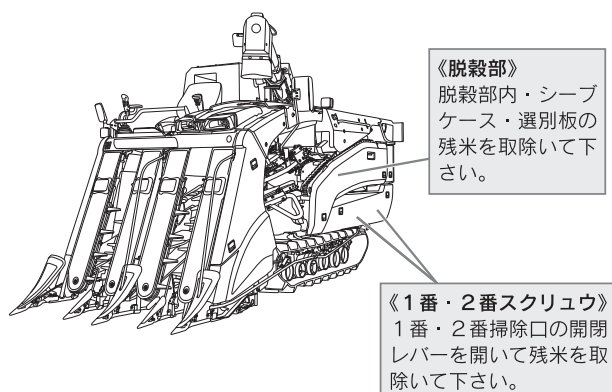
粳すり機

- 各部の掃除は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください
- はずしたカバー、点検フタは、必ず元どおりに取り付けてください

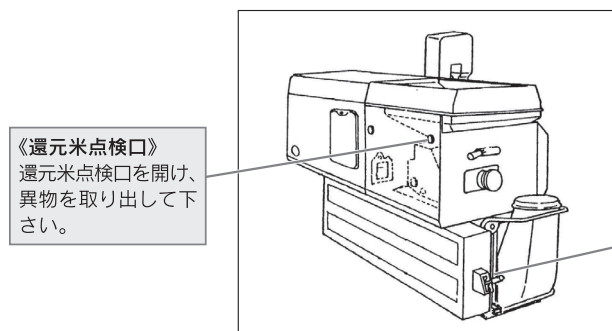
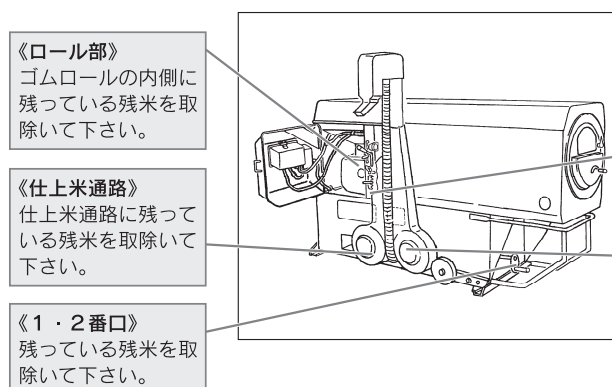
適正な乾燥・調製を 行いましょう

- 玄米水分値は、14.5～15.0%に仕上げましょう
- 選別機の網目は、LL 網 (1.90mm) 以上を使い、適正な流量で調製しましょう

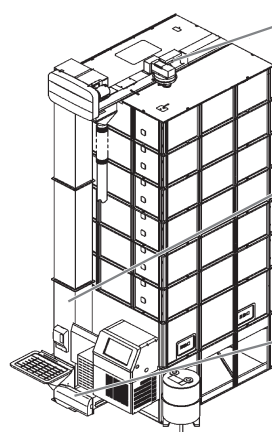
コンバイン



粳すり機 (回転式)



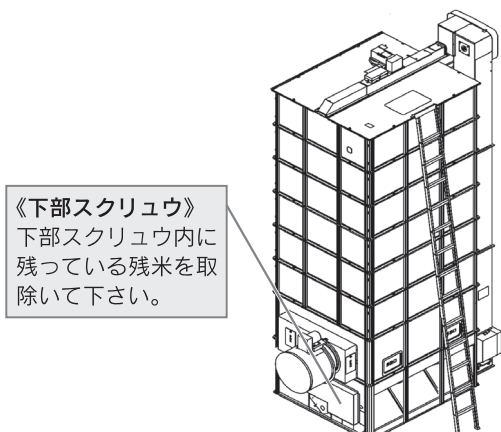
乾燥機



《上部スクリュウ》
上部スクリュウに残っている残米を取除いて下さい。

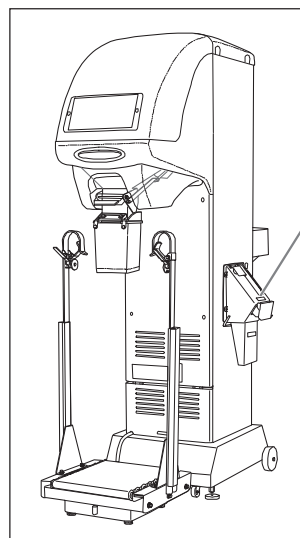
《水分計》
水分計の周りに残っている残米を取除いて下さい。

《昇降機下部》
昇降機下部に残っている残米を取除いて下さい。



《下部スクリュウ》
下部スクリュウ内に残っている残米を取除いて下さい。

選別計量機

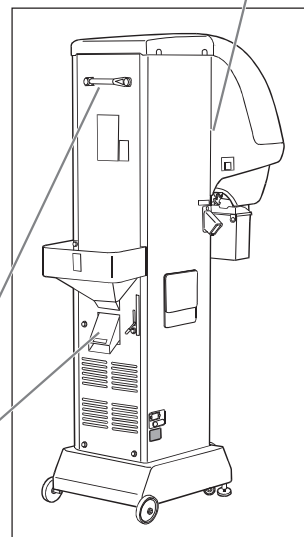


《屑米排出口》
屑米排出口を開いて残留米を取除いて下さい。

《金網》
タンク内の米・麦は全て取除いて下さい。

《点検カバー》
カバーを開いて残留米を取除いて下さい。

《残留米排出シャッター》
シャッターを開いて残留米を取除いて下さい。



初すり機（揺動式）

《脱ぶ点検、残米取出口》
「取出」の位置まで回し残米を排出して下さい。
《残米除去口》
《還元米点検口》
残米除去口・還元米点検口を外し中の残米・異物を除去して下さい。

《円筒内》
円筒内の残米を取除いて下さい。

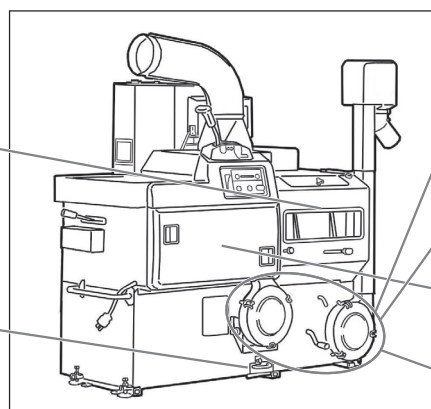
《ラセン底開閉レバー》
ラセン底開閉レバーを回転させ、「取出」の位置にして下さい。

《選別板》
選別板と循環排出バルブの周りに残っている残米を取除いて下さい。

《仕上米通路》
仕上米通路に残っている残米を取除いて下さい。

《精品排出スロフ》
精品排出スロフに残っている残米を取除いて下さい。

《昇降機掃除口》
混合昇降機内の残米を取除いて下さい。



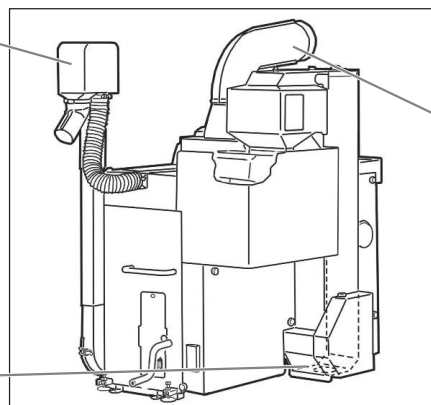
《混合米スクリュウ底》
混合米スクリュウ底の残米を取除いて下さい。

《未熟米スクリュウ底》
未熟米スクリュウ底の残米を取除いて下さい。

《ロール部》
ゴムロールの内側に残っている残米を取除いて下さい。

《返り粉スロフ》
送り粉スロフに残っている残米を取除いて下さい。

《ダクト内》
ダクト内の残米を取除いて下さい。



◆ 天候に左右されない米づくりは土づくりから

管内の水田土壌の問題点

- ① 手取川扇状地に位置し、耕土が浅く、腐植含量・保肥力・保水力が低い。
- ② 手取川水系は灌がい水中のケイ酸含量が少なく、ケイ酸分の天然供給が少ない。
- ③ 土づくり資材施用量が低下し、稲わらが分解されにくくなっている。

上記のような背景から、今後とも、天候に左右されない収量品質を確保していくため、稲わらの全量すき込みと併せ、土づくり資材を施用しましょう。

1. JA白山の土壌実態

R7年度採取結果（全集落平均）

	腐植	加里	ケイ酸
目標値	3%	30mg	30mg
最低基準値	2%	15mg	15mg
白山平均値	2.67%	18.8mg	17.0mg

稲体中の成分
(成熟期の石川農林管内6地点平均)

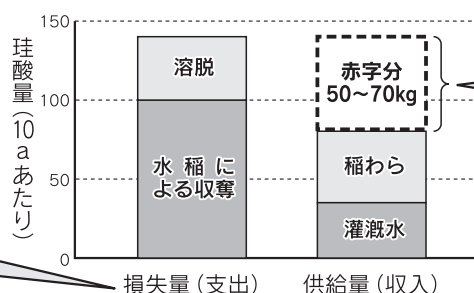
部位	乾物重 g/株	成分含有率(%)					
		窒素	リン酸	加里	ケイ酸	石灰	苦土
茎葉	39.3	0.6	0.2	1.9	8.0	0.5	0.2
穂	43.0	0.9	0.3	0.4	3.5	0.1	0.2

分析した6地点全てで健全な
ケイ酸含有率の基準値以下!!

※収穫期の健全な水稻の茎葉のケイ酸含有率は11%以上

2. 水稻ほ場のケイ酸「収支」

毎年10aで約150kg
のケイ酸分が水稻に
吸われる等、
「支出」となっている

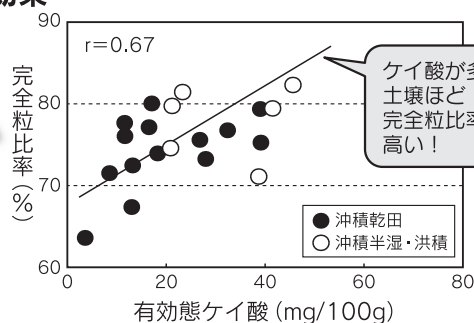


稲わらをすき込んで
還しても、毎年これだけの
ケイ酸分が「赤字」に!

→この分を「土づくり」
で補う必要がある

3. 土づくりの効果

品質向上!



土壌の有効態ケイ酸含量と完全粒比率の関係
(富山県、月刊「食糧ジャーナル」より)

収量向上!!

石川農林管内
29年産コシヒカリでの試験

収量(10a)	
BB土づくり資材 300kg施用区	623kg
BB土づくり資材 60kg施用区	566kg

→充分なケイ酸を与えてやればしっかり増収する!

その他にも、ケイ酸には「根張り向上」「受光体勢の向上による光合成活性化」「耐病虫性・耐倒伏性向上」「低温・日照不足・高温耐性の向上」「登熟向上による食味の向上」等、水稻にとって多様な効果があります。

土づくりを継続し、将来にわたって持続的な生産に努めましょう。

土壌分析結果と収量調査結果

(R7年度JA白山管内の17サンプル分析結果)

	pH	腐植 (%)	交換性加里 (mg/100g)	有効態ケイ酸 (mg/100g)	遊離酸化鉄 (%)	有効態リン酸 (mg/100g)
土づくりしていないほ場	5.4	2.53	18.2	10.5	0.70	25.9
土づくりしているほ場	5.6	2.75	19.0	20.5	0.89	26.1
管内平均	5.5	2.67	18.8	17.0	0.83	26.1
目標値	5.5 ~ 6.5	3.0%以上	30mg	30mg	0.8%以上	20mg

土づくりによってケイ酸に大きな差が!!
管内平均も目標値に達していないため、継続的な土づくりが必要!

◆ 土づくり3つのポイント ◆

① 秋起こしによる稲ワラのすき込み

稲の刈取後、なるべく気温の高いうちに稲ワラをすき込むことにより、稲ワラの腐熟促進につながります。また、稲ワラを早期にすき込むことで、次年度の硫化水素の発生によるガス沸きを抑えることができます。目安は10月中旬までを目標に頑張りましょう!

稲ワラは
しっかり還す!

② 土づくり資材の投入を

アルカリ分を始め、ケイ酸分を含む資材の投入をオススメします。また、含鉄資材は根を硫化水素から守る役割を果たします。

アルカリ分はpHを適正值へ誘導し、微生物の活性化による稲ワラの腐熟促進も期待できます。土づくり資材散布後に耕耘し、効果を高めましょう!

ケイ酸以外
も大切!

③ 深耕による作土深の確保を

作土を深くすることで根の成長領域を確保し、活力のある根を目指します。

トラクターの走行速度を遅くする、秋と春の2回荒起こし、「プラウ」や「スタブルカルチ」などの深耕用インプルメント等を活用しましょう。目標は15 ~ 18cm!

土づくりは
資材だけじゃない!

土づくり資材 散布量の目安

●BB白山大地	60kg/10a	●BB PKけい酸09号(補正剤)	60kg/10a
●BBひやくまん馬力	60kg/10a	●BBダイナマイトソイル	100kg/10a
●スーパーケイサン・改	60kg/10a	●BB鉄腕ソイル	60kg/10a

土壌分析結果や作付品種によって施用量を増やして下さい。

大豆栽培こよみ（里のほほえみ 目標単収250kg/10a）

		月	4月				5月			6月			7月	
		旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
単作	生育ステージ									出芽・苗立	生育期			
	畝立作業		排水対策		土づくり					播種	除草剤	培土	除草剤	培土
	狭畦作業									播種	除草剤	除草剤		
麦跡	生育ステージ									出芽・苗立	生育期			
	畝立作業		大麦生育 (消雪後の溝を手直し)				大麦収穫	麦稈処理	土づくり		播種	除草剤	除草剤	培土
	狭畦作業										播種	除草剤	除草剤	

里のほほえみ 収量構成目標				
10aあたり苗立数 1.5万～1.8万本	株あたり着莢数 40 莢／株	莢あたり粒数 1.7 粒／莢	整粒割合 80 %	百粒重 35 g

重要

排水対策で収量が決まります

【排水対策（播種前）】

①水口はしっかり止める

漏水を防止する

②額縁明渠を設置（深さ30cm以上を目標に）

なるべく早めに行い、土を乾かす時間を確保
降雨の後でもすぐ播種できるようになる
逆勾配にならないように注意

③排水口をつなぐ

堰板を抜き、深く掘り下げ、水が流れやすいようにする

④サブソイラ等で心土を破碎する

縦に水が抜けるため、滞水しにくくなる
ただし地下水位が高い場合は行わない

【排水対策（播種後）】

⑤播種直後に縦方向に明渠を設置し、
額縁とつなぐ

排水が容易になるので、夏場の畝間かん水が
やりやすくなる
マクラ部分が排水を妨げないように溝を作る
(又はマクラには植えない)

額縁排水は深さ30cm

水が流れるように傾斜

水口は止める

水尻はつなぐ

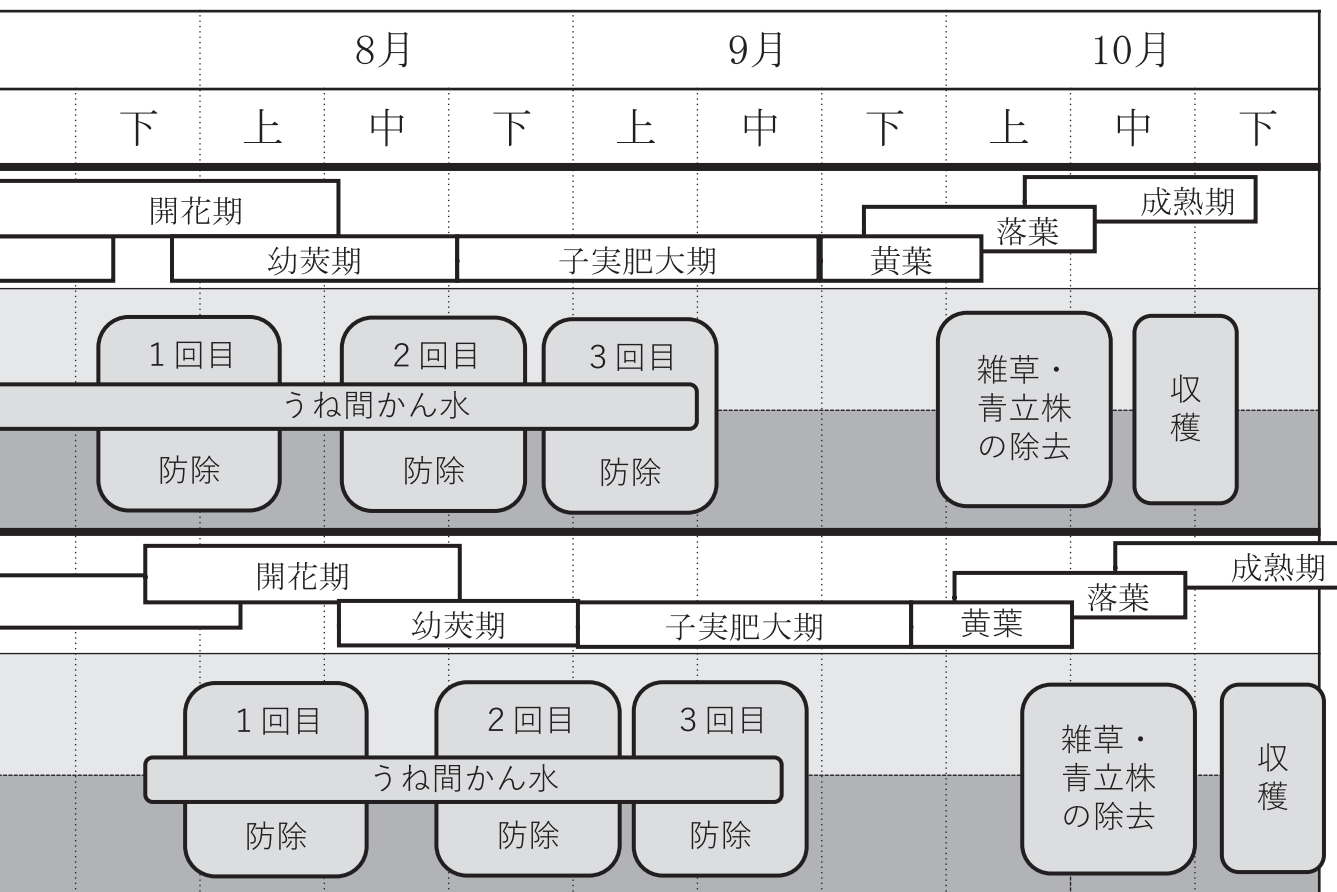
ところどころつなぐ

溝を作り、額縁とつなぐ

入水

排水

- 50 -




【土づくり】
 土壌pHを6.0～6.5に矯正する（次頁参照）

【基肥】
 耕起前または播種時に施用する（次頁参照）

【播種】
 耕起、播種、覆土は一日で完了させる
 乾かした土壌でゆっくり作業し、砕土率を上げる
 狭畦栽培は倒伏を避けるため6/10以降に播種する
 播種量は次頁参照

【雑草対策】
 ①苗立ちを良くする
 ②砕土率を高め、土壌処理剤の効果を高める
 ③タイミングを見極めて茎葉処理剤を散布する
 ④(畝立の場合)残草したら畝間処理する
 ⑤難防除雑草が発生した場合は相談する

【培土】
 大豆5～6葉期（播種後1ヶ月頃）に実施
 初生葉が隠れる程度に、株元に確実に土寄せする
 開花期に入ったら培土はしない（根傷み防止）

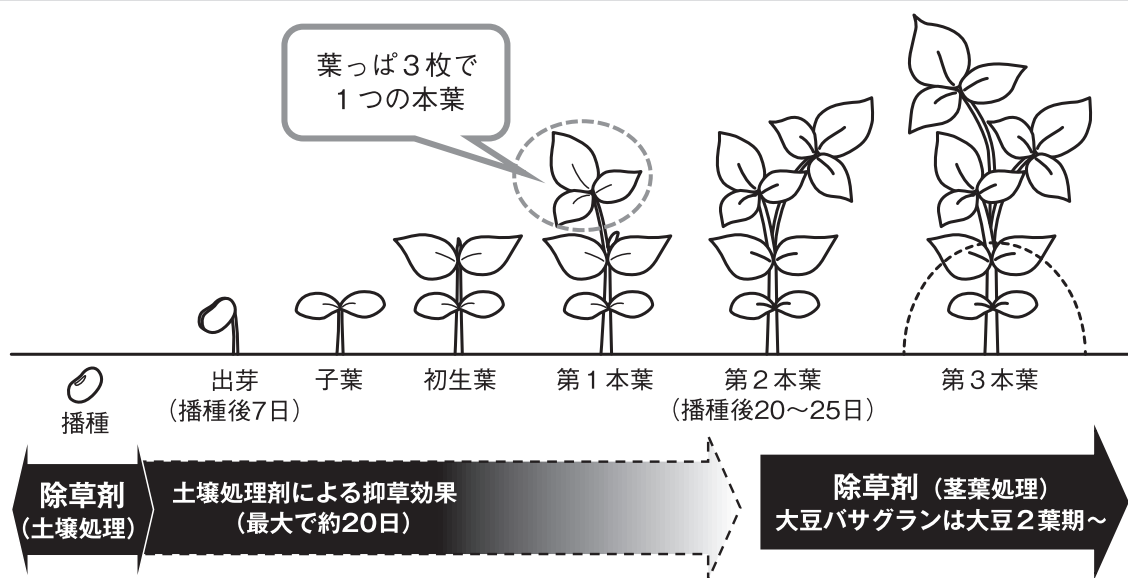
【畝間かん水】
 **高温対策**
 干ばつで落花・落莢が発生し、
 収量減や青立ちにつながる
 ↓
 開花期以降は干ばつ防止に努める
 晴天が3日以上続いたら入水
 ※注意点は次頁参照

【病虫害防除】
 ①開花期
 葉焼病、ウコンノメイガ
 ②開花20～30日頃
 カメムシ類、紫斑病 他
 ③開花40～50日頃
 カメムシ類、ハスモンヨトウ他
 カメムシ類は青立ちの原因になるので3回防除に努める(次頁参照)

【収穫】
 コンバイン刈取適期
 ・莢や子実水分が18～20%
 ・茎の水分が60%以下
 茎の色が黄褐色～褐色になったら
 収穫を行う

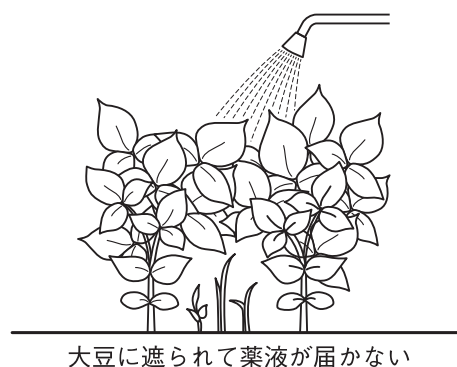
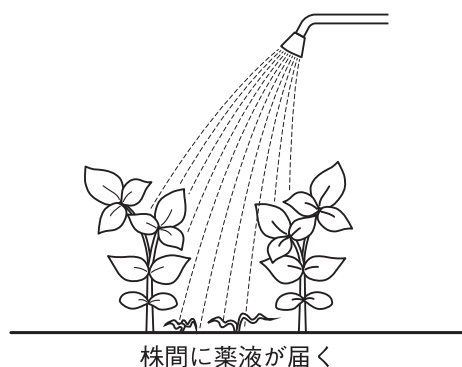
【大豆栽培における雑草防除の考え方】

- ① 苗立ちを良くして、大豆で土壌表面を覆う
- ② 大豆が小さい間は、土壌処理剤と茎葉処理剤で抑草する



③ 株間除草の徹底

大豆が繁茂してからだと、株と株の間には薬液が届かず、残草する
 大豆が小さいうちに、なるべく早く撒くのが肝心
 一方、茎葉処理剤は残効がないので、雑草発生量との兼ね合いで散布時期を決める



※難防除雑草（帰化アサガオ等）が発生している場合は、相談してください。
 （特に狭畦栽培で、難防除雑草の繁茂により収穫不能となる事例が発生しています）

【畝間かん水の考え方】

実施すべき時期は、開花期～幼莢期～子実肥大期

開花期～幼莢期は、大豆が最も水を必要とする時期で、着莢数の確保に必要です。
 子実肥大期も、かん水することで、百粒重の増加と品質向上が見込めます。
 なお、開花期前のかん水は、気象と生育に応じて判断します。

注意事項

- ① 過湿（根腐れ）に注意
- ② 培土の直後は避ける
- ③ 除草剤散布の前後は避ける

涼しい時間帯に走り水で実施し、直ちに落水する
 数日～1週間程度あけるのが理想
 茎葉処理除草剤は乾燥状態で施用する
 散布後は土が乾いてから（数時間～1日後）かん水する

大豆栽培ごよみ

◆肥料

(1) 土づくり

資材名	10aあたり施用量
苦土石灰	100kg
BB新転作エース(大豆用)	80kg

(2) 基肥・追肥

栽培方法 施肥体系	施用時期	資材名	10aあたり施用量
畝立【分施】	【基肥】 耕起前 または は種前	BB高度056	25*
		BBエコ028号	25*
	【追肥】 2回目培土時 または 開花期前	硫安	10
		BBNK17	12
畝立【一発】 狭畦【一発】	耕起前 または は種前	大豆一発N25	25

* 低地力ほ場は左記以外に10kgを全層施用する

◆種子処理

薬剤名	使用時期	使用量	適用病害虫名	使用回数
キヒゲンR-2 フロアブル	は種前	乾燥種子1kg当たり 原液20ml塗沫	紫斑病、苗立枯病、ハト、タネバエ、カラス	1回
クルーザーMAXX	は種前	乾燥種子1kg当たり 原液8ml塗沫処理	紫斑病、苗立枯病、茎疫病、黒根腐病、リゾクトニア根腐病、 フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類	1回

◆播種量

播種時期	栽培方法	播種の深さ	播種量 (kg/10a)	目標苗立数(本)		想定苗立率 (%)
				10aあたり	1mあたり	
6/1 - 6/10	畝立80cm	3cm	7	15,000	12.0	75.0
(麦跡) 6/10 - 6/25	畝立80cm	3cm	8.5	18,000	14.4	74.1
	狭畦30cm	4cm	9	18,000	5.4	70.0
	狭畦25cm	4cm	8.5	17,000	4.3	70.0

◆雑草防除

(1) 土壌処理

除草剤名	使用時期	10aあたり使用量	使用回数	適用雑草名	備考
クリアターン細粒剤F	は種直後 (雑草発生前)	4~5kg	1回	一年生雑草	全面土壌散布 (土が湿っている) 状態で散布する
クリアターン乳剤	は種直後 (雑草発生前)	薬量500~800ml (希釈水量70~100ℓ)	1回	一年生雑草	
トレファノサイド粒剤2.5	は種後発芽前	4~6kg	1回	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、 キク、アブラナ科を除く)	
トレファノサイド乳剤	は種後発芽前	薬量200~300ml (希釈水量100ℓ)	1回	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、 キク、アブラナ科を除く)	
ラクサー粒剤	は種後出芽前 (雑草発生前)	4~8kg	1回	一年生雑草	
ラクサー乳剤	は種後出芽前 (雑草発生前)	薬量400~600ml (希釈水量100ℓ)	1回	一年生雑草	



大豆栽培ごよみ

◆雑草防除（つづき）

（2）生育期

除草剤名	使用時期	10a当たり使用量	使用回数	適用雑草名	備 考
ナブ乳剤	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 (但し収穫30日前まで)	薬量150～200ml (希釈水量100～150ℓ)	1回	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布
	雑草生育期 イネ科雑草6～8葉期 (但し収穫30日前まで)	薬量200ml (希釈水量100ℓ)			
ポルトフロアブル	雑草生育期 イネ科雑草3～10葉期 (但し収穫30日前まで)	薬量200～300ml (希釈水量100ℓ)	2回	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	
大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) (但し収穫45日前まで)	薬量100～150ml (希釈水量100ℓ)	1回	一年生雑草 (イネ科を除く)	
ザクサ液剤	雑草生育期：畦間処理 (但し収穫28日前まで)	薬量300～500ml (希釈水量100～150ℓ)	3回以内	一年生雑草 【非選択性】	雑草茎葉散布 
バスタ液剤	雑草生育期：畦間処理 (但し収穫28日前まで)	薬量300～500ml (希釈水量100～150ℓ)	3回以内	一年生雑草 【非選択性】	
ラウンドアップ マックスロード	雑草生育期：畦間処理 (但し収穫前日まで)	薬量200～500ml (希釈水量50～100ℓ)	2回	一年生雑草 【非選択性】	
ブリグロックSL	雑草生育期(草丈30cm以下)： 畦間処理 (但し収穫3日前まで)	薬量600～1,000ml (希釈水量100～150ℓ)	4回以内	一年生雑草 【非選択性】	

※大豆バサグラン液剤は、エノキグサ、アカザ、シロザ、イヌビエ、ホソアオゲイトウには効果が劣りますので、これらが優占する
 場合は使用を避けて下さい。

※大豆バサグラン液剤はポルトフロアブルと混用できますが、ナブ乳剤との混用は双方の効果が低下するので避けて下さい。

◆病害虫防除

（1）粉剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a当たり 使用量	対象病害虫名	使用回数
1 回 目	開花終期	7/25 ～ 30	Zボルドー粉剤DL [—]	3kg	紫斑病	—
			ダントツH粉剤DL [収穫7日前まで]	4kg	ウコンノメイガ、カメムシ類、 マメシクイガ、アブラムシ類、 フタスジヒメハムシ	3回以内
2 回 目	子実肥大初期 (開花後25日頃)	8/8 ～ 12	トライトレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	3kg	紫斑病、フタスジヒメハムシ、 カメムシ類、マメシクイガ、 ハスモンヨトウ、ダイズサヤタマバエ	2回以内
3 回 目	子実肥大後期 (開花後45日頃)	8/27 ～ 9/5	トレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	4kg	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 シロイチモジマダラメイガ、 フタスジヒメハムシ、カメムシ類	2回以内
随 時	子実肥大 後期以降	カメムシ類 多発時	スタークル粉剤DL [収穫7日前まで]	3kg	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、 ダイズサヤタマバエ	2回以内

(2) 液剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]		10a当たり 希釈倍数	対象病害虫名	使用回数
1 回目	開花終期 (開花後15日頃)	7/25 ~ 30	混 用	Zボルドー水和剤 プレバソンフロアブル5 [収穫7日前まで]	500倍 4,000倍	紫斑病、葉焼病、斑点細菌病、 ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、 マメシクイガ、オオタバコガ	— 2回以内
2 回目	子実肥大初期 (開花後25日頃)	8/8 ~ 12	(混用) ①アミスター20フロアブル ②ミネクトエクストラSC [収穫7日前まで]		①2,000倍 ②10,000倍	①紫斑病 ②カメムシ類、ハスモンヨトウ、 マメシクイガ	2回以内
3 回目	子実肥大後期 (開花後45日頃)	8/27 ~ 9/5	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]		1,000倍	ウコンノメイガ、アブラムシ類、 ハスモンヨトウ、カメムシ類、 マメシクイガ他	2回以内
随 時		ウコンノメイガ ヨトウ 多発時	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]		1,000倍	ウコンノメイガ、アブラムシ類、 ハスモンヨトウ、カメムシ類、 マメシクイガ 他	2回以内
随 時		ハダニ 初発時	ニツソラン水和剤 [収穫7日前まで]		2,000倍 3,000倍	ハダニ類	2回以内
随 時	子実肥大 後期以降	カメムシ類 多発時	スタークル液剤10 [収穫7日前まで]		1,000倍	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、 ダイズサヤタマバエ	2回以内

(3) 航空防除

	【品種】 生育ステージ	使用時期 の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a使用液量 ／倍率	対象病害虫	使用回数
1 回目	開花終期 (開花後15日頃)	7/25 ~ 30	プレバソンフロアブル5 [収穫7日前まで]	0.8ℓ 16~32倍	ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、 マメシクイガ、オオタバコガ	2回以内
2 回目	【品種共通】 子実肥大初期 (開花後25日頃)	8/8 ~ 12	(混用) ①アミスター20フロアブル ②ミネクトエクストラSC [収穫7日前まで]	0.8ℓ ／①16~24倍 ②40倍	①紫斑病 ②カメムシ類、ハスモンヨトウ、 マメシクイガ	2回以内
3 回目	【品種共通】 子実肥大後期 (開花後45日頃)	8/27 ~ 9/5	トレボンエアー [収穫14日前まで]	0.8ℓ ／8倍	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 カメムシ類	2回以内
随 時	ヨトウ多発時	7/下 ~ 8/上	トレボンエアー [収穫14日前まで]	0.8ℓ ／8倍	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 カメムシ類	2回以内
随 時	カメムシ多発時	8/下 ~	スタークル液剤10 [収穫7日前まで]	0.8ℓ ／8倍	カメムシ類、フタスジヒメハム シ、 ダイズサヤタマバエ	2回以内

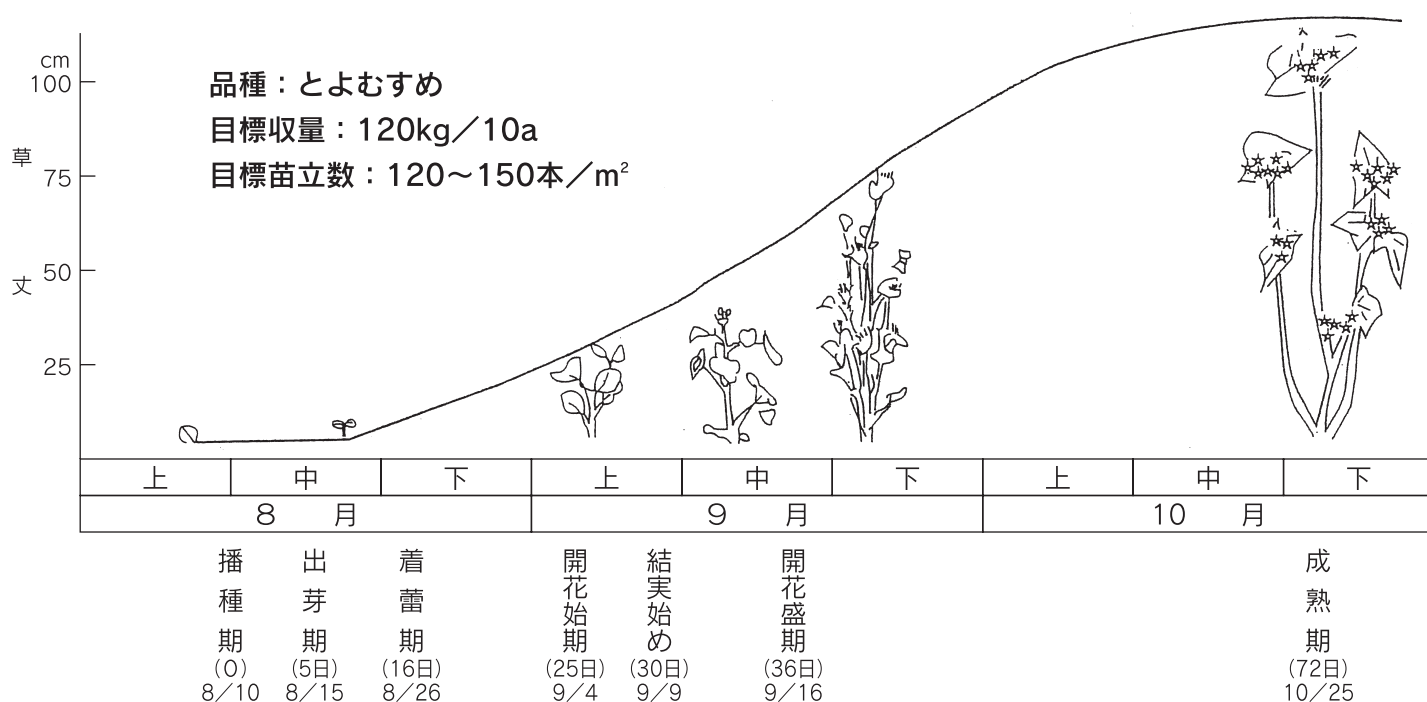
※ハダニ多発時には、ブームにてニツソラン水和剤を散布してください。

秋 そば 栽培 ご よ み

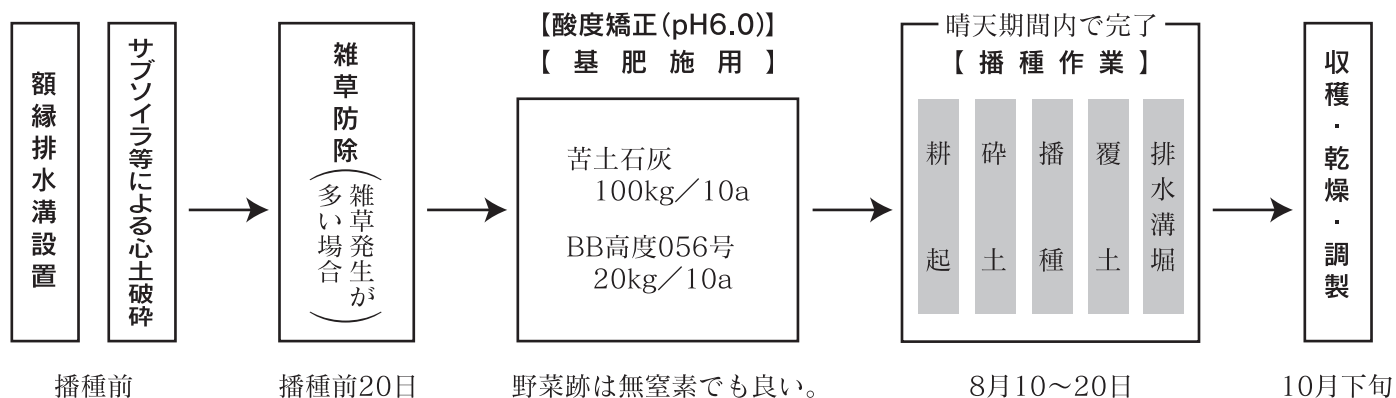
排水対策を徹底しよう！

額縁排水溝とほ場内排水溝の組み合わせにより、地表面に水がたまらないように。

- ① 湿害にきわめて弱く、ほ場の排水状態が出芽やその後の生育、収量に大きく影響する。
- ② そばの茎は中空でもろく、他の作物に比べ倒伏しやすい。特に開花期間の倒伏は、稔実を著しく悪くし収量は激減する。
- ③ 穂発芽し易い等の特徴が見られるので、集団で栽培する場合は、危険分散から、段蒔き栽培をする。
- ④ 連作ほ場では、連作障害により生育不良になったり、立枯れ病の発生が見られるので、連作にならないようにする。



◆作業内容



時 期	作 業 手 順 ・ 作 業 内 容		注 意 事 項
播 種 前	排水対策 雑草対策＝播種前に雑草の多い場合 ＝ラウンドアップマックスロード散布 250～500mℓ/10a		<ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場が乾いている時に額縁排水溝を作る。 ・ サブソイラ等による心土破碎を行う。 ・ 梅雨明け後、事前に耕起し雑草を枯死させる。 ・ 耕起前又はは種前まで（雑草生育期）
播 種 期	基	苦 土 石 灰 100kg/10a	・ そばの適正 pHは6.0である。
	肥	BB高度056号 又は BBエコ028号 20kg/10a 地力のあるほ場では 10kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜跡で残存肥料の多いほ場では無窒素でも良い。 ・ 燐酸、加里の増施は、生育量を確保し、稔実を高める効果がある（BB高度056号）。 ・ 黒ボク等の火山灰土壌では、燐酸質資材を十分に施用する。
	耕起・砕土・整地 （ロータリ耕）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出芽を揃えるため、トラクターは低速、ロータリは回転を上げて土を細かくして整地する。 （砕土率は土塊の大きさ2cm以下が60%以上を） 目標とする
	播種時期 【8月10日～20日中心】		段蒔きは8月30日までに終わらす。
	播 種 法	<ul style="list-style-type: none"> ● 条播 播種量 5kg/10a 条間隔 25～30cm 又は 条間隔 60～70cm ● 散播 播種量5～7kg/10a 3～5cm程度の深さにロータリ 低速回転で混層する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 播種深さは2～3cmを目安にする。 ・ 条間隔 60～70cmの場合は開花期までに中耕・培土を実施する。（本葉2～4枚頃）
・ 晴 ・ 天 ・ 期 ・ 間 ・ 内 ・ に ・ 完 ・ 了	排水溝掘り 周辺部：深さ20～30cm ほ場内：深さ20cm		<ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場内に3～5mに一本の溝を切り、額縁排水溝に連結し、水止尻につなぐ。 ・ うね肩の土をならし、うね上に水がたまらないようにする。
8 月 下 旬	雑 草 対 策	イネ科雑草が多い場合、 必要に応じ散布 ナブ乳剤 150～200mℓ/10a 全面散布	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫45日前まで ・ 散布適期はイネ科雑草5葉期まで
	追 肥	硫安 5～10kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双葉が出たときに葉色が薄い場合は施肥 ・ 基肥無施用、生育量が不足の場合も施肥 ・ 条播で中耕・培土を行う場合は、その前に施肥
10 月 下 旬	収穫・乾燥・調製 そばコンバインで収穫		<ul style="list-style-type: none"> ・ コンバイン収穫で、全子実の80%が褐変したところで収穫する。 ・ 適期より遅れた場合には脱粒しやすい（早朝か曇天の日に収穫する）。

大麦栽培ごよみ(収量目標400kg/10a)

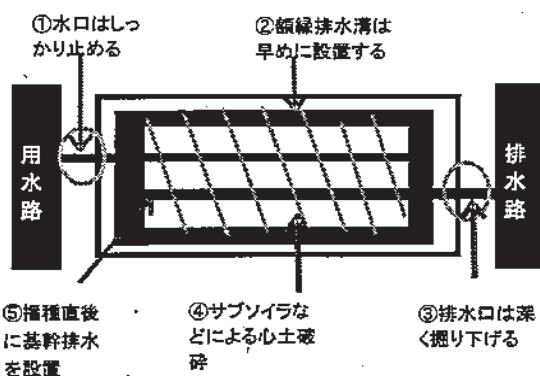
大麦栽培の3大ポイント

- ① 排水対策の徹底 ② pH矯正と適正な施肥 ③ 適期播種

月	9月	10月				11月			12月		
旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
生育ステージ				出芽・苗立 目標苗立数 150~180本/㎡			分げつ期				
主な作業	排水対 土づくり		播種 播種適期 10月10日~25日					排水溝の手直し			

<排水対策>

- ・明きよは額縁排水溝に加え縦方向に数本排水溝を設置する。
- ・ほ場内に水が溜まりにくくするため、サブソイラーによる心土破碎を行う。



<土づくり>

- ・土壌pHを6.0~6.5に矯正

資材名	10a当たり施用量
苦土石灰	100kg
BB新転作エース(大麦用)	80kg

<基 肥>

- ・耕起前又は播種時に施用する。

肥料名	10a当たり施用量
BB大麦一発くんN35	40kg

<追 肥>

- ・生育状況に応じて施用

施用時期	肥料名	10a当たり施用量
消雪期(3月上~中旬)	BBNK17号	6~9kg
止葉展開期(3月下旬~4月初旬)		6kg

<播種時期と播種量>

- ・播種時期 10月10日~20日 ※適期に遅れる場合は、播種量を1kg程度増やす。
- ・種子消毒

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
ベンレートTコート	乾燥種子量の0.5%粉衣 (7kg当たり35g)	は種当日	1回

- ・播種量

播種量	条 間	1m当たりの種子繰り出し量	駆動輪の直径: 35cm の場合 $0.35 \times 3.14 \times 5 \text{ 回転} = 5.50\text{m}$ 落下種子量 ÷ 5.50m = 1m 当たり種子量 ※種子量 2.1g は、約 60 粒となります。
7kg/10a	30cm	2.1g	
	28cm	2.0g	
	26cm	1.8g	

400本
42粒
70%
35g

– 59 –

参 考 資 料

目標収量は確保できていますか？ 稲作技術の基本から見直そう！ ～収量構成要素から組み立てる栽培管理～

1. 収量と収量構成要素

- 収量は、4つの要素から成り立ち、各要素の掛け算で表すことができます。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{収 量} \\ \hline \text{(精玄米重)} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{A. 穂数} \\ \hline \text{(本/㎡)} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{B. 一穂粒数} \\ \hline \text{(粒/穂)} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{C. 登熟歩合} \\ \hline \text{(\%)} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{D. 千粒重} \\ \hline \text{(g)} \\ \hline \end{array}$$

コシヒカリの目安

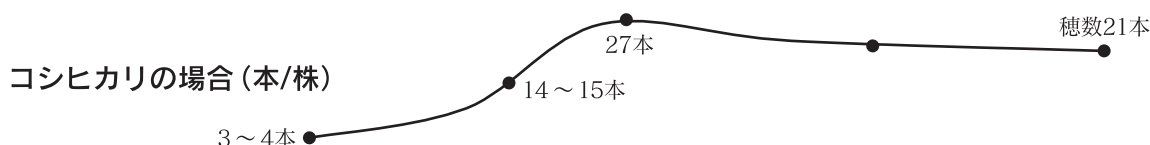
$$540\text{kg}/10\text{a} = \text{A} \ 380 \text{ (本/㎡)} \times \text{B} \ 74 \text{ (粒/穂)} \times \text{C} \ 85 \text{ (\%)} \times \text{D} \ 22.5 \text{ (g)}$$

- 各要素のうち、どれかの値が増えたり減ったりすることにより、収量が増減します。
- また、**A. 穂数**が多いと**B. 一穂粒数**が減ったり、**B. 一穂粒数**が多いと**C. 登熟歩合**や**D. 千粒重**が下がってしまう、といったようにそれぞれの要素が関係し合っています。
- 地域や品種によって目標(目安)となる収量と収量構成要素があるので、これらの目標値に近づくように、生育途中の栽培管理を行いましょう。

2. 収量構成要素が決まる要因

(1) **A. 穂 数** … 1㎡当たりの収穫できる穂の本数

- 目標とする穂数の確保が安定栽培の基本です。
- 穂数の多少は分けつが多いか少ないかが大きく影響します。苗の活着後、次々と分けつが出て、移植後45～50日ごろに最高分けつ期となり、その後出た分けつは、早く出た分けつと養分や水の奪い合いに負けて枯死します(無効分けつ)。
- 穂数を決めるのは
 - ① 植え付け株数(栽植密度) ② 植え付け本数
 - ③ 植え付け深さ(初期分けつの発生に影響します)
 - ④ 施肥量(基肥量) ⑤ 苗の質(老化苗は初期分けつの発生が遅れる)
- 茎数を過剰に増やしても最終的な穂数は品種特性の範囲内に落ち着きますが、そういった無効分けつの多い生育型は効率が悪く、最終的な収量品質を引き下げる要因となります(有効茎歩合が低い型)。



生育時期	5月			6月			7月			8月			9月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	田植期	活着期	分けつ期			最高分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期		出穂期	登熟期		成熟期		
										8/1頃			9/5頃		

(2) B. 一穂粉数 … 1つの穂に実る粉の数

- これを決める要素は、穂につく粉数がどのくらい分化し、分化した粉数がどれだけ退化（減少）するかで決まります。

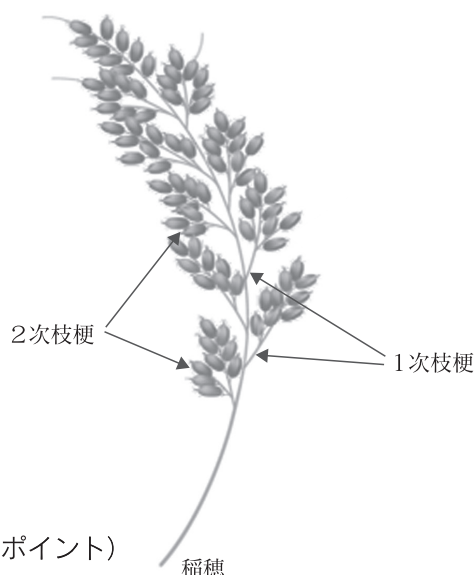
- 粉数を多くするには枝梗の数を多くし、それにつく粉数を多くする必要があります。

枝梗と粉の数は、それらの分化が始まる出穂32日前から粉が退化する出穂12日前頃の栄養状態が影響します。

①幼穂形成期（出穂25日前後の稲体の貯蔵養分量）

②穂肥の時期

（穂ができるまでにどれだけの養分を貯めることができたかがポイント）



(3) C. 登熟歩合 … 全粉数に対する成熟した粉の割合

登熟歩合低下の直接要因		環境条件等 【最も影響を受けやすいのは、穂ばらみ期～出穂15日後】
不稔粉	受精がうまく行われなかった	特に、花粉ができる時期や出穂期の環境（低温・高温、強風・台風など）の影響を強く受ける →気象に大きく左右される
未熟粒	受精はうまく行われたが、十分にデンプンが蓄積されなかった	光合成による同化養分量の影響を強く受ける →下記の栽培管理で改善できる ①適期に適正な穂肥 ②出穂期から収穫までの水管理（刈取間際まで健全な根を多く確保）

(4) D. 千粒重 … 精玄米1,000粒当たりの重さ

- もみ殻の大きさとその中の胚乳に蓄積されるデンプン量で決まります。
デンプンは主に登熟期の光合成によって作られ、葉から粉へ移行するが、そのうち20～30%は出穂期までに茎と葉に蓄積されたデンプンが粉に移行します。
- 千粒重を高めるためには、登熟歩合と同様に、①適期に適正な穂肥 ②出穂期から収穫までの水管理 でより多くのデンプンを作って、粉へと送る能力を維持することが重要です。

★目標収量に届いていない場合は、目標に対し必ずA B C Dのどこかが不足しています。収量改善に向けた対策には、何が不足しているのか、途中の生育相の把握が第一歩です。

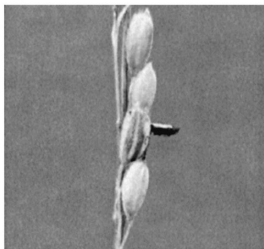
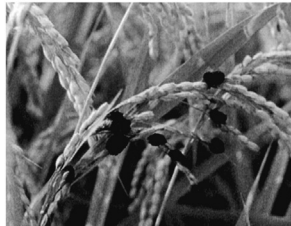
★収量構成要素の中では、「穂数」が最初に決定される重要な要素です。

★「穂数」は、初期分げつ発生の良し悪しが大きく影響します。

★昨年、なかなか茎数が確保出来なかったという場合は、良質苗にする育苗管理（温度や水分）や田植え後の水管理を見直してみましょう。

◆ 近年発生が見られる被害粒対策

《変色粒》

	墨黒穂病	稲こうじ病
病徴・診断	<p>内外穎の縫合部または穎の裂け目から粘質を帯びた黒色で舌状の突起物。</p> <p>日がたつと突起物は砕けて、黒粉（厚膜胞子）が飛散、籾の表面が黒く汚れる。</p> 	<p>気象条件により発生量は大きく左右され、低温、日照不足、多雨条件下で多発します。</p> <p>栽植密度が低く、多肥であるほど発生が多くなる傾向があります。</p> 
多発要因	<p>【気象】 出穂期前20日間の特異な多雨や日照不足（福岡県、1993） 7～8月の多雨や浸冠水（新潟県、1996）</p> <p>【栽培】 窒素の多施用、晩生種の栽培</p>	<p>【気象】 穂ばらみ期～出穂期の低温多雨 特に、穂ばらみ期の低温は発病を助長</p> <p>【栽培】 窒素の多施用、中・晩生種の栽培</p>
薬剤防除	<p>モンガリット粒剤</p> <p>防除適期：墨黒穂病は出穂2週間前、稲こうじ病は出穂3週間前 （使用基準：収穫30日前まで）</p> <p>使用量：3～4kg/10a</p> <p>適用病虫害名：墨黒穂病、稲こうじ病、紋枯病、疑似紋枯症</p>	
	<p>ブラシン水和剤</p> <p>防除適期：出穂直前 （使用基準：収穫30日前まで）</p> <p>希釈倍数：1,000倍</p> <p>適用病虫害名： 墨黒穂病、いもち病、ごま葉枯病、穂枯れ、変色米</p>	<p>Zボルドー粉剤DL</p> <p>防除適期：出穂14～10日前 （使用基準：出穂10日前まで）</p> <p>使用量：3～4kg/10a</p> <p>※穂に付着すると薬害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布すること。</p>

（注）モンガリット粒剤は、使用後5日間は湛水状態を保ち、7日間は強制的に落水しない。

昨年、稲こうじ病が発生したほ場は防除を実施して下さい。

品質を落とす玄米の種類と発生要因およびその対策

種 類			発 生 要 因		軽減対策の要因	
			気象面	生育・管理面	気象面	生育・管理面
未熟粒	乳心白粒	胚乳部中心が白色不透明なもの 	・出穂後～20日間の高温(27℃以上)急激な成熟でデンプンの供給がおいつかず、部分的にデンプンが不足して発生する ・主に日照不足や倒伏で発生助長 ・登熟中期のフェーン	・籾数過多 ・弱勢穎花での発生が多い→養分競合 ・幼穂形成期の稲体窒素濃度が低いと増加 ・胚乳細胞の過大と養分蓄積不足 ・出穂後～20日間の葉色低下	・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・土づくり ・作土深の確保 ・珪酸質資材の施用 ・籾数の適正化(3万粒/㎡以内) ・倒伏防止 ・登熟後半までの水分確保・葉色維持
	白腹白粒	米粒の腹側が白色不透明なもの 	・登熟中期の高温 ・低温ではほとんど発生しない ・多日照や高温による、穂の表温の高まり	・出穂期の適正な葉色の確保 ・登熟期間の稲体の活力低下(出穂前後～成熟期までの水不足、生育後半の栄養不足)		・土づくりの実施 ・作土深の確保 ・珪酸質資材の施用 ・登熟後半までの栄養状態の維持 ・出穂期の適正な葉色の確保 ・登熟後半までの水分補給(早期落水は避ける)
	背白粒	米粒の背側が白色不透明なもの 	・登熟中後期の高温27℃以上で多発 ・低温ではほとんど発生しない ・多日照や高温による、穂の表温の高まり	・登熟期間の葉色が淡いと多発 ・登熟後期のデンプン蓄積不良→ソース(玄米)能力やシンク(茎葉)能力の凋落		
	基部未熟粒	米粒の基部が白色不透明なもの 	・登熟後期の高温27℃以上で多発 ・背白粒よりさらに後半のデンプン蓄積不良 ・低温でも発生する			
	その他未熟粒	充実の不十分な粒。扁平で厚みが薄い、縦溝が深いもの等 	・フェーン等による枝梗の枯れ上がり ・登熟期間の気温日較差が少ない過高温による登熟阻害 ・少雨等により、登熟後半の栄養凋落	・中干しの不徹底 ・過剰な基肥等により、生育量が過剰 ・穂肥量の過不足 ・選別の不徹底	・低温、不良天候時田植えによる植え傷み ・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・土づくり ・作土深の確保 ・珪酸質資材の施用 ・籾数の適正化(3万粒/㎡以内) ・倒伏防止 ・登熟後半までの水分確保
被害粒	胴割粒	米粒に亀裂が入っている等 	・出穂後10日間の高温(特に最高気温) ・登熟期間中の高温乾燥(フェーン等) ・出穂後30日～成熟期の多照 ・ほ場で軽微に発生(立毛胴割)もある	・出穂が早まり、高温時期に出穂・登熟を迎える ・早期の落水 ・刈遅れ	・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・登熟後半までの栄養状態の維持 ・登熟後半までの水分補給(早期落水は避ける) ・高温時の刈遅れを防止
	着色粒	カメムシ類による斑点米等 	・生育期間の気温が温暖に推移 ・登熟期間の高温 ・幼穂形成期の低温少日照	・畦畔雑草でのカメムシ類の増殖 ・適期防除の不徹底 ・畦畔、農道等の雑草処理の不備	・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・草刈りの徹底 ・適切なカメムシ防除

※表中に27℃とあるのは、平均気温である。


※籾中のデンプンの詰まる順序①中心部(登熟初期)→②腹側(登熟中期)→

→③背側(登熟後期)→④基部(登熟後期)

育苗期の病害の症状

苗立枯病				ばか苗病	細菌病	
フザリウム菌	ピシウム菌	リゾープス菌	トリコデルマ菌		粉枯細菌病	褐条病
地際部に白いカビがみられ、粉を中心に白～淡紅色のカビが蔓延する。 病原力は弱く、軟弱な苗を侵す。	急に苗がしおれ腐敗枯死する。坪枯症状となるが地際部にカビはない。ムレ苗の原因となる。緑化期後の低温・過湿は症状を助長	出芽時に箱全体が白いカビに覆われ、苗の生育が悪くなる。菌糸は太い。高温を好み繁殖は早い。伝染源は汚染粉・資材。	出芽時に白いカビが表面にでるが、緑化期以降は青緑色となり、立枯れ症状を呈す。繁殖は早く伝染源は汚染粉・資材。	黄化徒長し、やがて枯死する。本田移植後にも発病し罹病苗は稔実しない。種子伝染性で出穂後の粉や開花中の穎に侵入する。	苗腐敗症。出芽後早く地際部が褐色に腐敗し枯死する。症状が軽い場合は基部濁変し、芯葉は萎凋して容易に抜ける。発病は坪状。	地際部や葉身に暗褐色の条斑が現れ生育が不揃いとなる。芯葉は容易に抜けない。種子伝染性である。
						

※育苗期間中に細菌病が発生した場合は、苗箱等を消毒しましょう（「イチバン」がおすすめです。）

病害名	発生時期	処置方法	備考
ムレ苗 	硬化期 (1.5～2葉期が出やすい)	<ul style="list-style-type: none"> ・pH5.0前後にし、通気性のある床土を使用する。 ・低温時は保温資材をかける。 ・夜間冷えて晴天の日には早めにハウスをあけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉身が針状に巻き、しだいに黄褐色に変わる。 ・夜間8℃以下の低温と日中の高温により地上部と地下部のバランスがとれなくなり発生する。

いもち病の生態と防除

生態	病状	防除
① 伝染源は育苗時に発生した罹病苗、前年の被害わら。 ② 胞子は夜間に飛散し、気温が20～30℃で葉が10時間以上濡れていると感染。 ③ 気温が25℃前後で日照不足が続くと、葉いもちは上位葉に進展。 ④ 穂いもちは出穂以降雨が多いと発病し止葉に病斑がでると多発。	葉いもち：中央部灰白色、周縁部褐色の紡錘形の病斑を形成。悪化すると稲体は萎縮しズリコミ症状を示す。 穂いもち：穂首、枝梗等に暗褐色の病斑部より先端部が枯死し白穂となる。 節いもち：節が黒変乾燥して折れやすくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・葉いもち 田植直前（緑化期～当日）に育苗箱に箱施用薬を散布。 育苗箱処理が、できなかった場合、6月中旬に、オリゼメート粒剤を散布。発生をみたらブラシン粉剤DLを散布。 ・穂いもち 出穂直前～穂揃期に時期を失せず薬剤の一斉防除を必ず実施。耐性菌の発生防止のため同一薬剤の連用を避ける。
		
葉いもち	穂いもち	節いもち

基肥・穂肥肥料の特徴

基肥一発肥料	成分 (N-P-K)	特徴
コシ一発くんDX24	24-14-10	窒素成分：24%（内、基肥：約7.8%、穂肥：約16.2%） コシヒカリ向け基肥一発肥料。近年の高温に負けないよう、穂肥重視型に設計しており、上乗せ追肥（窒素分）が省略できる。
コシ一発くんNEO α	25-8-10	窒素成分：25%（内、基肥：約10.2%、穂肥：約14.8%） 基本のコシヒカリ向け基肥一発肥料。従来の肥料と比べて殻の崩壊性が高い被覆肥料を使用しており、殻の流出を抑えられる。
けい酸アップコシ一発くん	15-15-10 ケイ酸12、苦土1	窒素成分：15%（内、基肥：約5.7%、穂肥：約9.3%） 珪酸加里を配合しており、中間追肥（ケイ酸分）が省略できる。 殻の崩壊性が高い被覆肥料を使用しており、殻の流出を抑えられる。
早生一発くんDX28	28-13-9	窒素成分：28%（内、基肥：約9.4%、穂肥：約18.6%） 早生品種向けの基肥一発肥料。近年の高温に負けないよう、穂肥重視型に設計しており、上乗せ追肥（窒素分）が省略できる。
早生一発くんNEO	28-7-9	窒素成分：28%（内、基肥：約10.1%、穂肥：約17.9%） 基本の早生品種向け一発肥料。従来の肥料と比べて殻の崩壊性が高い被覆肥料を使用しており、殻の流出を抑えられる。
五百万石一発くん	28-13-9	窒素成分：28%（内、基肥：約9.9%、穂肥：約18.1%） 五百万石・石川門向け一発肥料。 着粒数を確保しつつ、粒張りの良さも目指した肥効となっている。
コシ直播一発くん	20-6-6 ケイ酸10、苦土1.7	窒素成分：20%（内、基肥：約10.2%、穂肥：約9.8%） コシヒカリの湛水直播専用肥料。 ケイ酸を配合し、直播による根が浅い稲体でも耐倒伏性を付与する。
V溝直播一発くん	41-0-0	窒素成分：41%（内、基肥：約0.4%、穂肥：約14.8%） 基本のコシヒカリ向け一発肥料。従来の肥料と比べて殻の崩壊性が高い被覆肥料を使用しており、殻の流出を抑えられる。

中間追肥	保証成分 (%)		特 徴
珪酸加里プレミアム	く溶性加里	20	<ul style="list-style-type: none"> ・施用効果……①受光態勢の向上 ②根張りの向上 ③倒伏の軽減 ④登熟向上 ⑤病虫害抵抗性の増大 ⑥倒伏防止 等 ・施用方法……ほ場に水のある状態で全面散布する。 ・施用時期と施用量……春代掻き前：60kg/10a または 出穂40日前（中干し前）：20～40kg/10a
	可溶性ケイ酸	34	
	く溶性苦土	3	
	く溶性ホウ素	0.05	
エスアイ加里投げくん	水溶性加里	33	<ul style="list-style-type: none"> ・投げ込みタイプとなり、施用が簡単に。 ・施用方法……ほ場に5 cm以上水のある状態で投げ入れ、4～5日間水を切らないようにする。 ・施用時期……出穂35～50日前、出穂20日前～出穂頃 ・施 用 量……10aあたり200 g 小袋を20個投げ入れる
	可溶性ケイ酸	35	

穂肥	成分 (N-P-K)	特 徴
とれるぞう	15-5-10	窒素成分：15%（内、速効性：約8%、遅効性：約7%） 有機含有量約30%
有機入り追肥いしかわライト550号	15-5-10	窒素成分：15%（内、速効性：約15%、遅効性：約0%） 有機含有量約20%
優米味R	16-5-10	窒素成分：16%（内、速効性：約16%、遅効性：約0%） 全量速効性の早生・コシヒカリ向け追肥。
優米味L	16-5-10	窒素成分：16%（内、速効性：約8%、遅効性：約8%） 晩生品種向け追肥。
優米味AIR R	30-0-7	窒素成分：30%（内、速効性：約30%、遅効性：約0%） 全量速効性の早生・コシヒカリ向け追肥。 ※固結等防止のため、開封後はできる限り早く、1回で使い切るように使用する。
優米味AIR L	30-0-7	窒素成分：30%（内、速効性：約15%、遅効性：約15%） 晩生品種向け追肥。 ※固結等防止のため、開封後はできる限り早く、1回で使い切るように使用する。

肥 料 銘 柄 一 覧 表

品 名	成 分 (%)	有機質 含量 (%)	容 量 (kg)	荷 姿	備 考
(単 肥)					
硫 安	N 21	—	20	ポリ	白色結晶，速効性
尿 素 (輸入)	N 46	—	〃	〃	白色結晶粒状，速効性
塩 安	N 25	—	〃	〃	白色結晶粗粒状，速効性
石 灰 窒 素 (粒)	N 20	—	〃	〃	灰黒色，緩効性
過 石 (粒)	P 17.5	—	〃	〃	灰白色，速効性
熔 燐 (砂)	P 20, Mg 15, Si 20	—	〃	〃	淡緑色粗粒状，緩効性
熔 燐 (粒)	P 20, Mg 12, Si 20	—	〃	〃	〃
腐 植 り ん	P 15, Mg 8 (腐植酸35)	—	〃	〃	茶黒色顆粒状，速効性，緩効性
苦 土 重 燃 燐	P 35, Mg 4.5	—	〃	〃	灰白色粒状，速効性，緩効性
塩 加 (粒)	K 60.5	—	〃	〃	白色，速効性
硫 加	K 50	—	〃	〃	灰白色結晶状，速効性
け い 酸 加 里 プ レ ミ ア	K 20, Si 34, Mg 4, B 0.1	—	〃	〃	灰白色粒状，緩効性
エスアイ加里カリ投げくん	K 33, Si 35	—	4	〃	
(普 通 化 成)	(N－P－K)				
尿 素 化 成 日 の 本 2 号	12－8－10	—	20	ポリ	水稻，麦，野菜
(有 機 化 成)					
苦土有機入化成特A 801号	8－8－8 Mg 3	35	20	ポリ	野菜，果樹
サンフルーツ化成S 989号	9－8－9 Mg 1	45	〃	〃	野菜，果樹
有 機 ア グ レ ッ ト 674号	6－7－4 Mg 1	100	〃	〃	水稻
有 機 ア グ レ ッ ト 727号	7－2－7	100	〃	〃	〃
有 機 ア グ レ ッ ト 844号	8－4－4 Mg 1	100	〃	〃	〃
有 機 ア グ レ ッ ト 655エコ	6－5－5 Mg 1	100	〃	〃	比重0.7±0.02
有 機 ア グ レ ッ ト 825エコ	8－2－5 Mg 1	100	〃	〃	比重0.67±0.02
有 機 ブ リ ケ ッ ト 038号	10－3－8	82	〃	〃	水稻
ユ ー キ P K	0－10－20 Mg 3	100	〃	〃	〃
B M 有 機 果 樹 専 用	8－7－7 Mg 2, Mn 0.4, B 0.2	50	〃	〃	果樹 (梨)
B M 有 機 1 号 新 号	13－10－12 Mg 2, Mn 0.4, B 0.2	20	〃	〃	
や さ い 有 機 S 3 号	10－6－7	30	〃	〃	野菜，果樹 (菜もの)
や さ い 有 機 S 2 号	8－7－8	50	〃	〃	野菜，果樹 (実もの)
ア ミ ノ エ ー ス	8－5－3	100	〃	〃	

品 名	成 分 (%)	有機質 含量 (%)	容 量 (kg)	荷 姿	備 考
(B B 普通)					
グ ッ ド サ ポ ー ト	K 5, Si 10, Mg 11, B 0.12, Mn 0.28	—	20	ポリ	水稻, 麦, 大豆, 野菜他
グ リ ー ン 1 号	6-6-7 Mg 1	90	〃	〃	野菜, 果樹
B M 粒 状 グ リ ー ン	6-6-7 Mn 0.3, B 0.15	81	〃	〃	果樹, 野菜
有 機 特 S 90号	6-6-5 Mg 1	90	〃	〃	水稻, 野菜他
(高度化成)					
F T E 磷 硝 安 S 604号	16-10-14 Mn 0.4, B 0.2	—	20	ポリ	野菜
I B 化 成 S 1 号	10-10-10 Mg 1	—	〃	〃	野菜 (基肥)
野 菜 磷 加 安 540号	15-14-10	—	〃	〃	野菜
M M B 磷 加 安 14号 A928号	14-10-13 Mg 3, Mn 0.38, B 0.18	—	〃	〃	〃
硝 酸 入 り S604号	16-10-14	—	〃	〃	〃
(B B 高度)					
高 度 056 号	10-25-16	—	20	ポリ	水稻, 麦, 大豆 (基肥)
エ コ 028 号	10-12-8 Mg 2, アルカリ13	—	〃	〃	〃
0 0 3 - 4 0 号	10-20-13	—	〃	〃	水稻
新 早 生 一 発 く ん	24-15-8	—	15	〃	水稻 (基肥一発)
早 生 一 発 く ん D X 28	28-13-9	—	〃	〃	〃
コ シ 一 発 く ん 1 号	20-21-13	—	〃	〃	平場 (つるぎ, 蝶屋地区) 肥料きき 長い
コ シ 一 発 く ん D X 24	24-14-10	—	〃	〃	水稻 (基肥一発)
コ シ 一 発 く ん N E O α	25-8-10	—	〃	〃	〃
早 生 一 発 く ん N E O	28-7-9	—	〃	〃	〃
けい酸アップコシー発くん	15-15-10 Si 12, Mg 1	—	〃	〃	〃
新 コ シ 一 発 く ん	20-17-10	—	〃	〃	〃
ス リ ム コ シ 一 発 く ん	20-10-10	—	〃	〃	〃
コ シ 直 播 一 発 く ん	20-6-6	—	〃	〃	〃
V 溝 直 播 一 発 く ん	41-0-0	—	〃	〃	〃
五 百 万 石 一 発 く ん	28-13-9	—	〃	〃	〃
P K け い 酸 09号	0-10-9 Mg 7.5, Si 24, アルカリ13	—	20	〃	水稻 (基肥)
L P 有 機 060 号	20-6-10	30	〃	〃	水稻 (追肥)
と れ る ぞ う	15-5-10 Mg 3	30	〃	〃	〃
有機入追肥いしかわライト550号	15-5-10	20	〃	〃	〃

品 名	成 分 (%)	有機質 含量 (%)	容 量 (kg)	荷 姿	備 考
優 米 味 R	16-5-10	—	20	ポリ	水稻 (追肥)
優 米 味 L	16-5-10	—	〃	〃	〃
優 米 味 A I R R	30-0-7	—	〃	〃	〃
優 米 味 A I R L	30-0-7	—	〃	〃	〃
大 麦 一 発 N 35	35-5-4	—	15	〃	大麦 (基肥一発)
大 豆 一 発 N 25	25-13-13	—	20	〃	大豆 (基肥一発)
S 604 号	16-10-14	—	〃	〃	野菜
FTE入り S 604 号	16-10-14 B 0.2, Mn 0.4	—	〃	〃	〃
422 号 (100)	14-12-12 Mg 1	—	〃	〃	野菜 (基肥)
(N K)					
N K 17 号	17-0-17	—	20	ポリ	水稻, 麦, 野菜
(液 肥)					
液 肥 10 号	10-5-8	—	20	缶	野菜, 果樹 (追肥)
(固形・配合)					
固 形 30号 (粒)	10-10-10	—	20	ポリ	水稻, 野菜, 果樹
有 機 S 1 番	8-5-6 Mg 1	50	〃	〃	野菜, 果樹
稲 10 号	10-10-10	—	〃	〃	水稻
(土づくり資材)					
ケ イ カ ル (砂)	アルカリ45, Si 30, Mg 4	—	20	ポリ	
ケ イ カ ル (粒)	アルカリ40, Si 30, Mg 5	—	〃	〃	
ようりんケイカル (砂)	P 5, アルカリ48, Si 28, Mg 7	—	〃	〃	
ようりんケイカル (粒)	P 5, アルカリ45, Si 25, Mg 7	—	〃	〃	
白 山 大 地	腐植酸5, P 3, Si 20, Mg 4.5, Mn 0.5, アルカリ37	—	〃	〃	
転 作 エ ー ス	アルカリ42, Si25, Mg2, B 0.4	—	〃	〃	
新転作エース (大麦用)	アルカリ41, Mg 12	8	〃	〃	含有成分: N0.5%未満, P0.5%未満, K0.5%未満, たい肥8%
新転作エース (大豆用)	アルカリ33, Mg 9	17	〃	〃	含有成分: N0.8%未満, P0.8%未満, K0.8%未満, たい肥17%
ダイナマイトソイル	アルカリ42, Si 25, Mg 2, Mn 0.4	—	〃	〃	
ス ー パ ー け い 酸	P 3, アルカリ44, Si 26, Mg 6	—	〃	〃	
ひ ゃ く ま ん 馬 力	P 2, アルカリ26, Si 20, Mg 4, B 0.05, Mn 0.1	—	〃	〃	含有成分: Fe 2.9, Cu 0.006, Zn 0.015, S微量
鉄 腕 ソ イ ル	アルカリ34, Si 20, Mg 1, B 0.5	—	〃	〃	含有成分: Fe16.5
(石 灰 類)					
消 石 灰 (粉)	アルカリ70	—	20	紙	畑作

品 名	成 分 (%)	有機質 含量 (%)	容 量 (kg)	荷 姿	備 考
クリーンライム (消石灰類粒)	アルカリ72	—	20	ポリ	〃
生 石 灰 (粒)	アルカリ90	—	25	〃	〃
苦 土 生 石 灰 (粉)	アルカリ100, Mg 30	—	20	〃	
苦 土 石 灰 (粉)	アルカリ55, Mg 15	—	〃	紙	
〃 (粒)	アルカリ55, Mg 15	—	〃	〃	
硫 酸 マ グ ネ シ ウ ム	WMg 25	—	〃	ポリ	水稻, 麦, 野菜, 果樹
セ ル カ (粉)	アルカリ46	—	〃	〃	カキ殻肥料
貝 化 石 (粉)	アルカリ40	—	〃	〃	野菜, 果樹, 茶
(雑 肥 料)					
F T E (2kg×12)	CMn 19, CB 9	—	24	ポリ	水稻, 麦, 野菜, 果樹
く み あ い 樹 皮 堆 肥	パーク堆肥 (粗目)	—	20	〃	野菜, 果樹 (本圃)
与 作 V 1 号	園芸パーミュキュライト材	—	15	〃	野菜, 果樹 (苗床)
と も だ ち 643号	6-4-3	100	〃	〃	〃
ソ イ ル パ ワ ー	牛ふん堆肥	—	10	ポリ	水稻, 野菜, 果樹, 花卉 (本圃)
ス ー パ ー ソ イ ル	濃縮堆肥	—	20	〃	水稻, 麦, 野菜, 果樹
ピ ー ト モ ス	カナダ産水ゴケ泥炭	—	24	〃	花木の新植, 育苗床土のPH調整
サ ン ド セ ッ ト 10kg	床土PH調整剤	—	10	〃	育苗床土のPH調整
(有 機 質)					
菜 種 油 粕	5-2-1	—	20	紙	すべての作物
ナ タ ネ ペ レ ッ ト	5-2-1	—	〃	〃	
醗 酵 鶏 糞 (粒)	4-4-2	—	15	ポリ	すべての作物
牛 ち ゃ ん パ ワ ー	—	—	20	〃	発酵牛ふん堆肥
と ん 骨 ペ レ	N 3, P 17	100	15	〃	骨粉代替
有 機 入 り O K ボ ー ン	N 3, P 20	20	20	〃	〃
魚 粕 粉 末	N 7, P 7	—	〃	〃	すべての作物
(園 芸 床 土)					
園 芸 床 土 1 号	葉菜用	—	20	ポリ	
〃 2 号	果菜用	—	〃	〃	
(水稲育苗マット)					
万 作 さ ん	1.5-1.0-1.5	—	25枚入	箱	ロックウール製

農薬の使用基準一覧

播種

注意 事項 ※掲載されている農薬の使用基準は、令和7年10月末現在のものです。
※農薬の使用にあたっては、容器等のラベルを確認の上、使用して下さい。
※薬量・希釈水量については、単位の記載がないものは、10a当りの使用量となります

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	希釈倍数	使用時期	使用方法
殺菌	テクリードCフロアブル	1回	イブコナゾール:1回、銅:制限なし	いもち病、褐条病、ごま葉枯病、苗立枯細菌病、苗立枯病(リゾーフス菌)、苗立枯病(トリコデルマ菌)、ばか苗病、もみ枯細菌病	200倍	浸種前	24時間種子浸漬
殺菌	ダコレート水和剤	1回	ヘノミル:2回(種子への処理は1回)、TPN:2回	いもち病(苗いもち)	400倍	播種時	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り0.5Lを灌注
		2回	ヘノミル:2回(種子への処理は1回)、TPN:2回	苗立枯病(トリコデルマ菌)、苗立枯病(リゾーフス菌)、苗立枯病(フザリウム菌)	400～600倍 800～1,200倍	播種時から緑化期ただし播種14日後まで	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り0.5Lを灌注 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り1Lを灌注
殺菌	タチガレエースM液剤	1回	ヒドロキシシキサザール3回以内(移植前の土壌混和は1回以内、移植前の土壌灌注は2回以内)、メラキシルM:4回以内(移植前の土壌混和は1回以内、育苗箱への灌注は1回以内、本田では2回以内)	ムレ苗防止、移植時の活着促進、根の生育促進、苗立枯病(ヒシウム菌、フザリウム菌)	500～1,000倍	播種時又は発芽後	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液500mlを土壌灌注する。
					1,000倍	播種時	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液1Lを土壌灌注する。
殺菌	ナエファインフロアブル	2回	ピカルブトラゾクス:3回以内(但し、土壌混和は1回以内、土壌灌注は2回以内)	苗立枯病(ヒシウム菌)ムレ苗防止根の生育促進移植後の活着促進	1000～2000倍	は種時～緑化期	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り0.5Lを土壌灌注
				苗立枯病(ヒシウム菌)苗立枯病(リゾーフス菌)苗立枯病(フザリウム菌)ムレ苗防止根の生育促進移植後の活着促進	2000倍	は種時	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り0.5～1Lを土壌灌注
				苗立枯病(リゾーフス菌)苗立枯病(フザリウム菌)	1000倍		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り0.5Lを土壌灌注
農業用資材消毒	イチバン	—	ベンチアゾール	育苗箱(木箱、プラスチック箱)、育苗用ポット、支柱など	水150L当たり150～300ml	—	瞬時浸漬又は散布
殺菌	ルーチンシードFS	1回	イソチアノル3回以内(但し、直播ではは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	いもち病、白葉枯病、内穎褐変病、もみ枯細菌病	乾燥種もみ1kg当り原液6～12ml(原液71ml/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)
				いもち病		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理
殺虫	ヨーバルシードFS	1回	テトラニプロロール:1回以内	イネミスゾウムシ、イネドロオイシ、イネヒメハモグリハエ、ニカメイチュウ、フタオビコヤカ、イネツムシ、キリウシガガンボ	乾燥種もみ1kg当り原液11ml(原液55ml/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理
				イネミスゾウムシ、イネドロオイシ、イネヒメハモグリハエ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタオビコヤカ、ツマグロヨコバイ、イネツムシ、キリウシガガンボ		は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	使用時期	使用方法
箱施薬	ファーストオリゼリディア粒剤	1回	フルピリン:3回(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)、 プロベナゾール2回(移植時までの処理は1回以内)	いもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イナゴ類、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50g	播種前	育苗培土に均一に混和する
					高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)	播種時(覆土前)	育苗箱の床土に均一に散布する
箱施薬	Dr. オリゼリディア箱粒剤	1回	フルピリン:3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)、 プロベナゾール2回以内(移植時までの処理は1回以内)	いもち病、白葉枯病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植7日前～移植当日	育苗箱の上から均一に散布
				もみ枯細菌病、内穎褐変病、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、フタオビコヤガ、イナゴ類		移植3日前～移植当日	
				穂枯れ(ごま葉枯病菌)		移植当日	
				いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、フタオビコヤガ、イナゴ類	高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50～100g)	移植3日前～移植当日	
				いもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	1kg	移植時	側条施用
稲(側条施用)				いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用
湛水直播水稲							
箱施薬	ブーンレバード箱粒剤	1回	テラリブロール:1回 ジクロベンチアゾクス:1回 ベンフルフェン:1回	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ	1kg	移植時	側条施用
					高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)	播種時(覆土前)～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
					育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50g	播種前	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する
				白葉枯病、内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病)、もみ枯細菌病、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)	移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
倒伏軽減	スマレクト粒剤	1回	バクロフトラゾール:1回	節間短縮による倒伏軽減	2～3kg	出穂7～20日前	湛水散布
	ピピフル粉剤DL	1回	プロヘキサジオンカルシウム塩:1回	登熟歩合向上	3kg	出穂10～20日前	
殺菌	モンセレン粉剤DL	4回	ベンシクロン:4回	紋枯病	3～4kg	収穫21日前まで	散布
殺菌	ブラシン粉剤DL	2回	フェリムゾン:2回 フザイト:3回	いもち病、ごま葉枯病、変色米(エビコカ菌)、変色米(カーブラ菌)、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、穂枯れ(すじ葉枯病菌)	3～4kg	収穫7日前まで	散布
				もみ枯細菌病、稲こうじ病、内穎褐変病	4kg		
殺菌	Zボルドー粉剤DL	制限なし	塩基性硫酸銅:制限なし	稲こうじ病	3～4kg	出穂10日前まで	散布
				墨黒穂病	4kg		
殺虫	スタークル粉剤DL	3回	ジメチフラン:4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ	3kg	収穫7日前まで	散布
殺虫	トレボン粉剤DL	3回	エトフェンプロックス:3回	イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類、アザミウマ類、イネミズゾウムシ成虫、イネドロオイムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ	3～4kg	収穫7日前まで	散布
				イネツトムシ	4kg		
				イネヒメハモグリバエ、フタオビコヤガ	3kg		
殺虫殺菌	ピームトレモンセレン粉剤DL	3回	エトフェンプロックス:3回以内 トリシタゾール:3回以内(移植箱への処理は1回以内、本田では3回以内) ベンシクロン:4回以内	いもち病、紋枯病 ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ	3～4kg	収穫21日前まで	散布
				穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネツトムシ	4kg		

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	使用時期	使用方法
殺菌	ブラシンフロアブル	2回	フェリムゾン:2回以内 フサライド:3回以内	いもち病、ごま葉枯病、穂枯(ごま葉枯病菌)、褐条病、変色米(カーブリア菌、エピコッカム菌、アルタナリア菌)、稲こうじ病、内穎褐変病、もみ枯細菌病、墨黒穂病	1000倍 60～150L	収穫7日前まで	散布
					300倍 25L		無人航空機による散布
					8倍 0.8L		
殺菌	ブラシンゾル	2回	フェリムゾン:2回以内 フサライド:3回以内	いもち病	原液 0.12L	収穫7日前まで	空中散布
				穂枯れ(ごま葉枯病菌)、内穎褐変病、もみ枯細菌病	8倍 0.8L		無人ヘリコプターによる散布
殺菌	バリダシン液剤5	5回	バリダマイシン:6回以内 ((育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	紋枯病、疑似紋枯病(赤色菌核病菌、褐色菌核病菌、褐色紋枯病菌)、もみ枯細菌病	1,000倍 60～150L	収穫14日前まで	散布
				紋枯病	300倍 25L		
殺菌	バリダシンエアー	5回	バリダマイシン:6回以内 ((育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	紋枯病	8倍 0.8L	収穫14日前まで	無人ヘリコプターによる散布
					300倍 25L		散布
殺虫	スタークル液剤10	3回	ジノテフラン:4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ	1000倍 60～150L	収穫7日前まで	散布
				ウンカ類、カメムシ類	300倍 25L		空中散布・無人航空機による散布
					8倍 0.8L		
殺虫	トレボン乳剤	3回	エトフェンプロックス:3回以内	コブノメイガ	1000倍 60～150L	収穫14日前まで	散布
				ツマグロヨコバイ、ウンカ類、イネドロオイムシ、イナゴ類	1000～2000倍 60～150L		
				カメムシ類、イネミズゾウムシ	2000倍 60～150L		
				ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、	300倍 25L		
				カメムシ類	600倍 25L		
殺虫	トレボンエアー	3回	エトフェンプロックス:3回以内	イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ	8倍 0.8L	収穫14日前まで	無人航空機による散布
殺虫 殺菌	ビームエイトスタークルゾル	3回	ジノテフラン:4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内) トリシクラザール:4回以内 (育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	いもち病 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	1,000倍 60～150L	収穫7日前まで	散布
					250～300倍 25L		無人ヘリコプターによる散布
					8倍 0.8L		
殺虫 殺菌	ビームエイトトレボンゾル	3回	エトフェンプロックス:3回以内 トリシクラザール:4回以内 (但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	いもち病 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	650倍 100～150L	収穫14日前まで	散布
					120～180倍 25L		空中散布
					5倍 0.8L		
				いもち病 ウンカ類、カメムシ類	5倍 0.8L		無人ヘリコプターによる散布
殺菌	モンガリット粒剤	2回	シメコナゾール:2回 (移植前は1回以内)	紋枯病、疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)、疑似紋枯症(赤色菌核病菌)、疑似紋枯症(灰色菌核病菌)、疑似紋枯症(褐色菌核病菌)、稲こうじ病、墨黒穂病	3～4kg	収穫45日前まで	散布
殺虫 殺菌	イモチエーススタークル粒剤	1回	ジノテフラン:4回(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)メトミストロピン:1回	いもち病、紋枯病、変色米(アルタナリア菌、カーブリア菌)、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、墨黒穂病、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、カメムシ類、フタオビコヤガ	3kg	収穫35日前まで	散布
殺虫	スタークル粒剤	3回	ジノテフラン:4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	ウンカ類、カメムシ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ・イネミズゾウムシ	3kg	収穫7日前まで	散布
殺虫 殺菌	ワイドパンチ豆つぶ	1回	エチアロール:2回以内 (但し、は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内) ホミストロピン:1回	稲こうじ病、いもち病、墨黒穂病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	250g	収穫35日前まで	散布
殺虫	スタークル豆つぶ	3回	ジノテフラン:4回以内 (但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	250～500g	収穫7日前まで	散布
				カメムシ類	250g		

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
初期	ソルネット1キロ粒剤	1回	フレチアクロール2回以内	水田一年生雑草、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ	1kg	-	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	砂壤土～埴土
							移植時	田植同時散布機で施用	砂壤土～埴土
初期	クラール1キロ粒剤	1回	ジメタリン2回 アタクロール2回	アオミドロ・藻類による表層はく離、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、水田一年生雑草	1kg	-	植代後～移植7日前又は移植直後～ノビエ1.5葉期 (但し、移植後30日まで)	湛水散布又は無人航空機による散布	-
初期	マーシェット乳剤	1回	アタクロール2回以内	一年生雑草	1,000～1,500ml	-	乾田直播の播種直後～稲出芽前(雑草発生前)(入水15日前まで)	全面土壌散布	-
初中期一発	アットウZ 1キロ粒剤	1回	ピラクロニル2回 プロピリスルフロニ2回 テアリトリオン2回	一年生雑草、多年生広葉雑草、アオミドロ・藻類による表層はく離	1kg	-	移植直後～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで)	湛水散布又は無人航空機散布	-
							移植時	田植同時散布機で施用	-
初中期一発	アットウZ 400FG	1回	ピラクロニル2回 プロピリスルフロニ2回 テアリトリオン2回	一年生雑草、多年生広葉雑草、アオミドロ・藻類による表層剥離	400g	-	移植後3日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用 又は無人航空機による散布	-
初中期一発	ゼアス1キロ粒剤	1回	オキサジクロメホン2回以内 ピラクロニル2回以内 ジメスルファセット2回以内	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ オモダカ クログワイ コウキヤガラ アオミドロ・藻類による表層はく離(顆粒のみ)	1kg	-	移植時	田植同時散布機で施用	-
							湛水散布又は、無人航空機散布		
	ゼアスジャンボ				小包装(パック) 10個 (400g)	-	移植直後～ノビエ2.5葉期 (但し、移植後30日まで)	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	-
	ゼアス顆粒				80g	500ml		湛水散布又は、無人航空機による滴下	-
						-	顆粒水口施用	-	
初中期一発	ベッカク1キロ粒剤	1回	ピリミスルファン:2回以内 フェニキサスルホン:2回以内 フェンキトリオン:2回以内	アオミドロ・藻類による表層はく離 一年生雑草 多年生雑草	1kg	-	移植直後～ノビエ3葉期 (但し、移植後30日まで)	湛水散布	-
					移植時	田植同時散布機で施用			
	ベッカク豆つぶ250			一年生及び多年生雑草	250g	-	移植後3日～ノビエ3葉期 (但し、移植後30日まで)	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用 又は無人航空機散布	-
	ベッカクジャンボ			一年生及び多年生雑草	小包装(パック) 10個 (250g)	-	移植後3日～ノビエ3葉期 (但し、移植後30日まで)	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	-
初中期一発	ブライオリティ 1キロ粒剤	1回	フェンキトリオン(3.0%)2回 トリアファモン(0.5%)2回	ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズカヤツリ、一年生雑草、多年生イネ科雑草	1kg	-	移植直後～ノビエ3.5葉期(但し、移植後30日まで)	湛水散布	-
					移植時	田植同時散布機で施用			
	ブライオリティジャンボ			一年生雑草及び多年生イネ科雑草	250g	-	移植直後～ノビエ3.5葉期(但し、移植後30日まで)	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	-
初中期一発	パッチリLX1キロ粒剤	1回	イマズスルフロニ2回以内 オキサジクロメホン2回以内 ピラクロニル2回以内 プロモアタド:2回以内	一年生雑草、多年生広葉雑草、アオミドロ・藻類による表層はく離	1kg	-	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	-
							移植時	田植同時散布機で施用	
初中期一発	流星1キロ粒剤	1回	フェンキトリオン2回以内 ベントキサザン2回以内 メタゾスルフロニ2回以内	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ	1kg	-	移植直後～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布 又は無人航空機による散布	-
							移植時	田植同時散布機で施用	
初中期一発	ディオーレ1キロ粒剤	1回	オキサジクロメホン2回以内 テアリトリオン2回以内 メタゾスルフロニ2回以内	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草	1kg	-	移植時	田植同時散布機で施用	-
							移植直後～ノビエ3.0葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は、無人航空機による散布	
初中期一発	ディオーレジャンボ				小包装(パック) 10個 (400g)	-	移植後1日～ノビエ3.0葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	-
初中期一発	ディオーレ顆粒				80g	500ml	移植後3日～ノビエ3.0葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は、無人航空機による滴下	-

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
中後期	モゲトン粒剤	3回	ACN:3回以内	ウキクサ類、藻類(アオミドロ、アミミドロ)	2～3kg	－	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	砂壤土～埴土
				ウリカワ、ヒルムシロ	3～4kg	－	ウリカワの増殖初期 ヒルムシロの発生始～増殖始 但し、収穫45日前まで		埴土
				藻類による表層はく離	1～2kg	－	藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫45日前まで		
中後期	ヒエクリーン 1キロ粒剤	1回	ピリミノパツグチル:2回以内	ノビエ	1kg	－	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	砂壤土～埴土
	ヒエクリーン豆つぶ250				250g	－		湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
中後期	クリンチャー 1キロ粒剤	2回	シハロネツプブチル:3回以内	ノビエ、キシウスズメノヒエ、アゼガヤ	1kg	－	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	砂壤土～埴土
					1.5kg		移植後25日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで		
中後期	クリンチャーEW	2回	シハロネツプブチル:3回以内	ノビエ、キシウスズメノヒエ、アゼガヤ	100ml	25～100L	移植後20日～ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は落水散布	砂壤土～埴土
中後期	クリンチャーパスME液剤	2回	シハロネツプブチル:3回以内 ベンタゾン:2回以内	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、セリ、コウキヤガラ、シズイ、キシウスズメノヒエ	1,000ml	70～100L	移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	砂壤土～埴土
中後期	アトトリ 1キロ粒剤	1回	ピリミルファン:2回以内	ノビエ、多年生広葉雑草	1kg	－	移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	－
	アトトリ豆つぶ250				250g			湛水散布又は無人航空機による散布	－
中後期	ロイヤント乳剤	2回	フロビラウキシフェンベンジル:3回以内	一年生広葉雑草、ノビエ、マツバイ、ミズカヤツリ、ウリカワ、セリ	200ml	100L	移植後20日～ノビエ5葉期但し、 収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布 又は湛水散布	－
				エゾノカヤツリゲサ、オモダカ、アゼガヤ				落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
中後期	レプラスギア1キロ粒剤	1回	シクロトリモレート:2回以内 テフリルトリオン:2回以内 メタゾスルフロン:2回以内	水田一年生雑草及び多年生広葉雑草	1kg	－	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	－
	レプラスギアジャンボ				小包装(ハック) 10個(300g)	－		水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる	
	レプラスギアエアー				300g	－		湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	
中後期	ワイドアタックSC	2回	ベノキスラム:2回	一年生雑草 および 多年生広葉雑草	100ml	100L	移植後20日(稲5葉期以降)～ノビエ6葉期 但し、 収穫30日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
				ノビエ・オモダカ		0.8～1.6L		無人航空機による散布	－
中後期	ノミニー液剤	1回	ビスピリハックナトリウム:1回	クサネム、イボクサ	50～100ml	100L	移植後30日～クサネムの草丈40cmまで 但し、収穫60日前まで 移植後30日～イボクサの茎長30cmまで 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	埴土～埴土
中後期	バサグラン・エアー1キロ粒剤	1回	ベンタゾン:2回以内	一年生雑草(イネ科を除く)、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、エゾノサヤヌカグサ、シズイ	1kg	－	移植後15日～ 但し、収穫45日前まで	落水又はごく浅く湛水して無人航空機による散布	－
	バサグラン粒剤(ナトリウム塩)				3～4kg	－		落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
	バサグラン液剤(ナトリウム塩)	2回		一年生雑草(イネ科を除く)、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、クログワイ、コウキヤガラ、クサネム、エゾノサヤヌカグサ、シズイ	500～700ml	70～100L	移植後15日～ 但し、収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
中後期	ナイスミドル1キロ粒剤	1回	シトラリン:2回以内 フルセスルフロン:2回以内 ベンフルセート:2回以内	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、コウキヤガラ	1kg	－	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	砂壤土～埴土

農薬の使用基準一覧

畦畔除草

農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	作物名または適用場所
ラウンドアップ マックスロード	3回	グリホサート:3回以内	スギナ	1,500～2,000ml	通常散布 50～100L 少量散布 25～50L	雑草生育期	雑草茎葉散布	公園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等
			一年生雑草	200～500ml		雑草生育期		
			多年生雑草	500～1,000ml		雑草生育期		
			ススキ、ヒレハリソウ、クズ等のつる性多年生雑草、ササ類、雑かん木	1,000～2,000ml		雑草生育期		
	2回	グリホサート:2回以内	一年生雑草及び多年生広葉雑草	200～500ml	通常散布 50～100L 少量散布 5～50L	雑草生育期 (但し、耕起前)	雑草茎葉散布	水田耕起前 (移植水稻)
	1回	グリホサート:1回	一年生雑草	200～500ml	通常散布 50～100L 少量散布 5～50L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田刈跡
			多年生雑草	500～1,000ml				
	3回	グリホサート:3回以内	一年生雑草	200～500ml	通常散布 50～100L 少量散布 25～50L	雑草生育期 (水田畦畔は収穫前日まで)	雑草茎葉散布	水田畦畔
			多年生雑草	200～1,000ml				
			スギナ	1,500～2,000ml	少量散布 5～25L	雑草生育期	雑草茎葉散布	休耕田
			一年生雑草及び多年生広葉雑草	200～1,000ml				
			一年生雑草	200～500ml	通常散布 50～100L 少量散布 5～50L	雑草生育期	雑草茎葉散布	休耕田
			多年生雑草	500～1,000ml				
			スギナ	1,500～2,000ml	通常散布 50～100L 少量散布 25～50L	雑草生育期	雑草茎葉散布	休耕田
サンフーロン液剤	3回	グリホサート:3回以内	スギナ	2,000ml	50～100L	雑草生育期	雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等
			一年生雑草	500ml	100L	雑草生育期		
			多年生雑草	1,000ml	100L	雑草生育期		
	2回	グリホサート:3回以内	一年生雑草	250～500ml	50～100L	雑草生育期 但し、収穫14日前まで	雑草茎葉散布	水田畦畔
			多年生雑草	500～1,000ml				
	1回	グリホサート:1回	一年生雑草	250～500ml	50～100L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田作物 (水田刈跡)
	1回	グリホサート:2回以内	一年生雑草	250～500ml	50～100L	雑草生育期但し、耕起20～10日前まで	雑草茎葉散布	水田耕起前 (移植水稻)
サンダーボルト 007	3回	グリホサート:3回以内 ピラフルフェンエチル:3回以内	スギナ	1000～4,000ml	100L	雑草生育期 (草丈30cm以下)	雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
		グリホサート:3回以内 ピラフルフェンエチル:3回以内	一年生及び多年生雑草	500～1,000ml		雑草生育期 (草丈50cm以下)		
	2回	グリホサート:3回以内 ピラフルフェンエチル:2回以内	一年生及び多年生雑草	400～600ml	100L	雑草生育期又は刈取後再生期 但し、収穫14日前まで	雑草茎葉散布	水田畦畔
	1回	グリホサート:1回 ピラフルフェンエチル:1回	一年生雑草	400～600ml	100L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田作物 (水田刈跡)
			多年生雑草	500～2,000ml				

農薬の使用基準一覧

畦畔除草

農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	作物名または適用場所
ザクサ液剤	1回	グルホシネートPナトリウム塩:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期 (草丈30cm以下)	雑草茎葉散布	水田作物 (水田耕起前)
	1回	グルホシネートPナトリウム塩:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期 (草丈30cm以下)	雑草茎葉散布	水田作物 (水田刈跡)
	3回	グルホシネートPナトリウム塩:3回以内	一年生雑草、多年生雑草	500～1,000ml	100～150L	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫7日前まで	雑草茎葉散布	水田作物 (水田畦畔)
パスタ液剤	3回	グルホシネート:3回以内	一年生雑草	500～1,000ml	100～200L	雑草生育期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等
			多年生雑草	1,000～2,000ml				
	1回	グルホシネート:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期 (耕起15日前まで)	雑草茎葉散布	水田作物 (水田耕起前)
	1回	グルホシネート:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田刈跡
	2回	グルホシネート:2回以内	一年生雑草、多年生雑草	500～1,000ml	100～150L	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫7日前まで	雑草茎葉散布	水田作物 (水田畦畔)
					少量散布 30～40L			
	3回	グルホシネート:3回以内	一年生雑草、多年生雑草	500～1,000ml	100～150L	雑草生育期 (草丈50cm以下)	雑草茎葉散布	水田作物・畑作物 (休耕田)
カソロン粒剤6.7	1回	DBN:1回	一年生雑草及び多年生広葉雑草(まめ科を除く)、スギナ	4～6kg	－	秋冬期～春期の雑草発生前～発生始期	全面土壌散布	水田畦畔
	1回	DBN:1回	水田一年生雑草、マツバイ	4～6kg	－	4～7月の雑草発生前～発生始期	全面土壌均一散布又は土壌混和処理	休耕田
	3回	DBN:3回以内	一年生雑草	6～9kg	－	雑草発生前～雑草発生始期	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壌散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
			多年生広葉雑草スギナ	10～15kg	－			
ダイロンゾル	2回	DCMU:1回	一年生雑草	200～250ml	100L	雑草発生前～生育初期 但し収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	水田畦畔
	3回	DCMU:3回以内	一年生雑草	1,000～2,000ml	100L	雑草発生前～生育初期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布又は全面土壌散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
		DCMU:3回以内	コケ類	500～1,000ml	100～200L	コケ類生育期		
カーメックスD	1回	DCMU:1回	一年生雑草	150～300g	70～100L	雑草発生前～雑草発生初期	散布 (茎葉兼土壌処理)	水田畦畔
	3回	DCMU:3回以内	一年生雑草	300～600g	100～200L	雑草発生前～生育初期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布又は全面土壌散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
			多年生広葉雑草	1,000～2,000g		生育初期～生育中期		

農薬の使用基準一覧

畦畔除草

農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	作物名または適用場所
プリグロックスL	3回	ジクワット:3回以内 パラコート:3回以内	スギナ	1,000～2,000ml	100～150L	スギナ生育期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、宅地、のり面等
			一年生雑草	800～1,000ml	100～150L	雑草生育期		
			多年生雑草	1,500～2,000ml	100～150L	雑草生育期		
	5回	ジクワット:5回以内 パラコート:5回以内	一年生雑草	600～1,000ml	100～150L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田畦畔
			多年生雑草	1,000～2,000ml				
	1回	ジクワット:1回 パラコート:2回以内	一年生雑草	800～1,000ml	100～150L	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで	雑草茎葉散布	移植水稻 (刈取後または耕起前)
	4回	ジクワット:4回以内 パラコート:4回以内	一年生雑草	800～1,000ml	100～150L	雑草生育期	雑草茎葉散布	休耕田
	1回	ジクワット:1回 パラコート:2回以内	一年生雑草	600～1,000ml	100～150L	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで又は雑草生育期、は種前14日～は種後7日(イネ出芽前)	雑草茎葉散布	直播水稻
2,4Dアミン塩	3回	2,4-PA:3回以内	一年生及び多年生広葉雑草	100g	100L	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布	水田畦畔
ロイヤント乳剤	2回	フルルピラウキシフェンベンジル:2回以内	一年生及び多年生広葉雑草	200ml	25～100L	収穫45日前まで (雑草生育期)	雑草茎葉散布	水田畦畔
クロレートS	制限なし	塩素酸塩:制限なし	一年生雑草、及び多年生イネ科雑草	20～25kg	-	水稻刈取後 (秋期雑草生育期)	水稻刈取跡に全面土壌散布	水稻刈取跡
			オモダカ	30～40kg				
			一年生雑草、及び多年生広葉雑草	20～40kg		水稻刈取後	全面土壌散布	水田畦畔
			一年生雑草、及び多年生雑草	30～60kg		雑草生育期		休耕田

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
種子処理	キヒゲンR-2フロアブル	1回	チウラム:1回	紫斑病、苗立枯病、タネバエ	乾燥種子1kg当り原液20ml	-	播種前	塗沫処理	-
種子処理	クルーザーMAXX	1回	チアトキサム:3回(1は種前の塗沫処理は1回、播種後は2回)、フルジオキシニル:1回、メタラキシルM:4回(種子粉衣及び播種前の塗沫処理は合計1回以内、播種後は3回以内)	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、リゾクトニア根腐病、茎疫病、苗立枯病(ピシウム菌)、紫斑病、黒根腐病、白絹病	乾燥種子1kg当り8ml	-	播種前	塗沫処理	-
除草	クリアター細粒剤F	1回	ベンチオカーブ:1回、ベンデメタリン:1回、リニクロン:2回(全面土壌散布は1回、雑草茎葉兼土壌散布は1回)	一年生雑草	4～5kg	-	播種直後(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	クリアター乳剤	1回	ベンチオカーブ:1回、ベンデメタリン:1回、リニクロン:2回(全面土壌散布は1回、雑草茎葉兼土壌散布は1回)	一年生雑草	500～700ml	70～100L	定植3日前まで(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	ラクサー乳剤	1回	アラクロール:1回 リニクロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)	一年生雑草	400～800ml	100L	播種後出芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	ラクサー粒剤	1回	アラクロール:1回 リニクロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)	一年生雑草	4～8kg	-	播種後出芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	砂土を除く全土壌
除草	ポルトフロアブル	2回	キザロホップエチル:1回	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	200～300ml	通常散布 50～100L 少量散布 25～50L	雑草生育期(イネ科雑草の3～10葉期) 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	-
除草	ナブ乳剤	1回	セトキシム:1回	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	150～200ml 250～300ml	通常散布 50～100L 少量散布 25～50L 100～150L	雑草生育期(イネ科雑草3～8葉期) 但し、収穫30日前まで 雑草生育期(イネ科雑草9～10葉期) 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	-
除草	大豆バサグラン液剤	1回	ベンタザン:2回以内(畦間処理は1回)	一年生雑草(イネ科を除く)	100～150ml 300～500ml	100L 100L	だいの2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで だいの生育期(雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布 畦間雑草茎葉散布	-
除草	ブリグロックSL	4回	ジクワット:4回以内 ハラコート:4回以内	一年生雑草	600～1,000ml	100～150L	播種前又は植付前 播種後出芽前雑草生育期(草丈20cm以下) 畦間処理 雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、収穫3日前まで	雑草茎葉散布	-
除草	ザクサ液剤	3回	グルホシネート:3回以内 グルホシネートP:3回以内	一年生雑草	300～500ml	100～150L	畦間処理:雑草生育期 但し、収穫28日前まで	雑草茎葉散布	-
除草	バスタ液剤	3回	グルホシネート:3回以内 グルホシネートP:3回以内	一年生雑草	300～500ml	100～150L	株間処理:本葉5葉期以降、雑草生育期 但し、収穫28日前まで 畦間処理:雑草生育期 但し、収穫28日前まで	雑草茎葉散布	-
除草	ラウンドアップマックスロード	2回 1回	グリホサート:4回	畑地一年生雑草	200～500ml 500ml	通常散布 50～100L 少量散布 5～50L 通常散布 50～100L 少量散布 25～50L 50～100L	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期) 畦間処理:収穫前日まで(雑草生育期) 落葉終期～収穫14日前まで(雑草生育期)	雑草茎葉散布	-

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
殺菌	Zボルドー粉剤DL	制限なし	制限なし	紫斑病、茎疫病	3kg	－	－	散布	－
混合	スミトップM粉剤	4回	MEP:4回以内 チオファネートメチル:4回以内	紫斑病、マメシクイガ、カメムシ類、ダイズサヤタマバエ、シロイチモジマダラメイガ	3～4kg	－	開花期～若英期 但し、収穫21日前まで	散布	－
混合	トライトレポン粉剤DL	2回	エトフェンプロックス:2回以内 デフプロキン:2回以内	紫斑病、フタスジヒメハムシ、カメムシ類、マメシクイガ、ハスモンヨトウ、ダイズサヤタマバエ	3～4kg	－	収穫14日前まで	散布	－
殺虫	ダントツH粉剤DL	3回	クロチアニジン:4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	アブラムシ類、カメムシ類、フタスジヒメハムシ マメシクイガ、ウコンノメイガ	3～4kg 4kg	－	収穫7日前まで	散布	－
殺虫	トレポン粉剤DL	2回	エトフェンプロックス:2回以内	アブラムシ類、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、シロイチモジマダラメイガ、アズキノメイガ、マメシクイガ、ダイズサヤタマバエ、ハスモンヨトウ	4kg	－	収穫14日前まで	散布	－
殺菌	Zボルドー	制限なし	塩基性硫酸銅:制限なし	紫斑病、葉焼病	500倍	100～300L	－	散布	－
殺菌	アミスター20フロアブル	2回	アゾキシストロビン:2回	紫斑病	2000～3000倍 16～24倍	100～300L 0.8L	収穫7日前まで	散布 無人航空機による散布	－
殺虫	プレバサンフロアブル5	2回	クロラントラニリプロール:2回以内	ウコンノメイガ、オオタバコガ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ ウコンノメイガ、オオタバコガ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ	4000倍 16～32倍	100～300L 0.8L	収穫7日前まで	散布 無人航空機	－
殺虫	ミネクトエクストラSC	2回	シアナロニプロール:4回以内 (は種前の処理は1回以内、は種後の処理は3回以内)	マメシクイガ、カメムシ類、ハスモンヨトウ	10000～12000倍 40～80倍	100～300L 0.8L	収穫7日前まで	散布 無人航空機による散布	－
殺虫	カスケード乳剤	2回	フルフェナクスロン:2回以内	カメムシ類、ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、ハダニ類、マメシクイガ	4000倍 32倍	100～300L 0.8L	収穫7日前まで	散布 無人航空機による散布	－ －
殺虫	トレポン乳剤	2回	エトフェンプロックス:2回以内	アブラムシ類、ウコンノメイガ、ウラナミシジミ、カメムシ類、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハスモンヨトウ、アズキノメイガ、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ、ツメクサガ	1000倍	100～300L	収穫14日前まで	散布	－
殺虫	トレポンエアー	2回	エトフェンプロックス:2回以内	カメムシ類:ハスモンヨトウ:マメシクイガ	8倍	0.8L	収穫14日前まで	無人航空機による散布	－
殺虫	スタークル液剤10	2回	ジメトフラン:3回以内 (播種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤタマバエ カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤタマバエ	1000倍 8倍	100～300L 0.8L	収穫7日前まで	散布 無人航空機による散布	－ －
混合	アミスタートレポンSE	2回	アゾキシストロビン:2回以内 エトフェンプロックス:2回以内	紫斑病、カメムシ類、マメシクイガ、アブラムシ類 紫斑病、カメムシ類、マメシクイガ	1000倍 8倍	100～400L 0.8L	収穫14日前まで 収穫21日前まで	散布 無人航空機による散布	－ －
殺虫	ニッソラン水和剤	2回	ヘキシチアゾクス:2回以内	ハダニ類	2000～3000倍	100～300L	収穫7日前まで	散布	－

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌適用場所
種子処理	ベンレートコート	1回	チウラム:1回 ベノミル:1回	なまぐさ黒穂病、条斑病、斑葉病、裸黒穂病、株腐病	乾燥種子重量の0.5%	-	播種前	種子粉衣	-
除草	トレファノサイド粒剤2.5	2回	トリフルラリン:2回	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	4～5kg	-	は種後出芽前～3葉期(雑草発生前～雑草発生始期)	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	砂壤土～埴土
							生育期雑草発生前但し、収穫45日前まで	全面土壌散布	
除草	トレファノサイド乳剤	2回	トリフルラリン:2回	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	200～300ml	100L	播種後出芽前～生育期(雑草発生前～雑草発生始期)但し収穫45日前まで	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	-
除草	リベレーターフロアブル	1回	ジフルフェニカン:1回 フルフェナセット:1回	一年生雑草	60～80ml	100L	は種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	-
除草	クリアターン細粒剤F	1回	ベンチオカーブ:1回 ベンチメタリン:1回 リニユロン:1回	一年生雑草	4～5kg	-	播種直後(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	クリアターン乳剤	1回	ベンチオカーブ:1回 ベンチメタリン:1回 リニユロン:1回	一年生雑草	500～700ml	70～100L	播種直後(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	ムギレンジャー乳剤	1回	プロスルホカルブ:2回以内 リニユロン:1回	一年生雑草	300～600ml	少量散布 25～50L 通常散布 50～100L	秋播栽培のは種後出芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	-
除草	ハーモニーDF	1回	チフェンスフロメチル:1回	カズノグサ	10g	少量散布 25～50L	麦1葉期～節間伸長前(土壌処理剤との体系処理で使用)	雑草茎葉散布又は全面散布	-
				スズメノテッポウ、一年生広葉雑草	5～10g	通常散布 50～100L	播種後～節間伸長前		
除草	バサグラン液剤	1回	ベンタゾン:1回	一年生雑草(イネ科を除く)	100～200ml	70～100L	生育期但し収穫90日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	-

区分	農薬名	本剤の使用回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌適用場所
殺菌	トップジンM粉剤DL	3回 (出穂期以降は1回以内)	チオファネートメチル:3回(種子への処理は1回以内、出穂期以降1回以内)	赤かび病	4kg	-	収穫14日前まで	散布	-
殺菌	トップジンMソル	3回 (出穂期以降は1回以内)	チオファネートメチル:3回(種子への処理は1回以内、出穂期以降1回以内)	赤かび病	1,500倍	60～150L	収穫14日前まで	散布	-
					8倍	0.8L	収穫21日前まで	無人航空機による散布	-
				雪腐大粒菌核病	10倍		根雪前	-	
殺菌	ワークアップ粉剤DL	3回	トコナゾール:3回	赤かび病、網斑病、うどんこ病、赤さび病	3kg	-	収穫7日前まで	散布	-
殺菌	ワークアップフロアブル	3回	トコナゾール:3回	黒点病	2000倍～4000倍	60～150L	収穫7日前まで	散布	-
				赤さび病、うどんこ病、雪腐小粒菌核病、網斑病、黄斑病	2000倍				
				赤かび病	2000倍～3000倍 500倍～750倍				
				黒点病、赤さび病、うどんこ病、雪腐小粒菌核病、網斑病、黄斑病	500倍	25L		無人航空機による散布	-
				赤かび病	10～24倍	0.8L			
				黒点病、赤さび病、うどんこ病、雪腐小粒菌核病、網斑病、黄斑病	10～16倍				
畦畔除草	ザクサ液剤	1回	グルホシネートP:4回(播種後は3回以内)	一年生雑草	300～500ml	100～150L	耕起又はは種前(雑草生育期)	雑草茎葉散布	-
		3回					収穫7日前まで(雑草生育期)		圃場内の周縁部
畦畔除草	バスタ液剤	1回	グルホシネート:4回(播種後は3回以内)	一年生雑草	300～500ml	100～150L	播種前(雑草生育期)	雑草茎葉散布	-
							播種後出芽前(雑草生育期)		
		3回							収穫7日前まで(雑草生育期)
畦畔除草	ラウンドアップマックスロード	3回	グリホサート:3回	一年生雑草	200～500ml	少量散布 5～25L	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	雑草茎葉散布	-
							は種後出芽前(雑草生育期)		
						通常散布 50～100L 少量散布 5～50L	収穫前日まで(雑草生育期)		圃場内の周縁部
				一年生雑草及び多年生イネ科雑草		通常散布 50～100L	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)		
	少量散布 25～50L	は種後出芽前(雑草生育期)	-						



環境を守りましょう

水稲用一発肥料にはプラスチックが使われています

水田から流出させない **対策**をお願いします

被覆肥料は、プラスチック等で肥料をコーティングしているため、肥効の調節が可能です。施肥回数減による軽労化、施肥量の削減、養分の流出防止などの利点がありますが、一方で肥料成分が溶出した後の被膜殻が河川や海へ流出することが問題になっています。

被覆肥料の殻は 水田から流出させないようにしましょう！



殻を流さないために



対策のポイント

浅水代かき

● 均平化

入水前に田面はできるだけ均平にしましょう

● 畦畔管理

あぜが崩れていないか確認しましょう

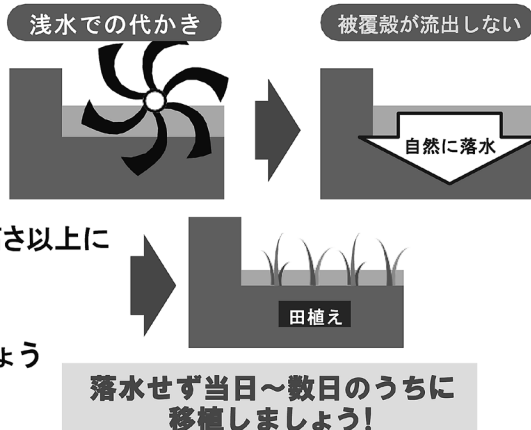
排水溝に止水板を設置し、代かき時にはあぜの高さ以上に

● 入水量

大部分の地表が見えるぐらい浅めの入水にしましょう

● 自然落水

移植前の落水は行わず自然落水により水位を調整しましょう



捕集ネットの使用

※慣行の代かき、強制落水を行う場合の対応策です

① 材料を揃える

材料例

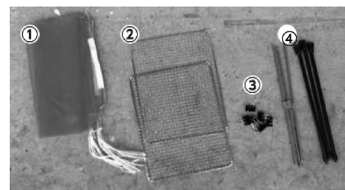
/ ① ネット(網目2ミリ以下)

② 板状の網

※種もみネット等

③ クリップ

④ 園芸用支柱



② 水尻に設置



◎二段構えで葉詰まりを防ぐ



被覆肥料の殻の
流出防止対策動画

You Tube にて
対策動画を公開しています

※ほ場により微細な浮遊物や葉残渣がネットに付着して、落水時間が長期化する、もしくは停止する場合があります
※毎年浮き葉が多いほ場では浅水による代かきで、土中に葉や殻を鋤き込む対策が効果的です

〈製造メーカー・全農による共同研究・開発について〉

①環境にも配慮するため、光や微生物の働きにより土壌中に崩壊・分解しやすくなるように各メーカー工夫をしていますが、分解するまでかなりの時間がかかります。

②より速やかに分解させる技術の確立を目指し、メーカーと協力して研究開発に取り組んでいます。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

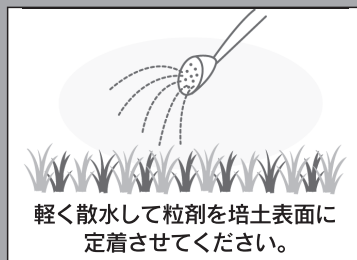
箱剤は 50g 散布を守りましょう!

水稻育苗箱に施用する苗箱用殺虫殺菌剤は、育苗箱1箱あたり50g散布することを前提に開発されています。

1箱あたり50gを下回る散布を続けると、いもちや害虫の抵抗性をかえって発達させてしまうおそれがあります。

「効く薬がなくなってしまった!」「高い剤しか使えなくなった…」

とならないように、箱剤の散布量は削らずに、きちんと50g施用しましょう。



1. 使用前にラベルをよく読んでください。
2. ラベルの記載以外には使用しないでください。
3. 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
4. 使用後の空袋はほ場などに放置せず、環境に影響のないよう、適切に処理してください。
5. 防除日誌を記入しましょう。

イナゴ対策

近年、水田周辺でイナゴの発生が目立つようになっていませんか!?

- ◆イナゴは幼虫・成虫ともに葉を食害し、幼虫時は下位葉を主に食害、大きくなるにつれて上位の葉に移行し食害量も多くなります。
- ◆出穂後に、止葉や次葉の食害が多くなると登熟歩合や千粒重が低下して減収します。また、腹白粒など未熟粒と死米が増加し整粒歩合が低下します。

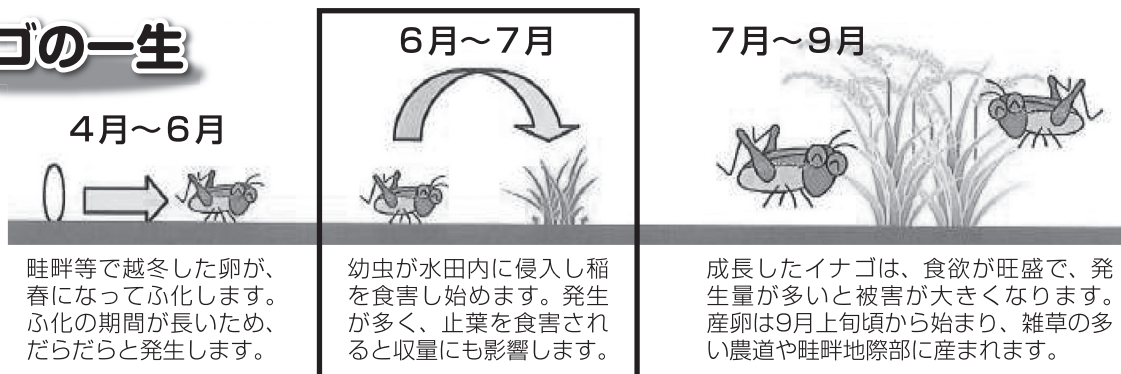


コバネイナゴ



食害された稲の葉

イナゴの一生



対策① 育苗箱施薬

Dr.オリゼリディア粒剤を苗箱処理するとほ場へのイナゴ侵入初期に効果を発揮します。

対策② 本田防除

水稻生育時期にイナゴが発生した場合
トレボン粉剤DLを10aあたり3～4kg散布します。
発生初期(6月中旬～7月上旬)の散布が効果的です。

ミミで叩くのが効果的!
リディア剤が効く

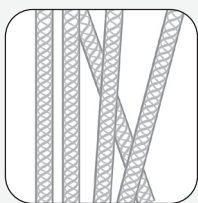


ほ場内のイナゴの増加を抑え、被害を防ぎます

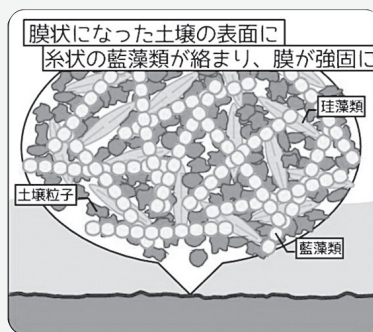
〈近年、**藻**の発生が目立つようになっていませんか!?!〉

田植後に晴天が続き、水温が20℃前後になると、基肥と稲わらや堆肥などの有機物が微生物により分解され、水田の水は窒素やリン酸が豊富となり藻類・表層はく離が発生します。

アミミドロ▶
みかん袋のような
五～六角形の網状
1～30cmの大型藻類



◀**アオミドロ**
触るとぬるぬる滑る
根元から先まで
均一の太さ



◀**表層はく離**
土壌粒子と藻類が
絡まって膜ができる

多発すると。。。

- ・水温の低下を伴い、稲の生育を遅延
- ・風により稲苗のなぎ倒しなどの被害が発生
- ・ジャンボ剤などの高拡散剤の拡散を妨害

⇒ **発生前の防除を!**

被害例



稲のなぎ倒し



ジャンボ剤の
拡散不良

〈藻類の対策方法〉

発生前

1. 初期除草剤「クラール」の使用

ジメタメトリン、ピラクロニルの2成分が藻類の発生を抑えます。
藻類発生前の使用をおすすめします。

2. 初中期一発剤「アットウZ/アシュラ/ベッカク」の使用

藻類の発生前に使用してください。

3. 水の入れ替え

藻類が発生し始めると、水面に薄い膜のようなものができてきます。
この段階で水を入れ替えることで、藻類の発生をリセットします。



発生後

1. 専用除草剤「モゲトン」の使用


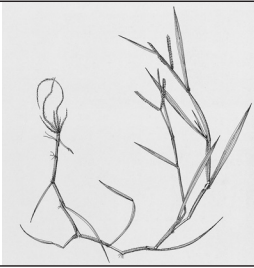

藻類の光合成を阻害し、枯らします。
快晴の日の朝の散布が最も効果的です。

2. 田面を干す


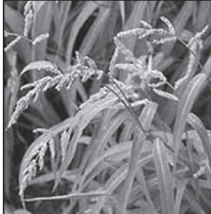
落水して2～3日軽く田面を干すことで藻類を枯らします。
ガス湧きが多いほ場では、ガス抜き効果も得られます。



畦畔から侵入する雑草対策

雑草名	イボクサ		キシユウスズメノヒエ	アシカキ
				
	ツクサ科 一年生雑草		イネ科 多年生雑草	イネ科 多年生雑草
発生状況	<ul style="list-style-type: none"> ・代かき前に発生したものは、代かきによって茎が切断され、そこから増殖 ・その他、田植後、種子からの発生や畦畔からの侵入 		<ul style="list-style-type: none"> ・稈が地表を這い畦畔から、水田内に侵入し、節から根を張り水田内で増殖 ・水田内で増殖したものを放置すると翌年、再発生し、耕起・代かきで稈が切断されそこから増殖 	
防除方法	収穫後	<ul style="list-style-type: none"> ・発生の見られるほ場 収穫後、早めの耕起 		<ul style="list-style-type: none"> ・発生の見られるほ場 ラウンドアップマックスロード散布（雑草生育期）
	田植前	<ul style="list-style-type: none"> ・代かき前に発生が多い場合 ザクサ液剤散布（但し耕起15日前まで雑草生育期） ・代かきを丁寧に行い、茎を土中に埋設 		<ul style="list-style-type: none"> ・代かきを丁寧に行い、稈を土中に埋設
	本田	<ul style="list-style-type: none"> ・発生初期までに除草剤散布 ・その後発生があった場合 中期剤・後期剤の散布 ・発生の見られるほ場 ノミニー液剤散布 移植後30日～イボクサの茎長30cmまで（但し収穫60日前まで） 		<ul style="list-style-type: none"> ・早めにクリンチャー剤を散布する （1キロ粒剤：10a 1.5kg 散布ではノビエ5葉期まで、10a 1kg散布ではノビエ4葉期まで。 EW：ノビエ6葉期まで。必ず展着剤を加用する。） ・シクロピリモレートおよびピラゾレートを含むサイラ剤（ジェイソウル剤等）を使用する。 ・ピラクロニル（バッチリLX剤等）、テフリルトリオン（アットウZ剤等）も有効。
	畦畔	<ul style="list-style-type: none"> ・ザクサ液剤散布（但し収穫7日前まで 雑草生育期：草丈30cm以下） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ラウンドアップマックスロード散布（但し収穫前日まで 雑草生育期）

中干し後発生する雑草

クサネム		防除方法	本田	<ul style="list-style-type: none"> ・ノミニー液剤散布 移植後30日～クサネムの草丈40cmまで（但し収穫60日前まで） ・ロイヤント乳剤散布 移植後20日～クサネムの草丈50cmまで（但し収穫40日前まで）（ヒエにも!!）
			畦畔	<ul style="list-style-type: none"> ・ラウンドアップマックスロード散布（但し収穫前日まで 雑草生育期）
ノビエ		〈発生の特徴〉 ノビエは土壌表面3cmまで浅い深度で発生しやすく、特に畑地や飽水状態の土壌で発芽しやすい。10℃前後から発芽し、最適温度は25～30℃で気温が高いほど生育は早い。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・管理のねらい <ul style="list-style-type: none"> ・耕起入水後1週間以上間隔を開け丁寧に浅水で代かきを行い発芽したノビエを埋没させる。 ・田面が露出すると発生の助長、除草剤効果も安定しないことから水田の均平を図る。 ・有効な除草剤 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒエクリーン1キロ粒剤、クリンチャー 1キロ粒剤・EW、トドメMF1キロ粒剤・乳剤【ヒエ多発年の収穫後対策】 ・石灰窒素、プリグロックスL、クロレートS粒剤 		

◎「水田作物（水田畦畔）」に適用のある除草剤

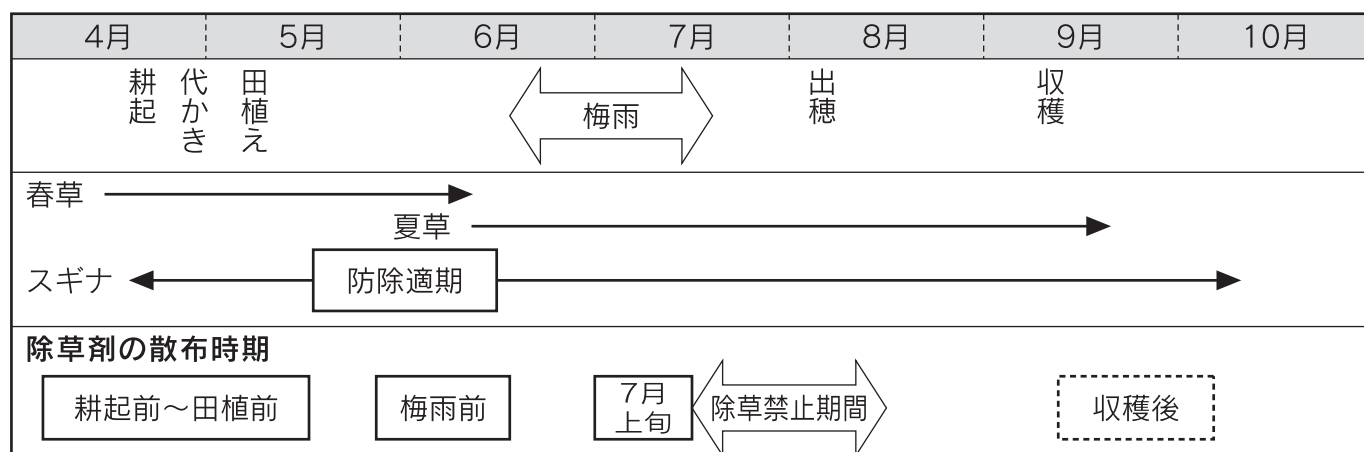
令和7年10月末現在

除草剤名		ラウンドアップ マックスロード	サンフー ロン液剤	サンダー ボルト007	ザクサ液剤	バスタ液剤	カソロン 粒剤6.7	プリグ ロックスL	ロイヤント 乳剤	2,4-D アミン塩
使用時期		収穫前日まで (雑草生育期)	収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈30cm以下)	収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈30cm以下)	収穫7日前まで (雑草生育期: 草丈30cm以下)	収穫7日前まで (雑草生育期: 草丈30cm以下)	秋冬期～春期 の雑草発生前 ～発生始期	雑草生育期	雑草生育期 但し収穫 45日前まで	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し収穫30日前まで
適用雑草 および 使用量 (10a当 たり)		一年生雑草 200～500ml (水量50～100ℓ 少量散布25～50ℓ)	一年生雑草 250～500ml (水量50～100ℓ)	一年生雑草 多年生雑草 400～600ml (水量100ℓ)	一年生雑草 多年生雑草 500～1000ml (水量100～150ℓ)	一年生雑草 多年生雑草 500～1000ml (水量100～150ℓ 少量散布30～40ℓ)	一年生雑草 及び多年生 広葉雑草 (まめ科を除く)、 スギナ 4～6kg	一年生雑草 600～1000ml (水量100～150ℓ)	一年生雑草 多年生雑草 200ml (水量25～100ℓ)	一年生及び 多年生広葉 雑草 100g (水量100ℓ)
		多年生雑草 200～1000ml (水量50～100ℓ 少量散布25～50ℓ)	多年生雑草 500～1000ml (水量50～100ℓ)					多年生雑草 1000～2000ml (水量100～150ℓ)		
		スギナ 1500～2000ml (水量50～100ℓ 少量散布25～50ℓ)								
水稲畦畔		○(※1) 3回以内	○(※1) 2回以内		○(※2) 3回以内	○(※2) 3回以内	○ 1回	○ 5回以内	○ 2回以内	○ 3回以内
その 他 の 適 用 作 物	だいず (畦畔込み)	○	×	○	○	○	×	○	×	×
	大麦 (畦畔込み)	○	×	×	○	○	×	○	×	×
	水田作物 畑作物 (休耕田)	○ 3回以内	×	○ 2回以内	×	○ 3回以内	○ 1回 4～7月の雑草発 生前～発生始期	○ 4回以内	×	×
	樹木等 (農道等)	○ 3回以内			○ 3回以内		○ 3回以内	○ 3回以内	×	○ 3回以内
摘要		・ 崩れやすい畦畔では使用しない。					近隣に農作物が 作付けされてい ないことを確認 して散布する		近隣に水稲を除く 農作物が作付け されていないこと を確認して散布する	

使用上の注意

- ・ 違った作物が隣接する場合には、両方に登録のある除草剤を使用して下さい。
- ・ 同類成分剤(※1)(※2)の畦畔散布は、合わせての回数となります。
- ・ 大豆・大麦の農薬使用時期・使用量は異なりますので、使用方法等を確認して散布して下さい。
- ・ 大豆・大麦については、農薬登録上畦畔と本田の区別がありません。

◎水稻畦畔の除草体系の目安



◎主な除草剤の特徴と使い分け

剤 名	抑草期間	難防除雑草への効果				散布後の降雨 (目安)	特徴および注意点
		スギナ	イボクサ	キシウスズメノヒエ	オオアレチノギク		
ラウンドアップ マックスロード	50～60日	△ (25倍◎)	○	○	× (10℃ 以下◎)	1時間	<ul style="list-style-type: none"> 有効成分が移行し、根まで枯らすので効果が持続する 速やかに雑草に吸収されるので翌日には耕起可能 25倍液処理ならスギナの根絶が可能 オオアレチノギク対策としてバスタとの混用が可能(マックスロードに限る) ※低温時の処理でオオアレチノギクの根まで枯らせる
サンダーボルト 007	50～60日	△	○	○	○	3時間	<ul style="list-style-type: none"> 根まで枯らす成分と速効性の成分の2成分混合の除草剤 オオアレチノギク含め広範囲の雑草に効果が高い スギナ対策には、2,4-Dアミン塩等との混用がおすすめ
ザクサ液剤	40～50日	○	○	○	○	1時間	<ul style="list-style-type: none"> 畦が崩れないので畦畔に有効(電柵設置時含め) 散布後2～5日に効果発現し7～14日後には効果完成(低温時遅効的) スギナやオオアレチノギク等、広範囲の難防除雑草に効果が高い 雑草全体に十分量散布し、オオアレチノギクについては草丈が小さいうち(30cm以内)に散布する
バスタ液剤						6時間	
ブリグロックSL	20～30日	○ (25倍◎)	○	○	○	15分	<ul style="list-style-type: none"> 散布後1日で効果が出て、低温でも効果が安定 薬剤がかかった部分しか枯れないので作物に安心 イネ科雑草種子にも効果があり、水稻刈後の耕起前散布で翌年のヒエや漏生イネの発生量の低減が可能

(注 意 事 項)

- ・ 除草剤ごとの使用回数は、農薬登録上定められているので、使用回数に注意する。
 - ・ 雑草の種類(スギナなど)によっては使用濃度が異なるので、ラベルを良く確認する。
 - ・ **斑点米カメムシ類の生息密度を下げるため、畦畔等の雑草地の除草を徹底する。**
- ※出穂期前後には場周辺の除草を行うと、カメムシ類の本田侵入を助長する可能性があるため、7月中旬から8月中旬まで除草しなくても済むように、7月上旬の仕上げ除草を徹底する。

こんな雑草に困っていませんか!



問題となっている雑草



クログワイ



イボクサ



コナギ



オモダカ



カヤツリグサ



キシウスズメノヒエ

水稲刈取後の除草剤

ラウンドアップ マックスロード



お得な
大型規格が
お奨め!

- 一年生雑草、多年生雑草
- クログワイ、オモダカ、カヤツリグサ等上記のような防除困難な雑草にも有効。
- 土に残らず分解が早い。

薬剤500～1,000ml/10a(1,000ml推奨)
希釈水量50～100L。1回。

使用后、2～3週間後には耕起可

- 雑草が緑化(青々と)している時に散布する!
(9～10月の刈取り直後: 薬量は一年生雑草は200～500ml、多年生雑草は500～1,000mlがお奨め)

特 徴

使用量

耕起可能時期

注 意 点

クロレートS粒剤



- 一年生雑草、多年生イネ科雑草
- 稲わらの上からでも効果がありますが、水がたまっていると効果が半減。
- 土壌中に3カ月残る。

20～25kg(4～5袋)/10aを全面散布。1回。

使用后、1カ月後には耕起可

- 土壌に残っていると次作物に影響するので、使用はなるべく早く行う(年内処理)
- 降雨時または降雨が予想されるときの使用は避ける。

「GAP」でより良い農業経営を！

**GAP (Good Agricultural Practice) とは、
農産物(食品)の安全を確保し、より良い農業経営を実現する取組！**

- 農産物の生産で最も重要なことは、食品としての安全を確保することです。
- 食品安全だけでなく、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に関する取組を行うことで、持続可能な農業生産につながります。
- GAPは、これらの取組状況を記録簿や掲示物によって確認・表示しながら、農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取組です。

GAPを実施すると、経営の改善に効果があります!!

GAP実施による経営改善効果



「改善した」と回答した者の割合

出典：「GAP導入による経営改善効果に関するアンケート調査結果」(H25.1) (独)農業・食品産業技術総合研究機構)
を基に農林水産省生産局農業環境対策課で作成

あなたの身の回りにもリスクが潜んでいます！

—GAPでリスクの軽減を—

⚠ 異物混入

農産物にハサミやガラス片などの異物が混入すれば、消費者はもちろん作業にも危険が及びます。また、異物混入が発生した農業者だけでなく、産地全体で出荷停止や商品回収を行うことになり、大きな損害を受けることが考えられます。

⚠ 農作業事故

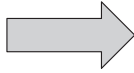
毎年300人以上が亡くなっており、死亡・重傷事故1件が発生する背景には、軽傷事故が29件、もう少しで怪我をしたかもしれない事故(ヒヤリ・ハット)が300件あると言われています。



(1) G A P に取り組みましょう！！

ステップ1 基本の整理整頓から！

みなさんがこれまでに組みこんできた**整理整頓**や、**生産履歴の記帳**が基本です。



写真提供：（一財）日本GAP協会

ステップ2 農場内を点検し、問題点を改善！

農業生産の中で問題点を見つけたら、①必要な対策を考え、②それを実行し、③その内容を記録・点検し、④継続的に改善をしていきましょう！

● 食品安全 ●

〈日頃の取組〉

異物混入の防止、
農薬の適正使用と保管



包装資材のそばに灯油など汚染の
原因となるものを置かない

ほかにも
来訪者への衛生指示 など

● 環境保全 ●

〈日頃の取組〉

適切な施肥、土壌浸食の防止、
廃棄物の適正処理・利用



農薬空容器などは分別して処分

ほかにも
水の使用量把握と節水対策 など

● 労働安全 ●

〈日頃の取組〉

機械・設備の点検・整備、
作業安全用の保護具の着用



危険箇所の掲示をする

ほかにも
事故防止の作業手順書作成 など

● 人権保護 ●

- ・家族経営協定の締結
- ・技能実習生の作業条件遵守

など

● 農場経営管理 ●

- ・責任者の配置
- ・教育訓練の実施
- ・内部点検の実施

など

● その他 ●

- ・商品回収テストの実施
- ・資材仕入先の評価

など

(2) G A P 認証を取りましょう！！

認証取得のメリット

自己点検だけでは気づかない問題点を把握し、改善に取り組むことで、
農業経営のレベルアップや**安定化**に繋がります。

認証の種類

「**いしかわGAP**」 「JGAP」 「GLOBALG.A.P」 など様々



石川県が認証するGAPで、持続的に農業を行うための取り組みを約50項目にまとめ、初めてGAPに取り組む方でも実践しやすい。
将来的にJGAPなど民間認証へのステップアップに繋がります。

いつでも認証が取れるレベルを目指して取り組んでみましょう！

スマート農業への一歩 ～その1～

Z-GIS®

ほ場管理はデータの時代 全農営農管理システム

エクセルとの連携でほ場管理を効率化するクラウド型の営農管理システム

ほ場管理の課題と電子化による効率化

新たな農業の時代が始まっています。全農の営農管理システム Z-GIS® は、ほ場情報をインターネットの電子地図と関連付けることで、効率的な営農管理を実現するシステムです。

特 徴

1 Excel®連携

ほ場の位置情報（緯度・経度データ）と Excel® データを紐付けて管理します。ほ場毎の作付計画や作業内容等、管理したい項目を Excel® で簡単に追加・記録できます。

2 データの視覚化

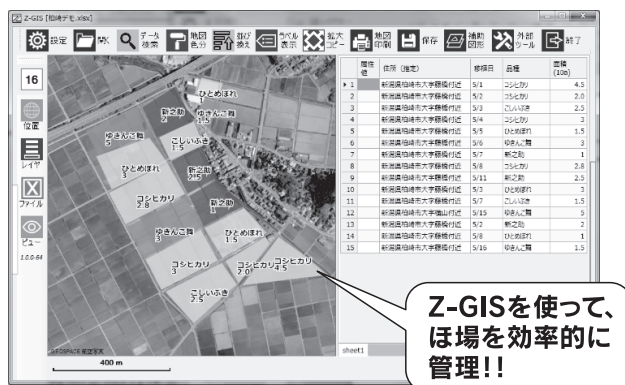
記録した情報は地図上にわかりやすく「見える化」できます。

3 共有できる

データをクラウド上に保管することで複数名で共有できます。

4 高解像度地図

高解像度の航空写真を使用し見やすい地図を提供しています。



ご利用方法

1年間 100ほ場で2,640円(税込)

ひと月あたり220円(税込)!

費用を抑えてほ場管理ができます! *2000ほ場以上は、52,800円(税込)定額です。

ご利用までの手続きも簡単!

有料版

下記 URL の「Z-GIS® オンライン利用申し込み」にアクセスして、必要事項をご記入の上、お申し込みください。受け付け完了後 ID・パスワードを発行いたします。

<https://z-gis.net/99/>



お試し版

まずは31日間無料のお試し版をご利用ください。(※一度だけ登録可能です)

お問い合わせは JA白山 営農課まで ☎076-273-5277

スマート農業への一歩 ～その2～

導入メリットはあるのか？

自動給水栓 **Aquaport** による 省力化効果検証

【検証期間】 5/15～8/31 【装置導入ほ場】 12枚/38枚（約23ha）

Before

1日2回(朝・夕)：全ほ場見回り



After

1日2回(朝・夕)：未設置ほ場見回り
2日に1回(朝)：全ほ場見回り



年間試算（1シーズン：5月下旬～8月下旬活用）

年間作業時間

280.8時間

172.8時間

-105.2時間
(約60%)

1回あたり40分から16分への削減効果

走行距離

3520.8km

1803.6km

-1717.2km
(約50%)

1回あたり16.3kmから5.7kmへの削減効果

人件費

-158,747円 (1,509円/時間)

燃料費

-17,172円 (10円/km)

年間導入費用

+137,733円 (*)

試算で年間
-38,186円
の経営改善が期待

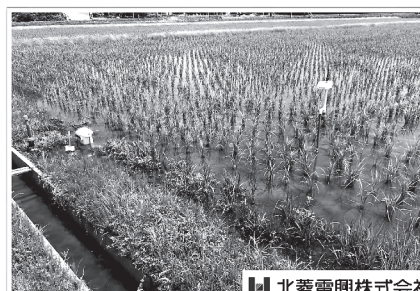
※年間導入費用はAquaport10台+水位センサー4台の導入費用を各耐用年数から単年度費用算出したもの。
※本データはJA全農実施の実証試験における試算結果であり、経営体により導入効果は異なります。

検証に協力いただいた農家さまのコメント



モニター生産者

水見回りに気を遣う時期には、身体的負担や心の負担が軽減される。
一台では割高なイメージだが、複数台購入して経営全体でみると導入効果が実感できると思う。



北菱電興株式会社

イノシシ被害対策について

- 近年、当JA管内におきまして水田へのイノシシ被害が増加しております。
- 被害が確認されたほ場については、今後対応が必要となってきますので、以下に注意して頂きますようお願い致します。

【ポイント】

- イノシシはほ場に入ると、稲にカラダを擦り付ける習性があります。
- 進入が確認された場合は、刈取りせずに農業共済へ連絡し被害状況を確認してください。
(※収穫してしまうと補償対象となりません)
- ①ほ場全体が補償対象となった場合は、刈取りをしない。
(ほ場内にすき込んでください)
- ②ほ場の一部のみが補償となった場合は、補償対象の部分は刈取りしない。(すき込む)
補償対象外の部分は刈取り出来ますが、イノシシの臭いが付いている可能性があるため別調製し、他のほ場の米と混合しない。

実際の被害ほ場



詳しくは営農センターまで問い合わせください。

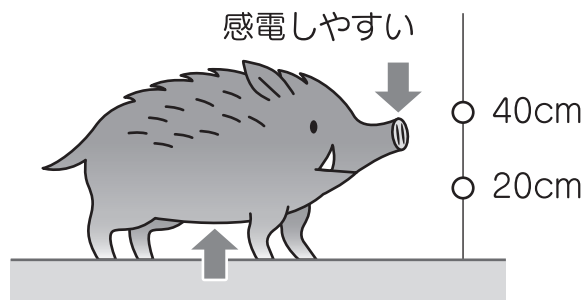


電気柵 設置のポイント

イノシシに対してショックを与えることができる電気柵ですが、いくつかの約束事を守ったときにその効果が発揮されます。突破を防ぐのにまず基本となるのは電線を張る高さです。

イノシシ用電気柵の基本

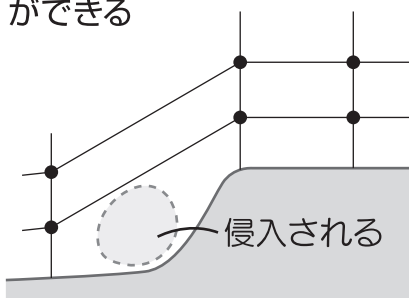
電線は2段に張る。上の段は親イノシシがちょっと上をみるときの鼻の位置。高さは40cm。下の段は20cm。もぐりこもうとするときの鼻の高さで、ウリ坊とも兼用



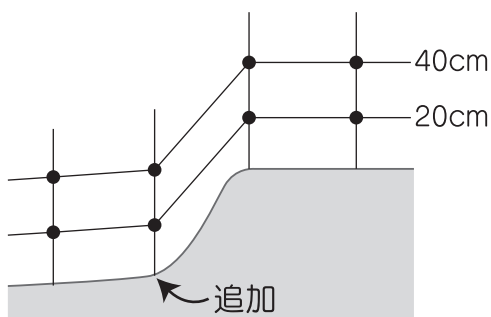
感電する部位は鼻と腹、2箇所だけ。そのほかは剛毛で覆われ、ほとんど感電しない

よくある失敗①

高低差のあるところにすきまができる



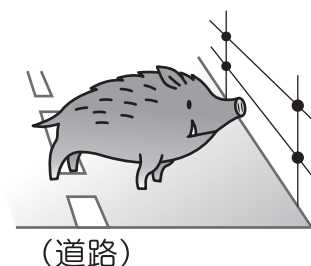
↓
支柱を追加する



あくまで地際20cmを保つ

よくある失敗②

舗装道路のすぐわきに設置



↓
柵は舗装道路から50cm以上離す



前足から土へ電気が通ることで感電する

- 電線は田から見て支柱の外側に張る。○放電を防ぐため草は刈ること。
- 電気柵を設置した畦畔の除草には、地上部だけを枯らすバスタが特におすすめです。

設置についてはJAまたは市役所へご相談ください。

農作業安全の徹底を!!

近年、農作業死亡事故者数は年間300人前後で推移しており、事故件数を減少させることが喫緊の課題となっております。

一人一人が農作業安全について見つめ直し、事故防止に取り組みましょう！

特に気を付けて下さい！

①トラクター・コンバイン等の走行中(ほ場・道)の転落、横転、衝突

- 死角 (バック時や足下など機械の大型化により、死角が拡大) やスピードの出しすぎに注意。

チェック 事前に作業環境を確認し危険な場所が無いか確認を

チェック 安全フレーム、シートベルトの徹底を



②運搬トラックによる車両積載重量超過

- 過積載は、制動力を低下させ、さらにバランスを崩しやすくなるので、重大事故を引き起こす可能性があります。

チェック トラックごとの最大積載量の確認を



③連日の猛暑による熱中症

- 水分補給と適時休憩を取り、熱中症には十分に気を付けてください。

チェック 天気予報で気温の確認を

チェック 無理のない作業スケジュールを



作業機付トラクターの公道走行 が可能となりました!

直装タイプの作業機および被けん引タイプの作業機を装着した状態のトラクターが、一定のチェックポイントをクリアした場合にのみ公道走行が可能となりました。

直装タイプの作業機

〈後方装着〉



- ・ロータリ
- ・ハロー
- ・ブロードキャスト
- ・畔塗り機
- ・石灰ソワー
- ・ブームスプレーヤー
- ・他

〈前方装着〉



- ・フロントローダー
- ・他

被けん引タイプの作業機

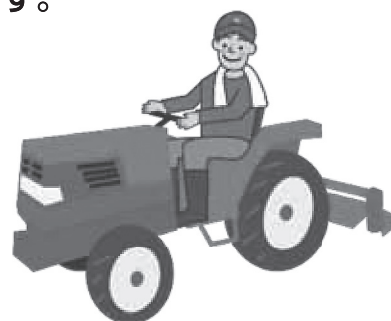


- ・ロールベラー
- ・トレーラ
- ・マニュアルブレッダ
- ・バキュームカー
- ・他

公道走行にあたってのチェックポイント

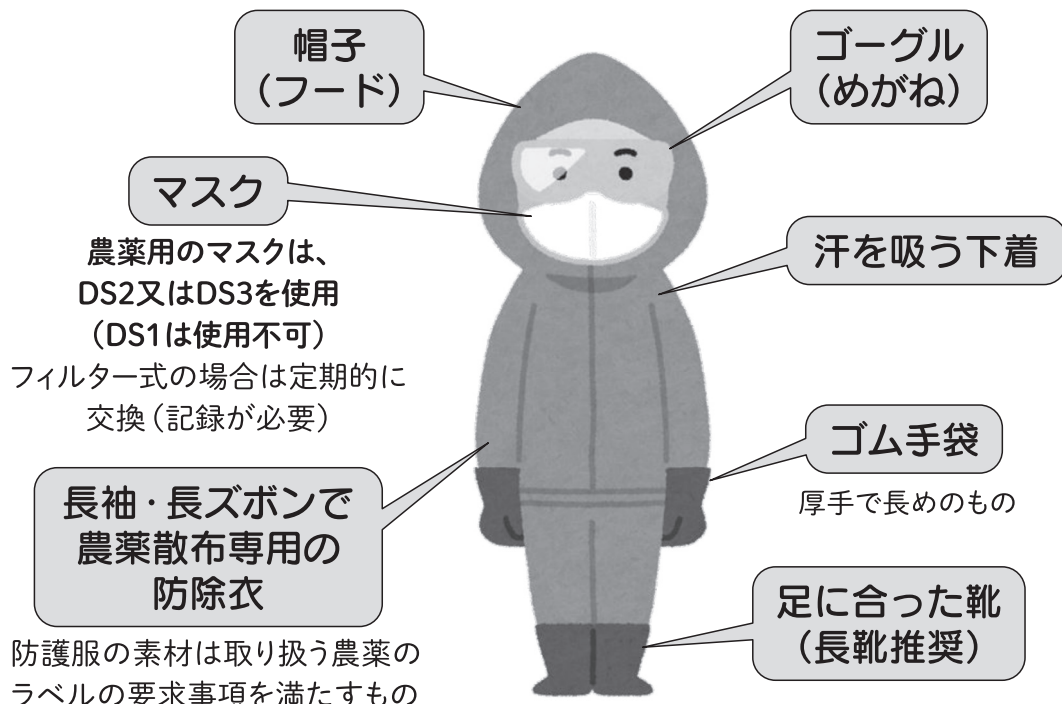
- I 免許の確認** → 作業機を取り付けた状態で、全幅が1.7mを上回る場合、大型特殊免許(農耕車限定)が必要です。
- II 灯火器類の確認** → 作業機を取り付けた状態で灯火器類が他の交通から確認できる必要があります。
- III その他** → 条件により標識等の追加や道路管理者の特殊車両通行許可書を得るなど、基準を満たす必要があります。

お問い合わせは
JA農機センターまで



農作業安全の徹底を!!

農薬散布時の服装チェック



準備のときから着用
片付けまで着用

防護服を着ているときは
共有スペース・収穫物に近づかない

農薬取扱い手順

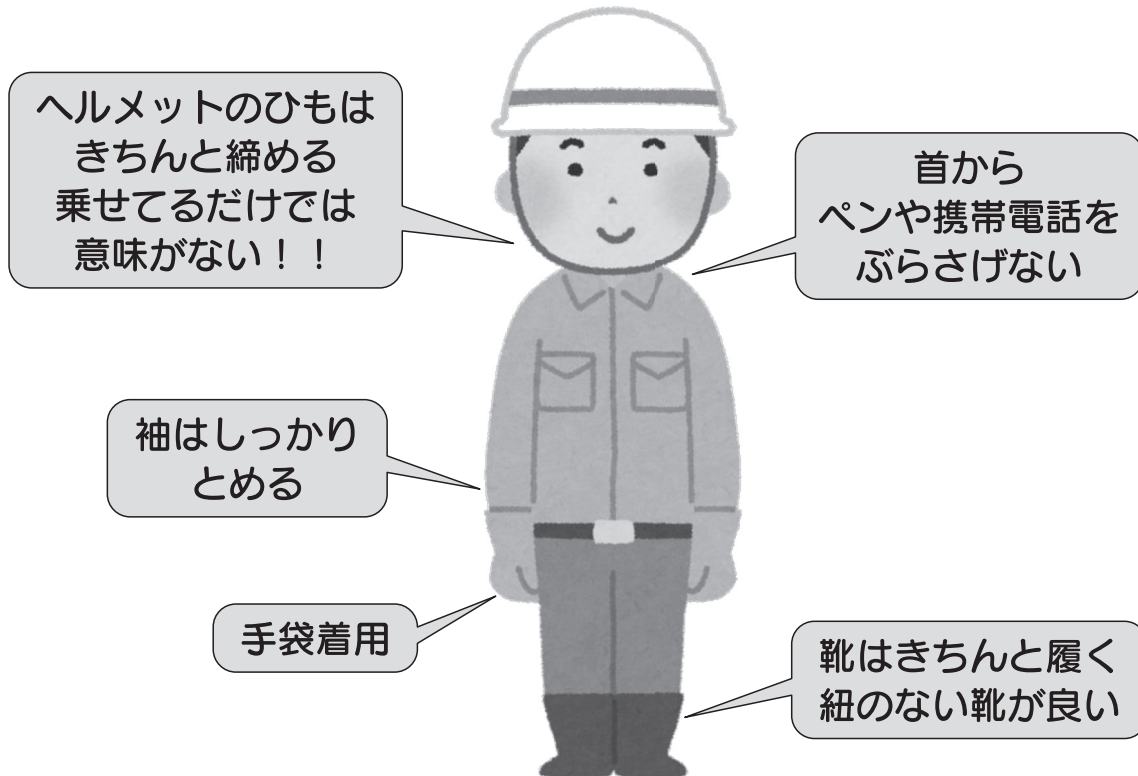
	作業手順	注意点
1	使用薬剤の決定	病虫害の発生状況、防除指針、混用、回数・成分回数、作物適用、使用時期・収穫前日数、その他注意事項
2	ラベル記載内容の確認	
3	防護服の着用	ラベル記載内容を確認、フィルター使用時間、等
4	散布機の点検	洗浄済みか、ノズル・ホース・接合部、漏れや故障がないか、等
5	農薬の調合	所定の調合場所、較正済み計量器を使用、空になった容器(液体の場合は、水で3回すすいでタンクにあける。袋の場合は、軽くたたいて内面の付着分を散布機内に落とし、残農薬がないことを確認する)。
6	農薬散布	天候、風速、風向き、ドリフト注意
7	使い切りの確認	残った場合は、所定の場所に廃棄
8	散布機の洗浄	所定の場所で洗浄し記録、タンク・散布機・ホース・ノズル等洗浄
9	防護服の洗浄・保管	散布機洗浄場所で洗うか、他の服と分けて洗浄。所定の場所に保管
10	農薬使用の記録	散布後、速やかに記入する。
11	散布後のほ場管理	散布液が乾くまでは場への立ち入りを禁止にする。

農家の皆様今一度ご確認を!

- 農薬は、専用の倉庫や頑丈なキャビネットなどに保管し、常に施錠している。
- 保管棚は、吸収性のない素材で作られている。棚では粉剤は液剤より上段に保管し、毒物・劇物と普通物が触れないように分けている。
- 農薬保管場所には農薬や農薬散布機等以外のものがなく、入口に農薬の危険性を警告する表示がある。
- 農薬事故時の手順書は、保管庫から10m以内の見やすい場所に設置してある。
- 農薬や希釈液が漏出した場合に、農薬を回収するための砂や布等の吸着材を用意している。

機械操作時の身だしなみとルール

機械操作時の身だしなみ



機械作業時のルール

- ① ヘルメット着用
- ② シートベルト着用(乗車型の機械)
- ③ 作業中断時、機械から離れる時は**エンジン**を切る
- ④ 座席周辺にモノを置かない(乗車型の機械)
- ⑤ アタッチメントのカバーの上にモノを置かない(トラクター)
- ⑥ 必ず作業前点検を実施する
- ⑦ 作業中は**機械の周囲3m以内**に人を近づけない、近づかない
- ⑧ 旋回、後進時は特に周囲の人やモノに注意する

「野焼き」は原則として法律で禁止されています (廃棄物の処理及び清掃に関する法律)

農作物の残さは、なるべく焼却せずに、堆肥にするなど、土づくりに有効活用しましょう。

ただし、農林業を営むために、やむを得ないものとして行われる焼却については、法律の例外として認められています。

節度を守り、必要最小限の範囲で行ってください。

やむを得ない場合、焼却が認められているもの

(例)「稲わら」「籾殻」「剪定枝」「いもの蔓」などの**農作物の残さ**

※ ほ場内で発生し、燃やすゴミとして搬出することが困難なもの。

いかなる場合でも、焼却してはいけないもの

(例)「ビニール」や「支柱」などの**農業用資材**

やむを得ず焼却する場合は、次のことを必ず守ってください。

- 近くの住民に迷惑がかからないよう、時間帯や風向きなどに配慮してください。
- 焼却している間は、火の側から離れないでください。
- 焼却できるものは、あくまでも法律の例外として認められたものに限りです。
ビニールや生活ゴミ等は、絶対に焼却しないでください。
- 法律の例外として認められているものであっても、万が一、近隣の住民等から苦情が発生した場合は、すみやかに焼却を止めてください。

火災との誤解を避けるため、焼却する前には必ず、最寄りの消防署(出張所)と環境課へ、電話連絡(火災とまぎらわしい煙または火災を発するおそれのある行為の届出)をしてください。

(例):「**今から、〇〇(場所)で、△時間、□□を焼却します。**」

なお、近隣の住民等から消防署へ通報があった場合には、消防及び警察が出勤し、悪質の場合は5年以下の懲役又は100万円以下の罰金が科せられる場合があります。

農家の皆様へ

道路の泥汚れ防止に ご協力ください

粗おこしや代かき、田植えや刈取り等、ほ場での作業後にそのまま道路に出ると、泥を持ち出してしまいます。

公道に落ちた大きな泥や土のかたまりは、歩行者や車両の通行に支障をきたし、地域住民の迷惑になるうえ、交通事故の原因にもなるため大変危険です。



× 泥を路上に放置している



○ 泥を除去している

農作業後に公道に出る際はできるだけ泥を落としていただくよう、ご協力をお願いします。

農業に伴う廃棄物は適切に処理しましょう！

事業活動で生じた廃棄物を自らの責任で適正に処理しなければなりません。
町内のごみ集積所に出すことはできません。

農業に伴う廃棄物の種類

- (1) 産業廃棄物（法で規定された20種類の廃棄物）
 - ・廃油：農業用機械の廃潤滑油、燃料等の残り
 - ・廃酸、廃アルカリ：期限切れの農薬等
 - ・廃プラスチック：ハウス用ビニール、波板、育苗箱、肥料農薬の空袋等
 - ・金属くず：ハウス用パイプ、釘、針金、機械部品等 など
- (2) 事業系一般廃棄物（事業活動に伴い生じた廃棄物で産業廃棄物以外）
 - ・紙類、段ボール類、作物残渣等

処理方法

- (1) 産業廃棄物
 - ・廃プラスチック：最寄りのJAの回収事業を利用してください。
 - ・上記以外：石川県の産業廃棄物処理業許可業者に依頼してください。
- (2) 事業系一般廃棄物
 - ・紙類、段ボール類は資源回収業者に依頼してください。
 - ・作物残渣等については、白山市の一般廃棄物収集運搬許可業者に依頼するか、松任石川環境クリーンセンターに直接搬入してください。

県の産業廃棄物
処理業許可業者の
一覧はコチラ▶



一般廃棄物収集
運搬許可業者の
一覧はコチラ▶



注 意

- ・廃プラスチックの焼却や廃農薬を河川等に捨てることは不法投棄にあたり、法律で禁止されていますので絶対にしないでください。
 - ・廃棄物の処理を委託する場合は、処理方法に応じて、上記許可を受けた業者に委託しましょう
- 【問い合わせ先】 白山市環境課 274-9538

燃料の保管方法

燃料については消防法にて保管量に規定あり。

燃料種類	指定数量	1/5は
軽油	1000 ℓ	200 ℓ
灯油	1000 ℓ	200 ℓ
ガソリン	200 ℓ	40 ℓ
エンジンオイル	6000 ℓ	1200 ℓ

※6mの間隔をあけておいておく。

燃油などの危険物を保管する場合、「指定数量」という規定があり、この数量以上の保管では、かなり厳しい「消防法」の設置許可を受けることになります。また、指定数量未満で5分の1以上を保管している場合は、地方条例により少量の危険物の貯蔵取扱届出書および関係書類を提出の上、市町村（消防署）の完成検査を受けなければなりません。

<防油堤について>

防油堤の設置を義務づけられる燃油の保管量は「指定数量」の5分の1または2分の1以上となっています。軽油の場合、指定数量が1000リッターなので、200リッターまたは500リッター以上の場合は防油堤を設けなければなりません。

2026 年産 水稻生産履歴記録簿【移植用】

※ 記入上の注意事項

- 品種・栽培方法（移植・直播など）で、別々に1枚ずつ記入して下さい。
- 何筆かあるほ場のうち、1筆でも使用したものは記入して下さい。
- この用紙を汚したり、折り曲げたり、穴を開けたりしないで下さい。
- シャープペンシル（0.5mmHB）で、丁寧に記入して下さい。
- 不明な点はJAまでお問い合わせ下さい。

住 所 電 話 番 号
生 産 者 名 前作物 飼 料 用 米 ☐
品 種 名 作付面積 a 筆数 筆 加工用米等 ☐

秋耕(前作わら等の鋤込み) 前年始期 月 日 前年終期 月 日

種 苗	育 苗 方 法 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> JAから苗購入 <input type="checkbox"/> 自家※1 <input type="checkbox"/> その他から苗購入※2 ※1自家の場合 は種日を記入 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ～ <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ※2その他の場合に 農家名等をカタカナで記入 <input type="text"/> ※ <input type="checkbox"/> 種子保証票・農薬履歴あり
	種 子 調 達 先 <input type="checkbox"/> (自分で種まきした場合のみ記入) (数 量) <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> 自家採種 <input type="checkbox"/> その他※ (<input type="text"/> kg) (<input type="text"/> kg) (<input type="text"/> kg) ※その他の場合に 農家名等をカタカナで記入 <input type="text"/> ※ <input type="checkbox"/> 種子保証票あり
	床 土 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 加工床土 <input type="checkbox"/> 原土→肥料名※3 (床土銘柄) <input type="text"/>
	※3肥料名またはPH調整剤を記入

栽 培	栽 培 方 法 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 移植 <input type="checkbox"/> 直播 <input type="checkbox"/> 移植(晩植) <input type="checkbox"/> 移植(農特) <input type="checkbox"/> 移植(全指)
	田植(直播)日 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ～ <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
	出 穂 時 確 認 <input type="checkbox"/> 出穂日 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="checkbox"/> 異品種の混入が見られなかった

管 理	田干しの実施 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 実施 中干し期間 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ～ <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
	溝 切 り <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 実施 間 断 通 水 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 実施

刈 取	刈取(予定)日 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ～ <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
	乾 燥 ・ 調 製 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> JA施設 <input type="checkbox"/> 自家 <input type="checkbox"/> 農家委託等※ ※農家委託等の場合に 農家名等をカタカナで記入 <input type="text"/>
	秋耕(当年作わらの鋤込み) 始期(予定) <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日

JA 使用 欄	支 店 名 <input type="text"/>
	組合員コード <input type="text"/>
	品 種 コード <input type="text"/>

一次確認	二次確認
/	/

電
算
使
用
欄

OCR読取

2019.01.25版

見
本

【 肥 料 】

- 使用した肥料に○をつけ、最終施肥日および **10a当り使用量** を記入します。
- 掲載していない肥料を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	番号	肥 料 名	施 肥 基 準	チエック	最終施肥日		10a当り使用量	単位
					月	日		
土 づ くり	100	スーパーケイサン・改	60kg/10a					kg
	101	ひやくまん馬力	60～100kg/10a					kg
	102	鉄腕ソイル	60～100kg/10a					kg
	104	BBPKけい酸09号	60kg/10a					kg
	113	白山大地	60kg/10a					kg
	118	ダイナマイトソイル	100kg/10a					kg
		その他1						
		その他2						
基 肥 （ 活 着 肥 含 む ）	152	コシー発くんDX24	45～50kg/10a					kg
	157	けい酸アップコシー発くん	53～60kg/10a					kg
	158	BB003-40号	30～45kg/10a					kg
	159	早生一発くんDX28	45kg/10a					kg
	162	BB高度056号	30～50kg/10a					kg
	165	BB有機くんオール10号	40～45kg/10a					kg
	167	コシー発くんNEOα	35～40kg/10a					kg
	169	早生一発くんNEO	40～45kg/10a					kg
	176	硫安(活着肥)	5～10kg/10a					kg
中 間 追 肥	200	珪酸加里プレミア	40kg/10a					kg
	202	ファイト・アップ	500g/10a					g
	203	エスアイ加里カリ投げくん	4kg/10a					kg
		その他1						
		その他2						
穂 肥	253	BBとれるぞう	5～10kg/10a					
	254	BB有機入り石川ライト550号	20～25kg/10a					
	256	BBLP有機060号	25～35kg/10a					
	263	尿素化成日の本2号	5kg/10a					
		その他1						
		その他2						

農薬はウラ面に記入します。

【 農 薬 】

■ 使用した農薬に○をつけ、最終使用日および **10a当り使用量**（苗箱消毒・箱施薬の場合は1箱当り使用量）を記入します。

■ 掲載していない農薬を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	番号	農 薬 名	使 用 基 準	チエック	最終使用日		10a当り 1箱当り 使用量	単位
					月	日		
種子消毒	400	消毒済種子購入						
	401	テクリードCフロアブル 24時間種子浸漬	200倍					
	403	ルーチンシードFS 原液 71ml／10a						
		その他						
苗箱消毒	420	ダコレート水和剤	400～600倍 500～1000ml／箱					ml
	422	タチガレエースM液剤	500～1000倍 500ml／箱					ml
	424	ナエファインフロアブル	1000～2000倍 500～1000ml／箱					ml
		その他						
箱施薬	440	薬剤処理済苗購入						
	442	ブーンレパード粒剤	50g／箱					g
	445	Dr. オリゼリディア粒剤	50g／箱					g
		その他						
本田随時防除	500	モンセレン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫前 21日まで				●	kg
	501	ブラシンフロアブル	1000倍 60～150L／10a 収穫前 21日まで				●	L
	503	モンセレンフロアブル	1500倍 100L／10a 収穫前 21日まで				●	L
	504	Zボルドー粉剤DL	3～4kg／10a 出穂前 ～10日				●	kg
							●	
		その他 1					●	
		その他 2					●	
		その他液剤 1						倍
本田仕上防除		その他液剤 2						倍
	550	ヘリ防除①						
	551	ヘリ防除②						
	552	ヘリ防除③						
	562	スタークル粉剤DL	3kg／10a 収穫前 7日まで				●	kg
	563	スタークル粒剤	3kg／10a 収穫前 7日まで				●	kg
	565	ビームエイトトレボンゾル	650倍 100～150L／10a 収穫前 21日まで				●	L
	567	スタークル液剤10	1000倍 60～150L／10a 7日まで				●	L
	573	ビームエイトスタークルゾル	1000倍 60～150L／10a 7日まで				●	L
	577	ビームトレボン粉剤5DL	3～4kg／10a 収穫前 7日まで				●	kg
	578	イモチエーススタークル粒剤	3kg／10a 収穫前 ～35日				●	kg
		その他 1					●	
		その他 2					●	
		その他液剤 1						倍
		その他液剤 2						倍
倒伏軽減剤	590	スマレクト粒剤	2～3kg／10a 出穂前 7～20日					kg
		その他						

★ 「苗箱消毒」では、使用基準欄に希釈倍率を記入して下さい。

★ 「その他液剤」を使用した場合は、使用量欄には希釈倍率を記入して下さい。

品種名

1925

2

分類	番号	農 薬 名	使 用 基 準	チエック	最終使用日		10a当り使用量	単位
					月	日		
初期除草剤	600	ソルネット1キロ粒剤	1kg／10a 移植後 ～30日				●	kg
	607	クラール1キロ粒剤	1kg／10a 移植後 ～30日				●	kg
		その他 1					●	
		その他 2					●	
一発除草剤	657	ゼアスジャンボ	300g／10a 移植直後 ～30日				●	g
	660	バッチリLX1キロ粒剤	1kg／10a 移植後 ～30日				●	kg
	671	ディオーレ1キロ粒剤	1kg／10a 移植後 30日まで				●	kg
	685	バッチリLXジャンボ	400g／10a 移植後 30日まで				●	g
	688	ベッカク1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日				●	kg
	689	ベッカク豆つぶ250	250g／10a 移植直後 ～30日				●	g
	691	ディオーレジャンボ	400g／10a 移植直後 ～30日				●	g
	695	アットウZ1キロ粒剤	1kg／10a 収穫前 ～60日				●	kg
	696	アットウZジャンボ	400g／10a 収穫前 ～60日				●	g
	697	ゼアス1キロ粒剤	1kg／10a 移植後 30日まで				●	kg
		その他 1					●	
		その他 2					●	
中・後期除草剤	703	アトリ1キロ粒剤 移植後14日～	1kg／10a 収穫前 45日まで				●	kg
	704	ロイヤント乳剤 移植後20日～	200ml／10a 収穫前 45日まで				●	ml
	705	ヒエクリーン1キロ粒剤 移植後15日～	1kg／10a 収穫前 45日まで				●	kg
	706	バサグラン粒剤 移植後15日～	3～4kg／10a 収穫前 45日まで				●	kg
	708	トドメMF乳剤 移植後14日～	500倍 200ml／10a 50日まで				●	ml
	709	クリンチャー1キロ粒剤 移植後25日～	1.5kg／10a 収穫前 30日まで				●	kg
	712	トドメMF1キロ粒剤 移植後14日～	1kg／10a 収穫前 50日まで				●	kg
	714	レプラスギアジャンボ 移植後14日～	300g／10a 収穫前 60日まで				●	g
	715	クリンチャーバスME液剤 移植後15日～	1000倍 1L／10a 50日まで				●	L
		その他 1					●	
		その他 2					●	

分類	番号	農 薬 名	使 用 基 準	チエック	使用日①	使用日②	使用日③	使用日④	使用日⑤
畦畔除草剤	750	ラウンドアップマックスロード 3回以内	200～2000ml／10a 収穫前 1日まで					3回まで	
	751	バスタ液剤 3回以内	500～1000ml／10a 収穫前 7日まで					3回まで	
	752	ダイロンゾル 1回	200～250ml／10a 収穫前 30日まで						
	754	サンフーロン液剤 2回以内	250～1000ml／10a 収穫前 14日まで				2回まで		
	757	ザクサ液剤 3回以内	500～1000L／10a 収穫前 7日まで					3回まで	
	758	24-Dアミン塩 3回以内	1000倍 100L／10a 収穫前 ～30日					3回まで	
		その他 1							
		その他 2							

※農薬取締法を遵守し、使用基準を守って使用して下さい。

「JAの点検により誤使用が発覚した場合、そのコメは『別扱い』とします。」

野菜を作りましょう!!



チャレンジ園芸! チャレンジ収益UP!

集落営農・法人・個人生産者の経営状況や、ほ場の所有状況に応じ、皆様に合った品目をご提案いたします。水稻の作業と重複が少なく取り組みやすい品目で、ぜひ所得UPを目指しましょう。

(例) 10ha 耕作 水稻 7ha 700万円 + 大豆 2ha 50万円 + 園芸 1ha 400万円

JAの推奨品目

ブロッコリー



白ねぎ



丸いも



※その他園芸品目についてもご相談下さい。



Q1 野菜を作ったことがないんやけど作れるかなあ

栽培についての勉強会や現地巡回があり、初めて作付される方も指導いたします。

Q2 機械とかもってないんやけど…

貸出できる機械もあり、初期投資が少なく始められます。

Q3 栽培履歴の書き方がわからんげんけど

部会ごとに栽培指針があり、使える農薬もわかりやすく書いてあります。営農指導員が書き方の指導もします。

○お問い合わせ先

JA白山 営農部 TEL(076)273-5277



育苗 → 畦立て → 定植
→ 追肥・防除(花芽分化) → 収穫

(アブラナ科アブラナ属)

1 ブロッコリーの特徴

○ブロッコリーは、つぼみと若い茎を一緒にたべる葉茎菜類

○春(5~6月収穫)・秋(10~12月収穫)の年2作の作付が可能

○播種時期や品種を変えて、長期間にわたり収穫できる

○収穫適期は短く、ブロッコリーの生育に合わせた作業が必要

○排水対策、連作(根こぶ病)対策が必要



○主な作型

凡例：○播種 ◎定植 □収穫期

月	2			3			4			5			6			7		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
春作	○~○			◎			~ ◎			□ □ □ □ □ □ □ □ □ □								

月	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
秋作	○~			◎ ~						□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □								

2 経営試算

粗収益：280千円

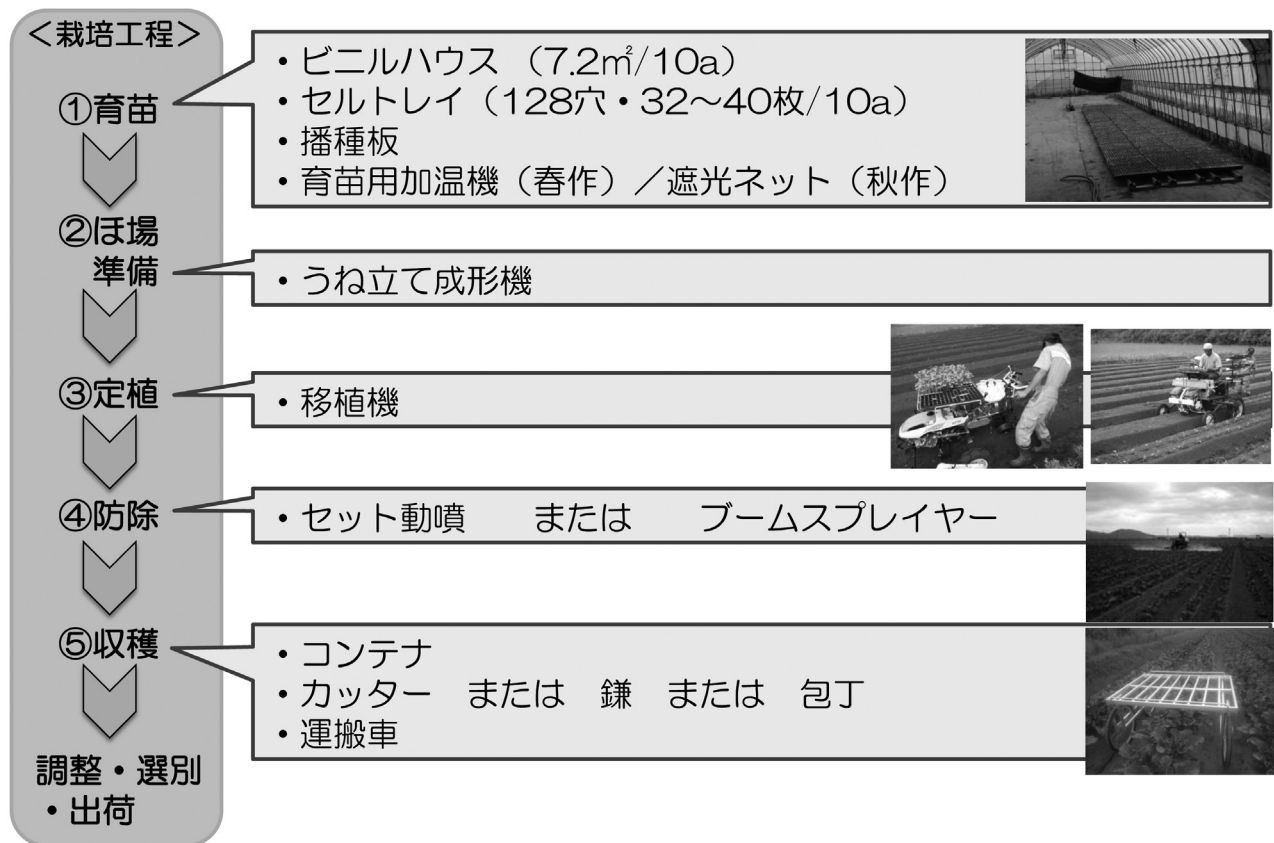
(単収：700kg/10a、単価：400円/kg)

	(円/10a)
種苗費(種子)	15,000
肥料・農薬費	46,000
諸材料費(育苗資材等)	33,000
販売資材・手数料	93,000
合計	187,000

所得 93千円

※ 固定費(減価償却費)、労賃含む

3 必要な機械・設備



4 注意点・導入のポイント

○JA白山では、共同選果体制が整備されており、面積拡大が可能

○県内市場、関西市場での販売実績があり需要が大きい

○播種時期や品種を変えることで、長期間にわたって収穫できる

○年2作（春・5～6月、秋・10～12月）の作付が可能

○収穫は早朝や温度の低い時間帯に行う

○収穫適期が短く、ブロッコリーの生育に合わせた収穫が必要

○排水対策が必須、連作（根こぶ病等）対策が必要

○産地交付金やJAグループの各種助成・事業を受けることができる



育苗 → ほ場耕起 → 定植
→土寄せ・防除 → 収穫

(ネギ属)

1 ねぎの特徴

○白ねぎは土寄せし日光を遮り白くした葉鞘部を食べる

○生育適温15～20℃（発芽適温：15～20℃/最低1℃・最高33℃）

比較的冷涼な気候を好み寒さには強い（-8℃でも凍結枯死しない）が暑さは苦手（夏場は25℃以上で草勢弱まる）

○乾燥に強いが、過湿に弱い

根の酸素要求量は高く、排水不良で生育不良、湛水が続くと枯死する

○栽培適地 黒ぼく土などの壤土か砂壤土（耕土が深く、排水良好）



○主な作型

凡例：○播種 ◎定植 □収穫期

月 作型	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏秋どり	○—○	—◎—◎	—	—	—	—	—	□	—	—	—
秋冬どり	—	○—	○—◎—◎	—	—	—	—	—	□	□	□

2 経営試算

粗収益：690千円

（単収：2,300kg/10a、単価：300円/kg）

	（円/10a）
種苗費（種子）	66,000
肥料・農薬費	75,000
諸材料費（育苗資材等）	5,000
販売資材・手数料	191,830
合計	337,830

所得 352千円

※ 固定費（減価償却費）、労賃含む

3 必要な機械・設備

○個人生産・小規模（10～50a）



①簡易移植機
（ひっぱりくん）



②管理機
（培土機）



③セット動噴
（防除用）



④人力で掘る
（抜き取る）



⑤皮むき機
（ソフトリッサー含む）

＜ねぎの栽培工程＞

ほ場準備 ➡ ①定植 ➡ ②管理 ③防除 ➡ ④収穫・運搬 ➡ ⑤調整・選別 ➡ 出荷

○大規模生産（50a～）



①簡易移植機
（ひっぱりくん）



②乗用管理機
（ハイクリア乗用
管理機）



③ブームス
プレイヤー



④自走式収穫機



⑤根葉切り＋皮
むき機
（ベストロボ）

4 注意点・導入のポイント

○収穫期間が長く、出荷日の調整が可能

○機械化一貫体系による大規模栽培が可能

○栽培は比較的容易だが、収穫・出荷調製作業には労力がかかる
→ ねぎ労働時間340h/10aのうち収穫16%、調製33%
※農林水産省資料（2007年）

○平成25年度から県の野菜価格安定制度に加入しています。
→ H30保証基準額283円/kg（最低基準額189円/kg）
※10～12月出荷の秀優品が対象

○産地交付金やJAグループの各種助成・事業を受けることができる



畦立て→ 種芋定植 → 支柱立て・
つる誘引・通水管理・防除 → 収穫

(ヤマノイモ科ヤマノイモ属)

1 丸いもの特徴

○丸いもは、つる性のいも類

○高温を好み、生育適温 22～23℃

平均気温12℃以上で活動を始め、萌芽するのは20℃以上、

茎葉生長・いも肥大には23℃以上必要

13℃を下回ると茎葉は枯葉し始める

○浅根性のため乾燥害を受けやすい

いも肥大期にはうね間通水等のかん水が必要

○栽培適地 砂壤土（いも肥大期に湿潤となること）

○主な作型

凡例：○播種 ◎定植 □収穫期



月 作型	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋冬どり		○	○	◎	◎						

2 経営試算

粗収益：455千円

(単収：650kg/10a、単価：700円/kg)

	(円/10a)
種苗費（種いも）※1	275,000
肥料・農薬費	73,500
諸材料費（支柱・誘引紐等）	36,000
販売資材・手数料	36,800
合計	421,300

※1：2年目以降は収穫したいも
から種いもを確保するため、
種苗費（種いも代）が不要

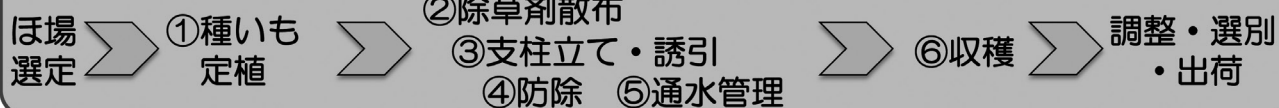
所得 33千円（308千円※1）

※ 固定費（減価償却費）、労賃含む

3 必要な機械・設備



<丸いものの栽培工程>



4 注意点・導入のポイント

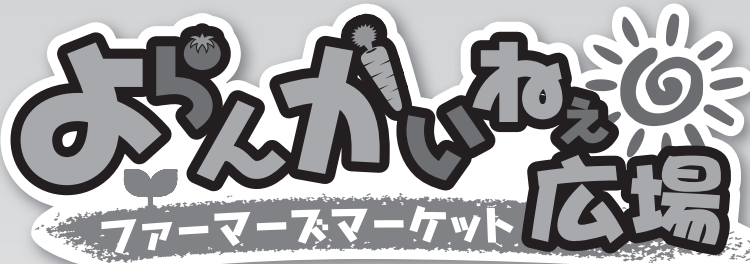
○水稲や大豆作業と比較的作業が重ならず、経営形態（個人、法人、集落営農）や規模に合わせた導入が可能

○冬の贈答用などの安定した需要があり高単価が期待できる

○ほ場の選定が重要。排水・通水管理しやすいことが必要

○除草対策も必要

○初期投資（種苗代）がかかる



出荷者大募集

JA 白山農産物直売所「よらんかいねえ広場」では、新鮮で安全・安心な農産物（野菜、果物、花等）を提供していただける出荷者を募集しています。農業が本職の方も新規就農者の方も、小さな菜園をお持ちの方でも出品できます。地域の特性を活かした「白山農業」の活性化に！直売所を活用した所得向上に！

ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。一人でも多くの方の出荷をお待ちしております。お申し込み・登録、出荷に至るまで詳しい内容は、よらんかいねえ広場ホームページでご紹介しています。



お問合せ

- よらんかいねえ広場
- 営農部

TEL (076) 273-3002 FAX (076) 273-1977
TEL (076) 273-5277 FAX (076) 273-2758

救急車の呼び方

救急車の呼び方



① 119番にダイヤル

② 「救急です!」と第一声

③ 住所と目印を伝える

④ いつ、だれが、どうして、どうなったかを説明

⑤ 自分の名前と連絡先

緊急時の連絡先・手順

ここの
農場名

住 所

担当者

連絡先

1. 被害者の保護(2次被害に注意)／機械等の緊急停止
2. 連絡(場所・状況を説明) ⇒ 対応の指示を仰ぐ
3. 応急処置／被害拡大の防止

事件・交通事故	警察	110
事故・救急・火災	救急・消防	119
救急対応病院		
ガス		
電気		
水道		
資材業者等		
農機具販売店		
行政組織等	保健所：	
	警察署：	
	消防署：	
	普及所：	

3.5

4

4.5

葉色見本

(あくまで簡易的な見本です。葉色版はJAで購入できます。)

【黄化率割合と刈取り適期】



刈始め

80%

刈取り適期

〈黄化率割合〉

90%

刈遅れ

95%



本店 ☎ 272-3333
 営農部 ☎ 273-5277
 // FAX 273-2758
 よらんかいねえ広場 ☎ 273-3002
 本店農機センター ☎ 272-3416

自動車センター ☎ 272-0444
 蝶屋支店 ☎ 278-2315
 つるぎ支店 ☎ 272-1515
 大神支店 ☎ 272-0620
 手取支店 ☎ 255-5001